

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
	(1) 総合医薬学研究科総合医薬学専攻を設置する大学等の現状把握・分析	2
	(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析	2
	(3) 総合医薬学研究科総合医薬学専攻の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等	3
	(4) 学生確保の見通し	5
	(5) 学生確保に向けた具体的な取組状況	11
2	人材需要の動向等社会の養成	12
	(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)	12
	(2) 社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	13

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 総合医薬学研究科総合医薬学専攻を設置する大学等の現状把握・分析

本学では、大学院における人材養成機能の一層の充実・強化のために、令和4年4月に大学院修士課程を全面的に改組し、3研究科（人文社会芸術総合研究科、総合医薬学研究科及び理工学研究科）と文理融合教育を行う持続可能社会創成学環、医学、薬学、理学及び工学の融合教育を行う医薬理工学環を設置した。

現在博士課程においては、大学院医学薬学教育部、大学院理工学教育部及び生命融合科学教育部の3教育部体制としており、教育部の下に設置された専門区分ごとの専攻単位において、最先端の教育・研究を通じた高度な人材の輩出について一定の成果を挙げている。しかし、現在我が国の大学院において育成が求められている「知のプロフェッショナル」たる人材には、複雑化する社会において、自らの「知」の限界を認識し、多様な分野、立場の人々とのコラボレーションにより新たな「知」を創出することや、研究成果の社会実装に当たり倫理的・法制度的・社会的課題に対応していくことなどが求められており、これまで以上に分野横断・融合型教育の実践を通して、社会ニーズに即した人材の育成・輩出が必要であると考えている。

(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

我が国においては、いわゆる"団塊の世代"が75歳以上の後期高齢者の年齢に達することにより、世界史上類を見ない少子・高齢多死社会に突入することが確実視されており、今後も医療の高度化・多様化が更に進展することが期待されている。令和2年3月に閣議決定された「健康・医療戦略」においては、先端的研究開発の推進のために必要な人材の育成・確保に関し、「基礎から臨床研究及び治験の各フェーズ、様々なモダリティ等や疾患領域、さらにはそれらの横断領域等の研究の担い手となる優れた研究者を、若手や女性を含めて育成・確保する」ことなどが求められている。

また、我が国における医療体制が、日々厳しさを増している中で、健康危機管理体制と高い医療水準を確保しつつ、医療スタッフの負担軽減、更には医療安全の向上を図るために、チーム医療の推進もますます求められている。富山県においては、「患者本位の良質かつ適切な医療提供体制の確保」を基本目標とし、地域における医療の質の向上を図ることとしている（富山県医療計画（平成30年3月改定版））他、「多職種連携によるチーム医療の取組みを推進」することを掲げており（富山県地域医療構想（平成29年3月））、多職種連携による質の高い医療の提供を目指している。また、生活習慣病であるがん・心疾患・脳卒中などの慢性疾患や認知症を抱える高齢者が増加し、疾病構造が変化・多様化する中で、医療・ヘルスケアは未病ケア・予防への転換、「治す医療」から「治し支える医療」への転換も求められており、疾患と付き合って暮らしていく者、在宅での医療や見守りを必要とする者、病を抱えながらも住み慣れた自宅での暮らしを支える人材確保が大きな課題となっている。

医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を推進する中で、医師・看護職（保健師、助産師及び看護師）・薬剤師の更なる連携が求められている。さらに、医療には患者に投与する医薬品の存在が欠かせないが、医薬品の製造においても、医学・看護学・薬学の基礎と臨床の往還が重要な視点となっている。また、本学が位置する富山県は、江戸時代から始まる配置薬業から続く国内でも有数の医薬品製造拠点であり「くすりの富山」として全国的に知名度が高い。平成30年6月には、県内大学や本県医薬品産業の振興、それを担う専門人材の育成・確保を図るため、富山大学、富山県立大学、県内企業と県との連携により、「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムを設置しており、同年10月には、国の地方大学・地域産業創生交付金の支援対象として、全国で7件のうちの1つに選ばれている。コンソーシアム設立後、国内外のトップレベル人材の招聘や、世界水準の医薬品の研究開発、東京圏等県外の学生を対象としたサマースクールを実施するなど専門人材の育成・確保等に積極的に取り組み、医薬品産業の振興を図っている。また本学においては令和4年度に先端抗体医薬開発センターを設置しており、抗体取得独自技術の開発とそれを用いた有用抗体の開発を通じて、感染症をはじめとする種々の疾患の診断法や治療法の開発を総合的に推進することを目指している。

上記のとおり、健康・医療に係る博士課程・博士後期課程においては、医療を支える現場の高度専門職業人として、医療分野の研究開発を担う研究者として、また後進を導く教育者として、医療に係る高度な専門知識に加え、多職種連携推進のための関連分野に係る深い知識や職種を超えた深い相互理解、課題発見・解決能力を始めとしたトランスファラブルスキルが求められている。

（3）総合薬学研究科総合薬学専攻の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1）趣旨目的、教育内容

人の健康を直接的に支える「医療」は、医学（医師をはじめとする専門人材）と看護学（看護職をはじめとする専門人材）、薬学（薬剤師や創薬を支える専門人材など）の繋がりの中で発展を続けている。統合的な視野から医療の知識と技術を修得することを目的に、現在本学において設置されている大学院医学薬学教育部では、医学と薬学の連携の重要性を踏まえて医学から薬学にわたる幅広い知識を基盤とした人材育成に早くから取り組み、一定の成果を挙げてきている。しかし、昨今は医療の高度化・複雑化に伴い、専門的な治療や様々な知識・技術を統合した対応、療養生活の質を向上させるための専門的ケアが求められており、特定分野における高い専門性を基盤にしつつも、全体を俯瞰しつつその専門を他の専門と結びつける高度な総合力が必要とされてきている。そのためには、医学と看護学の「医看連携（医学連携）」、臨床薬学と薬科学の「薬薬連携（薬学連携）」、医学・薬学・看護学の「医薬看連携」をさらに深化させることが重要であり、特に「臨床と基礎」を横断した総合的な医療人材を育成することが求められる。今後は医学と薬学の広範な知識を修得するだけでなく、医療を支える各分野の課題解決に至るプロセスを学び、互いに実践していくため、分野の枠組みを超えた高次元の教育課程が必要である。具体的には、課題解決を行うための

研究手法（自然科学系および人文社会系，質的研究も含む）を相互に学ぶとともに，医学・薬学・看護学関連の講義演習科目にて専門的な知識や視点，諸課題を解決するための柔軟な対応力，判断力，表現力を学び，複数分野における指導教員による研究指導を学内留学なども取り入れながら実質的に進めていく。このような教育を実現するためには，専門分野・課程ごとに専攻区分を設け，専攻ごとに研究指導を行う現在の教育体制ではなく，総合的に医療を学ぶ1専攻を組織し，専門分野（医学，薬学，看護学）ごとに学位プログラムを設け，教員と学生が一体となって課題解決に向けた教育を実践していくことが絶対的に必要である。そのために，博士課程において医学薬学教育部を総合医薬学研究科に改組するとともに，総合医薬学専攻の下に「看護科学プログラム」「先端薬科学プログラム」「生命・臨床医学プログラム」「臨床薬学プログラム」の4プログラムを整備する。

2) 定員設定

総合医薬学研究科は，令和4年度に医学薬学教育部を改組して修士課程を設置しており，令和4年度に修士課程に入学した学生が，博士後期課程に進学する令和6年度に博士課程及び博士後期課程を同様に設置することとしている。博士課程及び博士後期課程については，現在の医学薬学教育部博士課程及び博士後期課程に加え，生命融合科学教育部博士課程の改組により設置する研究科であり，入学者の属性についても基本的には改組前の組織とほぼ同じとなることを想定している。そのため，総合医薬学研究科の入学定員は，改組元となる医学薬学教育部博士課程及び博士後期課程並びに生命融合科学教育部博士課程各専攻の入学の実績に加え，a)学生の進学需要，b)附属病院医員・研修医の進学需要，c)企業等の派遣需要を踏まえ，50名（プログラムごとの募集人数は表1）に設定した。

なお，令和6年度に，本研究科と理工学研究科との関係により，研究科等連係課程実施基本組織「医薬理工学環」博士後期課程を設置予定であるが，研究科等連係課程実施基本組織の収容定員は，連係協力研究科等の収容定員の内数とする必要があることから，医薬理工学環に対しては，本研究科から7名の入学定員を拠出する。

表1 総合医薬学研究科総合医薬学専攻 プログラム別の募集人数

プログラム名	募集人数
看護科学プログラム	3
先端薬科学プログラム	6
生命・臨床医学プログラム	30
臨床薬学プログラム	4
医薬理工学環への拠出分	7
総計	50

3) 入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学生納付金については、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」により標準額が定められており、各国立大学法人が一定の範囲内でそれぞれ決定することとなっている。本学は「富山大学における授業料その他の費用に関する規則」【資料1】のとおり、国が定める標準額と同じく授業料年額535,800円、入学料282,000円を設定する。

(4) 学生確保の見通し

1) 学生確保の見通しの調査結果、2) 総合医薬学研究科総合医薬学専攻の分野の動向、3) 競合校の状況、4) 既設専攻等の学生の確保の状況において検討・分析した事項の観点から総合的に判断すると、本研究科の入学定員50名(関係する研究科等連係課程実施基本組織への拠出する入学定員7名を含む)は、充足できる見込みである。

1) 学生確保の見通しの調査結果

a) 学生の進学需要

本研究科が設置された際にストレートで入学することが見込まれる、本学の修士課程の1年次生及び6年制学士課程の5年次生(令和4年12月時点)を中心にアンケートを実施(回答数:196)した【資料2】。

「大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。」との設問に対し、「とても評価できる」又は「すこし評価できる」と回答した者は約61%であった。また、総合医薬学研究科の各プログラムに「ぜひ進学したい」と回答した人数は、9名(先端薬科学プログラム6名、臨床薬学プログラム3名)であった。この他、令和6年4月には一旦就職を希望しているものの、就職後「条件が整えば入学したい」と回答した人数は9名(生命・臨床医学プログラム6名、臨床薬学プログラム3名)であった。

博士(薬科学)を授与する、既存教育組織の薬科学専攻は学内からのストレート進学者が多く、先端薬科学プログラムにおいても同様の傾向がうかがわれる。また、博士(医学)、博士(看護学)、博士(薬学)を授与する既存の大学院教育組織においては、現状入学者の多くは既卒者や留学生など本学からのストレート進学者ではない者が入学してきている。これらの学位を授与するプログラムに関しては、次項の附属病院医員・研修医の進学需要や企業等の派遣需要、既存研究科の実績などを踏まえて、定員確保が可能と考えている。

b) 附属病院医員・研修医の進学需要

本学附属病院における臨床研修医及び医員を対象とし、同様に進学需要に係るアンケートを実施(回答数37)した【資料3】。「大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に

活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。」との設問に対し、「とても評価できる」又は「すこし評価できる」と回答した者は約65%であった。また総合医薬学研究科の各プログラムに「ぜひ進学したい」と回答した人数は、13名（生命・臨床医学プログラム13名）であった。

c) 企業等の派遣需要

本研究科が設置された際に、修了生の輩出が見込まれる医療機関や企業等にアンケートを実施した（医療機関【資料4】回答数：8、企業等【資料5】回答数：90）。アンケートにおいて、「リカレント教育として貴社の社員・職員を大学院博士課程に入学させたいですか」との質問に対して、「ぜひ入学させたい」「どちらかといえば入学させたい」「本人の希望があれば入学させてもよい」と肯定的な回答を行った医療機関・企業等から、本研究科のプログラムを入学希望先とする回答が一定数（医療機関／看護科学プログラム：4、先端薬科学プログラム：1、生命・臨床医学プログラム：1、臨床薬学プログラム：2）（企業等／先端薬科学プログラム：2、生命・臨床医学プログラム：1、臨床薬学プログラム：1）得られている。

c) 企業等の派遣需要のアンケート結果を補足するため、本学既存の大学院教育組織における学外出身者の実績を踏まえた進学需要を検討する。

看護科学プログラム（博士（看護学））の既存教育組織である大学院医学薬学教育部（看護学専攻（博士（看護学））の実績としては、15名（平成30～令和4年度入学者実績：学外11人、学内4人）となっており、学外出身者の平均は2.2人である。4機関から肯定的な回答があった上記企業等の派遣需要のアンケート結果を踏まえると、安定的に外部からの学生確保が期待できる。また、過去5年間の入学者数平均は3.0人と定員を満たしていることも踏まえ、看護科学プログラム全体では3名程度の学生受け入れを確保できると考えられる。

先端薬科学プログラム（博士（薬科学））の既存教育組織である大学院医学薬学教育部（薬科学専攻：博士（薬科学））及び大学院生命融合科学教育部（先端情報システム科学専攻、先端ナノ・バイオ科学専攻：博士（理学・工学・薬科学））の実績としては、65名（平成30～令和4年度入学者実績：学外21人、学内44人）となっており、学外出身者の平均は4.2人である。3機関から肯定的な回答があった上記企業等の派遣需要のアンケート結果を踏まえると、安定的に外部からの学生確保が期待できる。また、学生アンケートでは6名の進学希望者がいることも踏まえ、先端薬科学プログラム全体では6名程度の学生受け入れを確保できると考えられる。

生命・臨床医学プログラム（博士（医学））の既存教育組織である大学院医学薬学教育部（生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻：博士（医学））及び大学院生命融合科学教育部（認知・情動脳科学専攻：博士（医学））の実績としては、学外出身者のうち本学病

院勤務者以外の出身者は16人（令和4年度）である。臨床研修医及び医員対象のアンケート結果では13名の進学希望者がいることに加え、1機関から肯定的な回答があった上記企業等の派遣需要のアンケート結果を踏まえると、生命・臨床医学プログラム全体では30名程度の学生受け入れを確保できると考えられる。

臨床薬学プログラム（博士（薬学））の既存教育組織である大学院医学薬学教育部（薬学専攻：博士（薬学））の実績としては、6名（平成30～令和4年度入学者実績：学外4人、学内2人）となっており、学外出身者の平均は0.8人である。2機関から肯定的な回答があった上記企業等の派遣需要のアンケート結果を踏まえると、定期的に外部からの学生確保が期待できる。また、学生アンケートでは3名の進学希望者がいることも踏まえ、臨床薬学プログラム全体では4名程度の学生受け入れを確保できると考えられる。

2) 総合医薬学研究科総合医薬学専攻の分野の動向

医療の分野に関しては、その高度化・複雑化に伴い、専門的な治療や様々な知識・技術を統合した対応、療養生活の質を向上させるための専門的ケアが求められており、特定分野における高い専門性を基盤にしつつも、全体を俯瞰しつつその専門を他の専門と結びつける高度な総合力が必要とされてきている。総合医薬学研究科は、同一キャンパスに医学・薬学・看護学を学ぶ場が集約するメリットを生かし、医学・薬学・薬科学・看護学という医療を総合的に学ぶことを可能とする特徴ある教育課程を構築する。本教育課程は全国的にも類を見ない内容であるが、本学に先行して大学院博士課程レベルで医薬連携の深化を目指した大学院も存在する。

我が国においては、千葉大学が平成13年度に全人的視野に立った医療従事者、医学・薬学両方の知識を持った専門家や先端的生命健康科学に精通する研究者等を教育・育成する目的で、従来の医学研究科と薬学研究科を改組し、全国で初めての医学・薬学融合型大学院教育組織として「大学院医学薬学府」を設置している。主たる専攻である先端医学薬学専攻においては、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としており、医学や歯学、薬学を専門とした6年制学部の卒業者を中心に受け入れ、また修了者には、取得単位と学位論文の内容により、博士（医学）又は博士（薬学）のいずれかの学位が授与される。当該専攻においては、医学薬学研究序説・生命倫理学特論などの共通基盤科目を踏まえ、各専門科目と共に、医薬連携の系統講義科目や展開講義科目（例：がんゲノム医療等）などの教育が展開されている。

また、近年医療系においては学修者主体の学びを保証する「学位プログラム」を大学院における教育研究の軸に据え、従来型の研究領域の枠組みを超えた幅広い専門領域の教員が柔軟に協働して教育研究にあたることを目指す動きが活発化している。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（博士課程）においては、令和5年4月からこれまでの4専攻を医歯薬学専攻の1専攻に改組するとともに、7つの学位プログラムを設けている。

千葉大学大学院医学薬学府（博士課程）先端医学薬学専攻においては、入学定員 108 人に対し、令和 4 年 4 月入学者のみで 109 人が入学しており、入学定員を充足している。また新組織に改組前の岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（博士課程・博士後期課程）においても、入学定員 137 人に対し、令和 2 年 10 月及び令和 3 年 4 月の入学者数は 135 人と、入学定員をほぼ充足しており、当該分野に対して学生の進学意欲は強いものと判断できる。

3) 競合校の状況

総合医薬学研究科は、上述のとおり医学・薬学・薬科学・看護学という医療を総合的に学ぶことを可能とする全国でも類を見ない教育課程を構築することとしており、本教育課程は全国的にも類を見ない内容であることから厳密には競合校は存在しないが、一部教育目的として目指すものを同じくする、上述の千葉大学大学院医学薬学府（博士課程）先端医学薬学専攻や令和 5 年に改組予定の岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医歯薬学専攻を目指す学生が、入学者としては類似の教育課程に映ると考えられ、競合校として挙げられる。ただし岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医歯薬学専攻における志願状況等は現段階で未定であることから、千葉大学大学院医学薬学府（博士課程）先端医学薬学専攻を競合校候補として検討した。本学の総合医薬学研究科総合医薬学専攻は、千葉大学の医学薬学府（博士課程）先端医学薬学専攻と専攻名称に共通点がある他、医学・薬学融合型大学院教育組織として修了後は博士（医学）又は博士（薬学）を授与している。総合医薬学専攻では博士（医学）・博士（薬学）・博士（薬科学）・博士（看護学）を授与し、授与学位は本学の方が多いため、複数分野から授与学位を決定することについても共通点を有している。

千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻（博士課程）における令和 4 年度大学院入学者選抜状況は、表 2 のとおりである。

表 2 千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻（博士課程）
令和 4 年度大学院入学者選抜状況

入学定員	区分	志願者数			合格者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
108	留学生以外	106	53	159	73	34	107	72	34	106
	私費外国人留学生	8	3	11	2	1	3	2	1	3
	専攻 計	114	56	170	75	35	110	74	35	109

千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻（博士課程）においては、4 月入学者に関し、入学定員 108 人に対し 109 人が入学しており、定員充足率（入学者数：109 人/入学定員：108 人）は約 101%と充足している。また、志願倍率（志願者数：170 人/入学者数：109 人）も約 1.56 倍を確保している。

上述のとおり、競合校と考えられる大学院においては、当該分野の学生を充足させることができおり、当該分野における学生及び社会のニーズが十分に存在すると考えられる。また、志願者には一定数の不合格者もあり、当該学生としては他大学への受験機会も検討する者と考えられる。総合医薬学研究科の特徴である、医学・薬学・薬科学・看護学という医療を総合的に学ぶことを可能とする全国でも類を見ない特徴ある教育課程を展開、アピールして行くことにより、学生確保も十分に可能であると考えられる。

4) 既設専攻等の学生の確保の状況

本研究科の改組元である医学薬学教育部（博士課程／博士後期課程）及び生命融合科学教育部（博士課程）における過去5年間の入学志願状況は、資料6のとおりである。医学薬学教育部（博士課程、博士後期課程）の入学者については、平成30年度から令和4年度の5年間の平均で約35.0名（入学定員40名）である。このうち、学外からの入学者の実績は、約26.2名であり、うち留学生は約6.8名、既卒・社会人は約19.0名、他大学からのストレート進学は約0.4名である。また、令和4年5月1日現在の収容定員充足率は、約101%（在籍者数151名/収容定員149名）となっている。また、生命融合科学教育部（博士課程）の入学者については、平成30年度から令和4年度の5年間の平均で約9.6名（入学定員17名）である。このうち、学外からの入学者の実績は、約6.4名であり、うち留学生は約3.8名、既卒・社会人は約2.6名である。また、令和4年5月1日現在の収容定員充足率は、約58%（在籍者数35名/収容定員60名）となっている。

現行の医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）の入学定員40名と、生命融合科学教育部（博士課程）における4年制博士課程（認知・情動脳科学専攻）の入学定員9名に加え、進学元の修士課程における学生の分野比率を踏まえ、3年制博士課程（生体情報システム科学専攻・先端ナノ・バイオ科学専攻）の入学定員8名のうち1名程度が、総合医薬学研究科（博士課程・博士後期課程）に進学する対象者と考えられる。

医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）の平均入学者数は約35.0名、生命融合科学教育部（博士課程）においては、4年制（認知・情動脳科学専攻）は約6.4名、3年制（生体情報システム科学専攻・先端ナノ・バイオ科学専攻）は学生の比率を考えて約0.4名（ $(1.6名+1.6名) \times 1/8$ ）となり、総合医薬学研究科（博士課程・博士後期課程）に進学すると想定される人数は、合計約41.8名となる。平均としては若干定員を満たしていない状況にあるが、医学薬学教育部 生命・臨床医学専攻及び東西統合医学専攻では、博士課程担当教授などの定年退職時期が重なり、近年受け入れ体制の事由から入学者が減少していたと考えられる。今後博士（医学）を授与する課程を、総合医薬学専攻の1専攻（生命・臨床医学プログラム）に再編することで、充実した教育体制を整備できると考えている。また、定年退職となった講座の教授を迅速に採用することに加え、社会から求められているニーズに応えるため、令和2年以降に「リハビリテーション医学」「形成再建外科・美容外科」「心理学」「医学教育学」「計算創薬・数理医学」の5つの分野を新たに立ち上げ、専

任の教授を配置し体制を順次強化した。今後本格的な大学院博士課程学生への教育を推進し、県内の専門人材のレベル向上を目指していくこととしており、社会ニーズに応えるため5つの各講座において各1人程度の進学者増を見込んでいる。

また、医学薬学教育部 薬学専攻においては、入学定員4人のところ、直近5年間(H29～R4)平均において1人と未充足の状態が見られる。この理由として、近年薬剤師資格を有する者への採用需要が高く、また好待遇が望めることもあり、6年制学部卒業後に就職を選択する学生が非常に多いということが考えられる。一方で現在臨床薬学分野の高度化により、医療機関、製薬関連企業、アカデミック関連分野からも博士課程人材へのニーズは高い。病院の薬剤部長といったマネジメントを担う人材を募集する際は、博士の学位を求められる場合も多くあり、ステップアップを目指す薬剤師の博士課程進学ニーズは今後も一定数存在することが考えられる。また、医学・薬学の高度化・専門化に伴い、近年『特定の専門領域の疾患と薬物療法についての十分な知識と技術ならびに経験を活かし、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療において質の高い薬剤師業務を実践するとともに、その領域で指導的役割を果たし、研究活動に行うことができる能力を有する者』として「専門薬剤師」の認定を受ける者が増えてきている。令和2年から、専門薬剤師制度が一新され、専門薬剤師の認定を受ける際は、当該専門分野に係る学術論文を1～2編（筆頭著者含む）以上有すること及び学会での発表を要件とされており、論文執筆や学会発表を集中的に行うことのできる博士課程への進学ニーズは高まってきている。また、チーム医療を学ぶことのできる教育課程として当該研究科は存在感を発揮できるものと考えられる。富山県内における専門薬剤師及びその養成に必要な研修を行う指導者資格である指導薬剤師の資格保有者は、いまだ少ない（表3）こともあり、現在勤務している薬剤師の進学に対する潜在的ニーズは一定数存在することが期待される。

表3 富山県内専門薬剤師及び指導薬剤師数一覧

（出典：日本医療薬学会 2022年最新版の名簿）

	医療薬学	がん	薬物療法	地域薬学 ケア	地域薬学ケ ア（がん）
専門薬剤師	12人	9人	1人	0人	2人
指導薬剤師	8人	4人	0人	—	—

また、薬学部は臨床薬学教育の充実を目的とし、令和3年4月1日に「実践薬学研究室」を、令和4年11月1日に「臨床薬品作用学研究室」を新たに設置し、教授を採用しており、これらの研究室において今後本格的な大学院博士課程学生への教育を推進することとしている。また、実践薬学研究室は県内薬剤師のリカレント教育にも注力しており、リカレント教育を契機として博士課程入学を促すことにより、県内の専門人材のレベル向上を目指していくこととしている。加えて、今回の1専攻4プログラム化に伴い、附属病院や臨床研究支援センターなどと共同して、多職種連携や創薬/知財/臨床研究のプロセスを学

ぶなど社会実装につながる知識や技術を持った人材の養成を行うなど、実践的なカリキュラムとするほか、オンデマンド教育やオンライン教育を充実させていくことで、社会人大学院生の確保に努めていくこととしている。これら対応策により、令和5年4月入学に係る入試においては、社会人2名を含む計4人の合格が公表されており、今後も引き続き定員確保の取組を行うことで、3名程度の進学増を見込んでいる。

また、本学においては科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業に加え、令和3年9月に採択されたJSTのSPRING事業（次世代研究者挑戦的研究プログラム）における支援として、生活費相当額の奨学金支給を開始しており、これまで経済的な理由で博士課程進学をためらっていた学生を中心に進学の動きが見られている。については2～3名程度の学生確保を見込んでいる。

また、今後の安定した定員確保に向けた対応として、令和4年度から薬学部薬学科の学生定員を55人から70人に増員するとともに、新たに総合型選抜入試を新設し、学士課程入学段階から研究者に強い興味を持ち博士課程への進学を志す学生を選抜している。実際に、学生募集要項の出願資格及び出願要件において、「薬学研究に強い意欲を持ち、博士（薬学）の学位を取得して、社会的リーダーとして活躍できる、薬剤師の資格を持った薬学研究者を志す者」と記し、進学意欲の高い者を選抜している。令和4年度は9人の学生を受け入れ、博士課程進学へ繋げるべく、早期から研究への興味関心の涵養を促している。

これら現行の教育組織における実績と対策を踏まえ、総合医薬学研究科総合医薬学専攻の入学定員としては、医薬理工学環への拠出分を含め、50人とすることが適切であると判断した。

（5）学生確保に向けた具体的な取組状況

本研究科は、学生確保に向け、養成する人材像や当該人材を育成するための特徴的なカリキュラム等を紹介すべく、研究科としての公式ウェブサイトにより広報活動を行うほか、パンフレットを作成し、学内外に配布する。また、大学院進学・入学説明会を、会場形式・オンライン形式の両方で開催し、積極的に広報するとともに、本研究科の魅力を積極的にアピールする。

また、学生にとって大学院在籍時における経済的支援の有無は、進路選択の大きな要因となりうる。現在、本学では「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」やJSTの「SPRING事業（次世代研究者挑戦的研究プログラム）」採択を受け、令和4年度現在、本研究科に関連する医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）及び生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻（博士課程）に在籍する学生のうち審査を経た27人に対し、生活費相当額及び研究費の支給を行っている。博士課程学生への支援事業に関し、十分な周知活動を行った結果、学生の認知度は高い。令和4年度の博士課程1年生に対しても10名に支援を行っており、学生の博士課程進学に対するインセンティブとして働いていると考え

られる。引き続き学生への支援を継続していくこととしている。

なお、本学附属病院においては、令和4年4月1日から、附属病院に勤務する医療従事者のうち本学大学院修士課程に入学者に対し、独自財源により1人当たり30万円の支援金を給付している。本研究科総合医薬学専攻への進学可能性を有する、修士課程先端医科学プログラムや看護科学プログラム入学者も支援対象となっており、博士課程進学者のすそ野を広げることが期待されている。

2 人材需要の動向等社会の養成

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。各プログラムの養成する人材像については次のとおりである。

①看護科学プログラム

豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。

②先端薬科学プログラム

薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成する。

③生命・臨床医学プログラム

疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、医学／薬学／看護学の連携を理解した世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。

④臨床薬学プログラム

臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、

課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成する。

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 医学、薬学及び看護学に関する国際的状況・動向

①看護科学プログラム

看護職は、「だれひとり取り残さない」という基本理念の下、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた世界的な取り組みを実現する上で、不可欠な存在である。看護職は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、メンタルヘルスと非感染性疾患、緊急事態への備えと対応、患者の安全、人間中心の包括ケアの提供など、保健医療の様々な優先事項に関連する国及び世界の目標実現に向けて、中心的な貢献を果たしている。

そしてSDGsや世界的な保健医療の課題に立ち向かっていくためには、看護人材の貢献と多職種からなる医療チーム内での看護人材の役割を最大化するための協調的かつ継続的な努力が求められている。2020年4月にWHOから発行された「State of the World's Nursing Report – 2020」においては、「教育、保健、雇用、ジェンダーなどの分野における看護人材のリーダーシップ、財務管理、運営能力の構築」や、「看護人材の教育、適正な労働、配置、実践、生産性、法規、定着に必要な政策導入による、看護職への投資の最大」などの取り組みを加速させていくことについて提言されている。

日本を含めた先進国では人々の往来が活発化して、その国境という垣根がなくなりつつあり、これからの国際的なニーズとしては海外で医療貢献する看護師育成に加えて、在留外国人あるいは訪日外国人への医療提供も必須であり、その人材を輩出していかなければならない。グローバル社会における看護職の人数不足ということだけでなく、世界中で活躍している高度実践看護師のような、質的な意味で指導的な看護師が必要であり、すなわち高度な看護実践に加えて、異文化を理解し、指導的な立場で活躍できる看護人材・実践的研究者の育成が急務である。ここに大学院での看護教育の推進が社会的に求められている。

②先端薬科学プログラム

医薬品産業の発展は人類の健康を支えており、多くの疾患の治療法、治療満足度がこの数十年で劇的に改善したが、医薬品開発の進展がそれに果たした役割は大きい。令和3年において世界の医薬品市場は1兆4235億ドルに達しており、市場規模は過去5年で年平均5.1%程度拡大している。令和8年には最大で1兆7800億ドルに達する見込みであり、がんや免疫疾患、糖尿病などの領域において、特に高い成長が見込まれている。現在は従来の低分子医薬品に加え、抗体医薬品や核酸医薬品などのバイオ医薬品の開発が進展し、加えて細胞医薬、再生治療など、モダリティの多様化が進んでいる。また、未だ治療法が確立されていない疾病に対する医薬品開発のニーズも高まっている。さらに、新型コロナウイルスの世界規模での蔓延は世界経済への打撃と社会不安をもたらしており、世界の製

薬業界は治療薬とワクチンの開発に注力している。

このような国際的状況・動向に対応する上で、保健医療全般に渡る知識と柔軟な対応力を有し、創薬科学に関する学識を基盤として、医薬品創出を目指した研究・開発を進める能力を有する人材を養成することが薬科学研究に求められている。

③生命・臨床医学プログラム

医学教育の国際的状況・動向として、世界標準的な医学教育を実施するための臨床教育を重視した国際認証制度が進められている。特に臨床医学分野ではエビデンスに基づいた診断と治療が求められ、最新の医学情報を取得理解し、臨床現場で使用する必要がある。また疫学等に基づく予防医学の重要性が明らかとなっており、さらに疾患に対する早期診断と早期介入が治療効果を高めるために有効である。従って、これらの動向に対応して先端的な医学知識を理解し、臨床現場で活かす人材育成が求められているとともに、エビデンスに基づく新たな診断治療法を開発し、トランスレーショナルリサーチを進める能力を持つ人材を養成することが医科学研究に求められている。

④臨床薬学プログラム

医療の高度化・多様化が進むに併せ、薬剤師にも高度かつ多様な役割が求められてきている。特に、世界保健機関（WHO）において患者の保健およびQOL（生活の質）の向上のため、明確な治療効果を達成するとの目標をもって、薬物療法を施す際の、薬剤師の姿勢・行動、関与、関心、倫理、機能、知識・責務ならびに技能に焦点を当てるものであり、薬剤師行動の中心に患者の利益を据える行動哲学であると定義された「ファーマシューティカル・ケア」の概念が世界的に広がりを見せている。薬剤師の活動範囲、責任範囲はますます広がっており、疾病を深く理解し患者に寄り添うことができる、高度な社会的要請に応えることのできる能力を有する薬剤師に対する社会・患者の期待は、ますます高まってきている。

2) 医学、薬学及び看護学に関するわが国における状況

①看護科学プログラム

我が国においては、少子・高齢多死社会を迎え、生活習慣病であるがん・心疾患・脳卒中などの慢性疾患や認知症を抱える高齢者が増加し、疾病構造が変化・多様化している。そのため医療・ヘルスケアは未病ケア・予防への転換を迎えている一方、「治す医療」から「治し支える医療」への転換も求められている。病気の治療を目指す急性疾患よりも慢性疾患が増え、疾患と付き合っ暮らしていく者、在宅での医療や見守りを必要とする者、このような病を抱えながらも住み慣れた自宅での暮らしを支える人材確保が大きな課題となっている。

また妊産婦・子どもの医療についても、特定妊婦・産後うつや、NICU等に長期間入院した後も医療的ケアが必要な障害児（医療的ケア児）が増加している。これまで家庭で

担われていた育児・介護が、社会の責任において対応できるシステムの構築が求められる。そのため、医療・介護・療育スタッフの不足がますます顕著となる一方で、医療の高度化・複雑化、社会ニーズの多様化に伴い、専門的な治療や様々な知識を統合した対応、療養生活の質を向上させるための専門的ケアなどを実践することができる人材の育成が急務である。

②先端薬科学プログラム

令和2年3月に閣議決定された「健康・医療戦略」においては、健康長寿社会の形成に資する新産業創出及び国際展開の促進等に係る基本方針として、「製薬産業、医療機器産業、介護福祉機器産業やその他公的保険外の様々なヘルスケアサービス関連産業が一体となり、実用化まで含めて新たな付加価値を創出できる、総合的な健康・医療関連産業の振興を目指す。」こととしており、医療現場のニーズに応える医薬品の実用化を推進するため、新たなモダリティの創出から各モダリティのデザイン、最適化、活性評価、有効性・安全性評価手法、製造技術等の研究開発まで、モダリティに関する基盤的な研究開発を行うことを目指した「医薬品プロジェクト」を推進することとしている。

③生命・臨床医学プログラム

わが国においては、急速な高齢化の進展に伴い、疾病構造が生活習慣病や認知症中心となり、在宅を含め長期の療養生活を送る中、医療の質の向上が求められている。また、重症や難治性疾患の患者に高度な医療を提供することへの期待が一層高まっており、多様な難治性疾患への対応にも、大学病院や保健系大学院が中核となり、最新の科学の知見をも活用した診断・治療方法を開発・提供して、我が国の医療をリードすることが求められている。わが国の将来の保健・医療を担う人材育成を行うことが急務である。

④臨床薬学プログラム

患者のQOLを改善するため、また、医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、個々の患者の薬学的管理による最適な処方提案や副作用の防止・重篤化の回避を始め、抗がん薬の無菌調製や医薬品情報の収集・提供等、薬剤師には高度かつ多様な役割が求められており、医療人の一員として薬剤師に対する社会・患者の期待は、ますます高まってきた。

また、超高齢社会は医療環境を激変させ、病院の機能分化を急速に進展させている。わが国においては、これまで以上に医療連携の必要性が高まるとともに、「地域包括ケアシステム」の構築が急がれている。令和7年までに全ての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指し、薬剤師業務については従来の対物業務から、対人業務へのシフトが求められるなど大きな変革期を迎えており、平成28年10月からは、「健康サポート薬局」が、令和3年8月からは「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」という新しい機能別薬局の認定制度が開始するなど、医療と健康を支える薬局、そして高度な社会的要

請に応えることのできる能力を有する薬剤師に対する社会・患者の期待は、ますます高まってきている。

3) 医学、薬学及び看護学に関する社会的ニーズ

本研究科が設置された際に、修了生の輩出が見込まれる医療機関や企業等にアンケートを実施(回答数:97)した【資料4・5】。アンケートにおいて、本研究科への評価は以下のとおりであり、本研究科への高いニーズが伺える。

【富山大学大学院博士課程(主に医療系大学院)に関するアンケート(資料4)】

対象:富山県内公的病院(27機関)

回答数:8

○大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。

→「とても評価できる:4」又は「すこし評価できる:3」と回答した病院は7件(約88%)と約9割が評価できると回答しており、本研究科への高い期待を有している。

○大学院総合医薬学研究科では、高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ専門職医療人や高度専門職業人を育成するという目的を掲げています。そのような人材を養成することは評価できますか。

→「とても評価できる:5」又は「すこし評価できる:3」と回答した病院は8件と全ての病院において評価できると回答しており、本学研究科への高い期待を有している。

○大学院総合医薬学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。

→「積極的に採用したい:4」又は「どちらかといえば採用したい:1」と回答した企業は5件と(約63%)と6割以上が評価できると回答しており、本研究科への高い期待を有している。

【富山大学大学院博士課程(主に理系大学院)に関するアンケート(資料5)】

対象:過去5年間に富山大学大学院修了者の就職実績がある企業(513社・機関)

回答数:90

○大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。

→「とても評価できる:38」又は「すこし評価できる:20」と回答した企業は58件(約64%)と6割以上が評価できると回答しており、本研究科への高い期待を有している。

○大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。

→「とても評価できる：37」又は「すこし評価できる：20」と回答した企業は57件（約63%）と6割以上が評価できると回答しており、本研究科への高い期待を有している。

○大学院総合医薬学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。

→「積極的に採用したい：14」又は「すこし評価できる：17」と回答した企業は31件（約35%）と調査の対象企業（513社、資料5）には理工系学生の就職実績企業が多数を占めるにも関わらず本研究科に高い期待が寄せられていると考えられる。

また、本研究科の関連教育組織である「大学院医学薬学教育部」及び「大学院生命融合科学教育部」（博士課程／博士後期課程）の修了者は、これまで国内外の機関に就職している実績がある。

直近5年間（H29.3～R4.3）における両教育部の修了者は192人であり、そのうち大学や研究所等の教育、学術研究等の分野への就職者が63人と全体の33%を占めている。加えて病院を中心とした医療・福祉分野への就職者が80名（42%）、製薬企業への就職者が12名（6%）、製造業等企業への就職者が18名（9%）、進路不明者（帰国等により詳細不明の者を含む）が19名（10%）となっている【資料7】。

また、直近5年間（H29.3～R4.3）における修了者のうち、外国人留学生は62人であり、そのうち大学や研究所等の教育、学術研究等の分野への就職者が36人と全体の58%を占めている。加えて病院を中心とした医療福祉分野への就職者が5名（8%）、製薬企業への就職者が2名（3%）、製造業等企業への就職者が2名（3%）、進路不明者（帰国等により詳細不明の者を含む）が17名（27%）となっている【資料8】。

一部留学生の帰国により就職状況の詳細が未定となっている部分はあるものの、博士課程修了後は、その専門性を生かしてほぼ全ての学生が就職し、各分野において活躍しており、改組後の総合医薬学研究科においても、同様に教育、学術研究等分野、医療・福祉分野、製薬企業を中心に受け入れニーズがあると想定される。

4) 関係業界との連携体制

①看護科学プログラム

これまでの学部・大学院における看護教育のための実習やリカレント教育を通じて、地域の関連教育病院をはじめ保健所などとは連携が取れており、富山県看護協会を通じて全県下の医療施設との連携体制は十分に構築されている。

②先端薬科学プログラム

平成30年6月には、県内大学や本県医薬品産業の振興、それを担う専門人材の育成・確保を図るため、富山大学、富山県立大学、県内企業と県との連携により、「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムが設置されている。コンソーシアムを活用し、県内製薬企業と本学の共同研究についても今後ますます活発化させていくこととしている。

本プログラムでは創薬開発及び研究の実践を身に付けるため、企業・研究機関での長期インターンシップとして「先端薬科学インターンシップ」を実施することとしており、インターンシップ実施等のため、富山県内の製薬企業、また業界団体である富山県薬業連合会と連携を深めている。

③生命・臨床医学プログラム

本プログラムは、医学部出身の医師を対象に医学の研究指導を行い、医療専門職のスキルアップ、医薬看連携の構築、医学研究開発者の育成を目的としている。本学には大学附属病院があり、関連教育病院等との医薬看の連携体制が構築されている。現在も実施している超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）では、国公立の6大学による県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指すとともに、がんゲノム医療、小児がん、希少がん、AYA（Adolescent and Young Adult）世代や高齢者等のライフステージに応じたケアに対応できる医療従事者を養成しており、北信4県のがん拠点病院などの医療機関、医師会、行政、患者会とも連携して活動を進めている実績がある。本体制を活かしながらより一層の環境強化に努めていく。

④臨床薬学プログラム

これまでの学部・大学院における臨床薬学教育のための実習やリカレント教育を通じて、地域の関連教育病院や薬局との連携は十分に取れている。実習に際しては、富山県薬剤師会や富山県病院薬剤師会とも協力体制を構築している。また、本プログラムでは創薬開発及び研究の実践を身に付けるため、企業・研究機関での長期インターンシップとして「臨床薬学インターンシップ」を実施することとしており、インターンシップ実施等のため、富山県内の製薬企業やPMDAなどの機関とも連携を深めている。

資料目次

(学生の確保の見通し等を記載した書類)

資料 1	富山大学における授業料その他の費用に関する規則……………	002
資料 2	富山大学大学院博士課程に関する学生アンケート……………	009
資料 3	富山大学大学院博士課程に関するアンケート（富山大学附属病院 医員・研修医）……………	037
資料 4	富山大学大学院博士課程（主に医療系大学院）に関するアンケート……………	056
資料 5	富山大学大学院博士課程（主に理系大学院）に関するアンケート……………	077
資料 6	医学薬学教育部（博士課程／博士後期課程）及び生命融合科学教育部 （博士課程）における過去 5 年間の入学志願状況……………	110
資料 7	修了後の進路状況……………	114
資料 8	外国人留学生（博士課程・博士後期課程）における修了後の進路状況…	115

富山大学における授業料その他の費用に関する規則

平成17年10月1日制定	平成18年4月1日改正
平成18年9月21日改正	平成19年4月1日改正
平成20年4月1日改正	平成21年4月1日改正
平成22年4月1日改正	平成27年4月1日改正
平成29年7月11日改正	令和元年9月24日改正
令和2年3月24日改正	令和2年7月1日改正
令和4年3月30日改正	令和4年9月29日改正

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学（以下「本学」という。）における授業料その他の費用に関し、他の規則に別段の定めのあるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(授業料，入学料及び検定料の額)

第2条 本学において徴収する授業料（幼稚園にあつては、保育料。以下同じ。）の年額，入学料（幼稚園にあつては、入園料。以下同じ。）及び入学等に係る検定料は、次の表のとおりとする。

区分		授業料（年額）	入学料	検定料
大学の学部		535,800円	282,000円	17,000円
大学の夜間において授業を行う学部		267,900円	141,000円	10,000円
大学院の研究科，教育部及び学環		535,800円	282,000円	30,000円
転入学 編入学 再入学	大学の学部	535,800円	282,000円	30,000円
	大学院の研究科，教育部及び学環			
	大学の夜間において授業を行う学部	267,900円	141,000円	18,000円
研究生		（月額）29,700円	84,600円	9,800円
科目等履修生		（1単位）14,800円	28,200円	9,800円
特別聴講学生		（1単位）14,800円	—	—
特別研究学生		（月額）29,700円	—	—
幼稚園		73,200円	31,300円	1,600円
特別支援学校の高等部		4,800円	2,000円	2,500円

2 本学に附属して設置される小学校，中学校並びに特別支援学校の小学部及び中学部の入学料は，これを徴収しないものとする。

3 小学校及び中学校並びに特別支援学校の小学部及び中学部において，入学を許可するための試験，健康診断，書面その他による選考等を行った場合に徴収する検定料の額は，次の表のとおりとする。

区分	検定料
小学校	3,300円
中学校	5,000円
特別支援学校の小学部	1,000円
特別支援学校の中学部	1,500円

- 4 大学の学部において、出願書類等による選抜（学校推薦型選抜及び総合型選抜等において第1次選考として書類審査等を行う場合を含む。以下「第1段階選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下「第2段階選抜」という。）を行う場合及び個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願資格のない者（以下「個別学力検査出願無資格者」という。）であることが判明した場合の検定料は、第1項の規定にかかわらず、次の表の学部等の区分に応じ、第1段階選抜及び個別学力検査出願無資格者にあつては同表の中欄に掲げる額を、第2段階選抜にあつては同表の右欄に掲げる額のとおりとする。

区分	第1段階選抜	第2段階選抜
	個別学力検査出願無資格者	
大学の学部	4,000円	13,000円
大学の夜間において授業を行う学部	2,200円	7,800円

- 5 幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校において、抽選による選考等を行い、その合格者に限り試験、健康診断、書面その他による選考等（以下この項において「試験等」という。）を行う場合に係る検定料は、第1項及び第3項の規定にかかわらず、次の表の学校等の区分に応じ、抽選による選考等にあつては、同表の中欄に掲げる額を、試験等にあつては、同表の右欄に掲げる額のとおりとする。

区分	抽選による選考等	試験等
幼稚園	700円	900円
小学校	1,100円	2,200円
中学校	1,300円	3,700円
特別支援学校の小学部	500円	500円
特別支援学校の中学部	600円	900円
特別支援学校の高等部	700円	1,800円

- 6 幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校の転入学に係る入学料及び検定料は、次の表のとおりとする。

区分	入学料	検定料
幼稚園	31,300円	1,600円
小学校	—	3,300円
中学校	—	5,000円
特別支援学校の小学部	—	1,000円
特別支援学校の中学部	—	1,500円
特別支援学校の高等部	2,000円	2,500円

（長期履修に係る授業料）

第3条 学則第62条に規定する修業年限及び大学院学則第25条に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して卒業又は修了することを認められた者から徴収する授業料の年額は、当該在学を認められた期間（以下「長期履修期間」という。）に限り、前条第1項に規定する授業料の年額に修業年限又は標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修期間の年数で除した額（その額に十円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。）とする。

2 学部及び大学院研究科（教育部及び学環を含む。以下同じ。）において長期履修期間を短縮する変更が認められた場合の授業料の額は、初年度から変更後の長期履修期間により前項の規定に従い算出した額とし、変更前の授業料の額との差額については、長期履修期間を変更した最初の学期にそれを徴収する。

3 学部及び大学院研究科において長期履修期間の延長が認められた場合の授業料の額は、変更後の長期履修期間により第1項の規定に従い算出した額とし、既に履修した期間の授業料の額との差額については、その調整は行わない。

4 長期履修期間を超えてなお在学する者の授業料の額は、前条第1項に定める額とする。
（授業料の徴収方法等）

第4条 各年度に係る授業料の徴収は、当該年度において、学期その他の期間に区分して行うことを原則とする。ただし、学生又は生徒等の申出があったときは、一括して徴収することができる。

2 前項の規定にかかわらず、入学年度に係る授業料について、入学を許可される者の申出があったときは、入学年度の前年度において入学を許可するときにその一部又は全部を徴収することができる。

第5条 当該年度における在学期間が12月に満たない者の授業料は、授業料の年額の12分の1に相当する額に在学する月数（1月未満の端数があるときは、これを1月とする。）を乗じて得た額を徴収することを原則とする。

（入学料の徴収方法）

第6条 入学料は、入学を許可するときに徴収することを原則とする。

（検定料の徴収方法）

第7条 検定料は、入学、転入学、編入学又は再入学の出願（第2条第3項、第4項及び第5項に規定する場合を含む。）を受理するときに徴収することを原則とする。

（寄宿料の額等）

第8条 寄宿料の月額は、次の表の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる額のとおりとする。

区分		寄宿料（月額）
新樹寮	S I	13,000円
	S II	18,000円
	D I	23,000円
五福国際交流会館	単身室	5,900円
	夫婦室	9,500円
	家族室	14,200円
杉谷国際交流会館	A室 世帯用（60㎡以上）	14,200円

	B室 世帯用 (50~60㎡)	11,900円
	C室 単身用 (25㎡以上)	5,900円

備考：新樹寮は、上記寄宿料のほか、維持管理費（共益費）月額2,000円を徴収する。

2 寄宿料は、寄宿舎に入居した日の属する月から退居する日の属する月まで、毎月その月の分を徴収することを原則とする。ただし、休業期間中の分は、休業期間前に徴収するものとする。

3 前項の規定にかかわらず、学生の申出又は承諾があったときは、その申出又は承諾があった月分の寄宿料を併せて徴収することができる。

第8条の2 前条の規定にかかわらず、寄宿料は、次の表の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる額に、入居した日から退去する日までの日数を乗じた額とすることができる。

区分		寄宿料（日額）
新樹寮	S I	900円
	S II	1,000円

2 寄宿料は、入居する日までに徴収することを原則とする。

（経済的負担の軽減のための措置）

第9条 本学は、学部及び大学院研究科の学生で経済的理由によって納付が困難であると認められる者その他のやむを得ない事情があると認められる者に対し、授業料、入学料又は寄宿料の全部若しくは一部の免除又は徴収の猶予その他の経済的負担の軽減を図るために必要な措置を講ずるものとする。

（研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び特別研究学生の授業料の徴収方法）

第10条 研究生及び科目等履修生に係る授業料の徴収方法は、別に定める。

2 特別研究学生又は特別聴講学生に係る授業料の徴収方法は、研究生又は科目等履修生と同様とする。

第11条 削除

（学位論文審査手数料の額及び徴収方法）

第12条 学位論文審査手数料は1件について58,055円とし、学位授与の申請を受理するときに徴収するものとする。

2 本学大学院の博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、退学後1年以内に博士論文を提出した場合は、学位論文審査手数料を免除する。

（授業料免除等の取扱い）

第13条 授業料の免除の許可を受けた者について、免除の理由が消滅したことによりその免除を取り消した場合は、免除した前期及び後期の授業料の額を当該前期及び後期の月数で除して得た額に取り消しの日の属する月からその期の終わりの月までの月数を乗じて得た額を、取り消しの日の属する月に徴収するものとする。ただし、不正の事実の発見により取り消した場合にあっては、取り消しの日の属する月に、免除した前期又は後期の授業料の全額を徴収するものとする。

2 授業料の徴収猶予の許可を受けた者から授業料を徴収する時期は、徴収猶予の期間が満了する日の属する月とする。ただし、徴収猶予の理由が消滅したときは、その消滅した日の属する月に徴収するものとする。

3 月割分納による授業料の徴収猶予の許可を受けた者からは、毎月その月の分を徴収するものとする。ただし、休業期間中の分は、休業期間の開始前に徴収するものとする。

4 授業料の徴収猶予（月割分納による徴収猶予を含む。）の許可を受けた者が退学をする

場合は、その期において徴収するものとしている額を、退学の許可をするときに徴収するものとする。

- 5 前4項に規定するもののほか、授業料等の免除又は徴収猶予の実施について必要な事項は、別に定める。

(授業料等の不徴収)

第14条 本学大学院研究科の修士課程を修了し、引き続き本学大学院教育部の博士課程に進学する者については、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

- 2 大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第28条並びに大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第13条及び第15条の規定に基づく措置により、本学において授業科目を履修する者(以下「特別聴講学生」という。)又は研究指導を受ける者(以下「特別研究学生」という。)に係る入学料及び検定料は、徴収しないものとする。また、授業料については、特別聴講学生又は特別研究学生が公立大学又は私立大学の学生であるときは、第2条で定める額を徴収し、国立大学法人法(平成15年法律第112号)に定める国立大学の学生であるときは徴収しないものとする。

- 3 大学間相互単位互換協定に基づく特別聴講学生に係る入学料及び検定料は、徴収しないものとする。また、次の基準を満たす場合は授業料を徴収しないものとする。

(1) 協定を締結する大学の学生が、相互にそれぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認める協定であること。

(2) 締結する協定又はその付属書において、授業料が相互に不徴収とされていること。

(3) 締結する協定又はその付属書において、有効期間が記載されていること。

- 4 大学間特別研究学生交流協定に基づく特別研究学生に係る、入学料及び検定料は徴収しないものとする。また、次の基準を満たす場合は授業料を徴収しないものとする。

(1) 協定を締結する大学の大学院学生が、相互に当該他の大学院等において研究指導を受けることを認める協定であること。

(2) 締結する協定又はその付属書において、授業料が相互に不徴収とされていること及び有効期間が記載されていること。

- 5 相互に検定料及び入学料を不徴収とする大学間協定を締結した国立大学法人が設置する大学の大学院から本学の大学院に転入学を志願する者にあつては、検定料及び入学料を徴収しないものとする。

- 6 産業教育振興法に基づく内地留学生及び科学教育研究室の研究生等別途実施要項等による者については、授業料、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

(外国人留学生)

第15条 大学間交流協定、学部間交流協定及びこれらに準ずるものに基づき受け入れる外国人留学生については、締結する協定書又はその付属書において、授業料、入学料及び検定料が相互に不徴収とされている場合は、授業料、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

- 2 国費外国人留学生については、授業料、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

- 3 前2項に掲げるもののほか、外国人留学生については、第2条から第10条まで、第12条から第14条までの規定を適用する。

(証明書の発行手数料の額及び徴収方法)

第16条 本学を卒業した者、修了した者、退学した者、除籍された者又は研究生、科目等履

修生、特別聴講学生若しくは特別研究学生であった者が、本学が指定した証明書交付願により交付申請する場合は、証明書1通当り500円の手数料を徴収するものとする。

- 2 前項の手数料は、交付申請を受理するときに徴収するものとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当する場合は、手数料を徴収しないものとする。
 - (1) 本学の学生（研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び特別研究学生を含む。）が申請する場合
 - (2) 附属学校に係る証明書を申請する場合
 - (3) 卒業、修了、退学又は除籍の日の属する月に申請する場合
 - (4) 外国に居住又は滞在している者が外国から直接申請する場合（納付した授業料等）

第17条 納付した検定料、入学料、授業料、寄宿料、受講料及び証明書の発行手数料（以下「授業料等」という。）は還付しない。ただし、次の各号の一に該当する場合には、納付した者の申出により当該各号に定める額を還付する。

- (1) 本学の入学者選抜において、出願書類等による第1段階目の選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による第2段階目の選抜を行う場合に、検定料を納付した者が、第1段階目の選抜で不合格となったとき及び個別学力検査出願無資格者であることが判明した場合 第2条第4項の選抜に係る検定料相当額
- (2) 入学を許可されるときに授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合 当該授業料相当額
- (3) 前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、9月末までに退学を許可された場合 後期分の授業料相当額
- (4) 前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、10月末までに休学を許可され、又は命じられた場合 後期分の授業料から後期の在籍月数分を差引いた残月数分の授業料相当額
- (5) 研究生が、在学期間の中で退学した場合 納付された授業料から在学月数分を差引いた残月数分の授業料相当額
- (6) その他学長が、授業料等を返還するのが相当であると認めた場合 当該授業料等相当額

附 則

- 1 この規則は、平成17年10月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前入学生の授業料の額については、第2条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

区分	入学年度	授業料（年額）
大学の学部	平成7・8年度入学生	447,600円
	平成9・10年度入学生	469,200円
大学の夜間において授業を行う学部	平成9・10年度入学生	234,600円
大学院学生	平成9・10年度入学生	469,200円

- 3 第10条の規定にかかわらず、高岡キャンパスにおいて平成18年3月31日まで実施する公開講座の講習料及び公開授業の受講料については、1時間につき420円とする。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第14条第5項の規定は、平成18年度の転入学者から適用する。
- 2 この規則の施行前に認められた長期履修にかかる授業料の算出については、第3条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成18年9月21日から施行し、平成18年9月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の日前に、新樹寮に入寮している者で、この規則の施行後に引き続き新樹寮に入寮する者の寄宿料の額は、改正後の第8条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までの間、月額700円とする。ただし、当該期間中に入寮生の申請により、改修後の居室に移動した場合は、改正後の第8条第1項の規定による。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年7月1日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年9月29日から施行する。

富山大学大学院博士課程に関する学生アンケート結果

■ 調査の概要

(1) 調査の対象

富山大学に在籍する以下の学生

- ・ 医学部医学科 5 年生
- ・ 薬学部薬学科 5 年生
- ・ 大学院総合医薬学研究科（修士課程） 1 年生
- ・ 大学院理工学研究科（修士課程） 1 年生
- ・ 大学院医薬理工学環（修士課程） 1 年生
- ・ 大学院持続可能社会創成学環（修士課程） 1 年生

(2) 調査の方法

上記対象学生に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。
またアンケートはウェブ上で実施した。

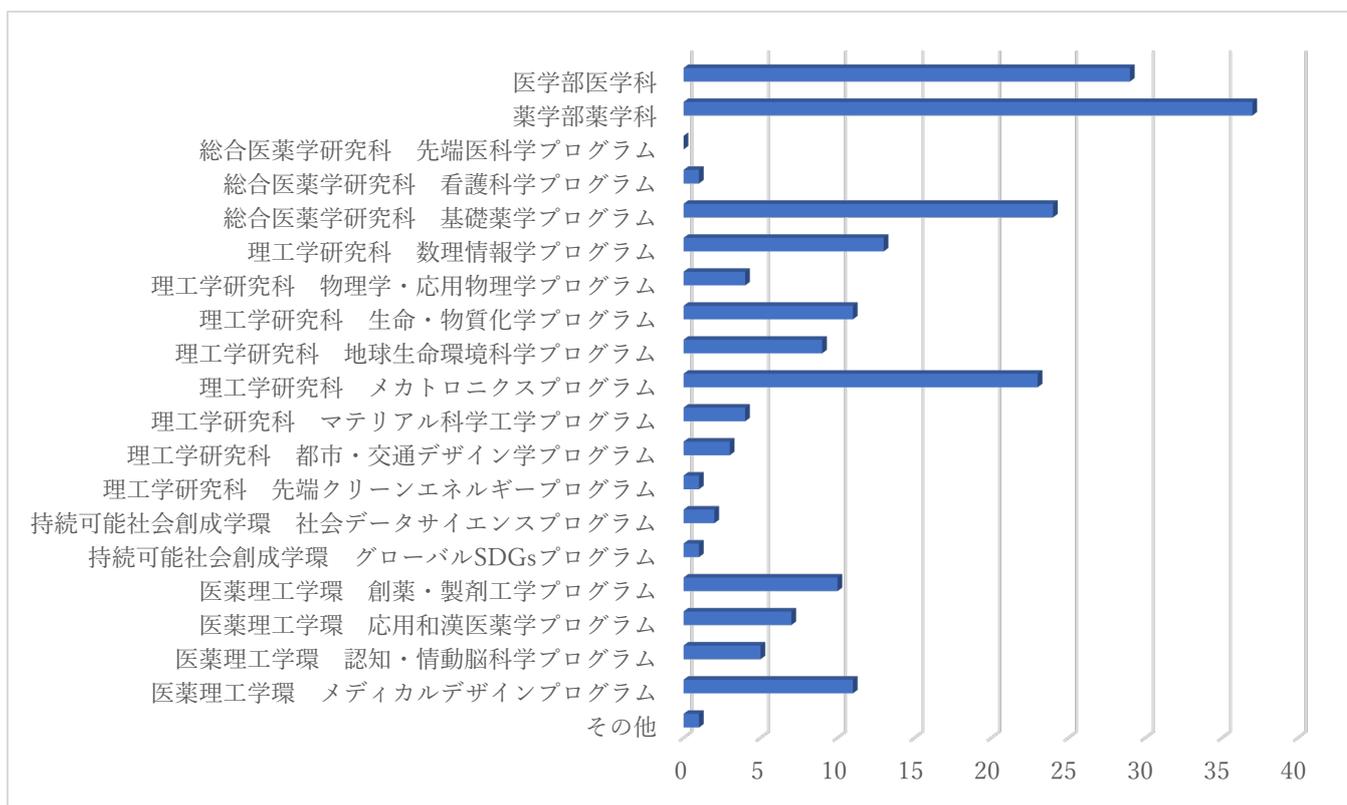
(3) 回答数

196 名

(4) 調査期間

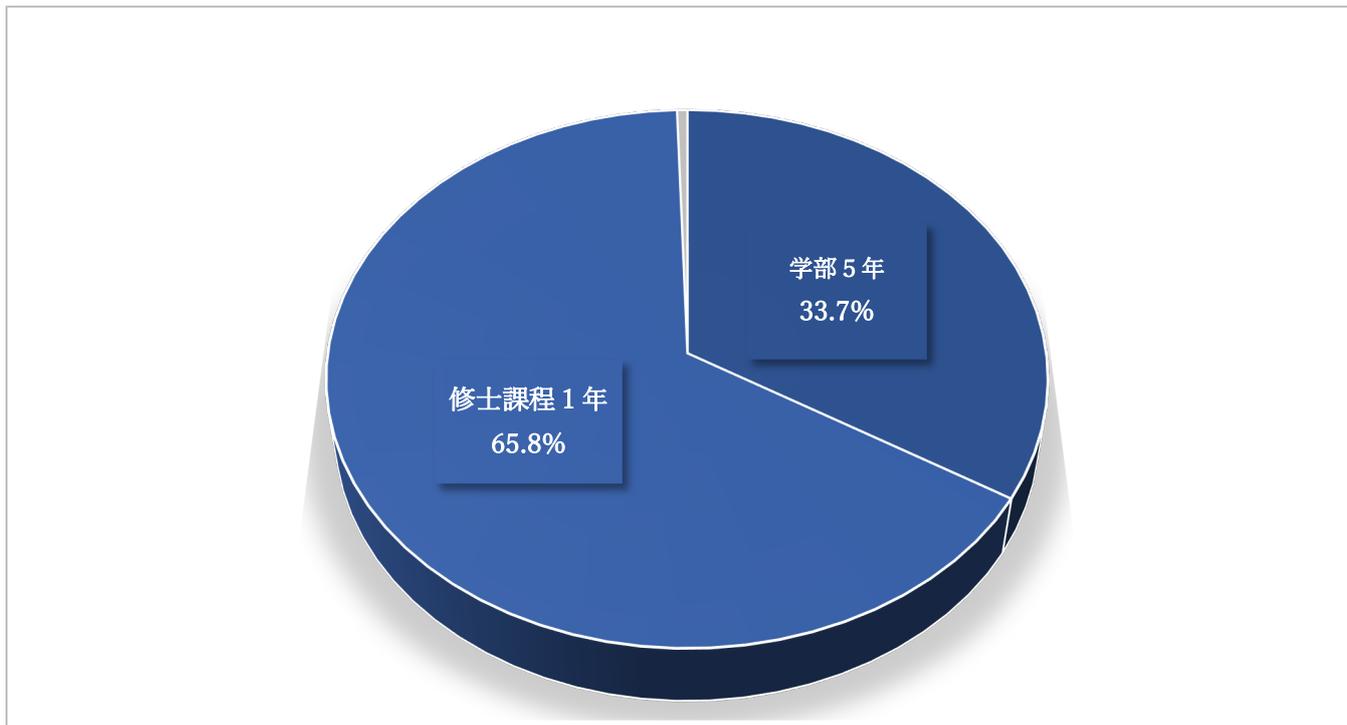
令和 4 年 1 1 月 7 日（火）～令和 4 年 1 2 月 2 8 日（水）

問1 あなたの所属を選択してください。



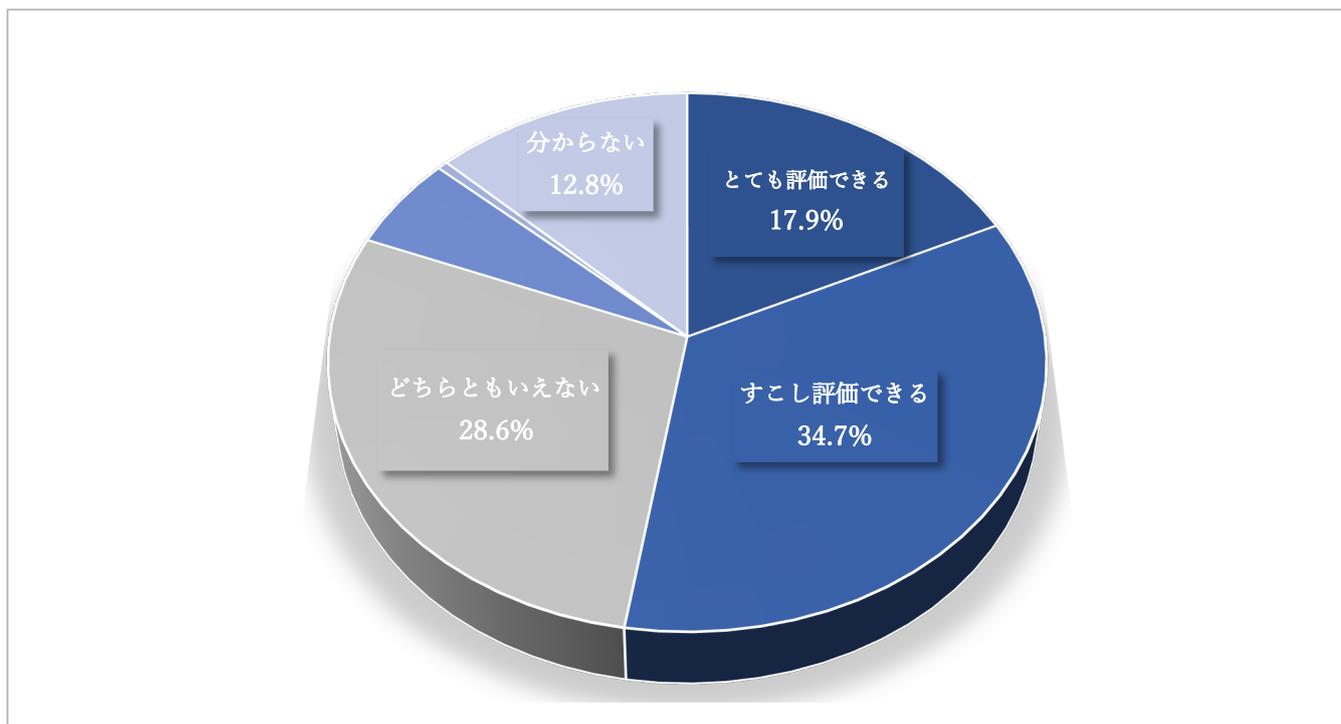
選択肢	回答数	割合
医学部医学科	29	14.8%
薬学部薬学科	37	18.9%
総合医薬学研究科 先端医科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	1	0.5%
総合医薬学研究科 基礎薬学プログラム	24	12.2%
理工学研究科 数理情報学プログラム	13	6.6%
理工学研究科 物理学・応用物理学プログラム	4	2.0%
理工学研究科 生命・物質化学プログラム	11	5.6%
理工学研究科 地球生命環境科学プログラム	9	4.6%
理工学研究科 メカトロニクスプログラム	23	11.7%
理工学研究科 マテリアル科学工学プログラム	4	2.0%
理工学研究科 都市・交通デザイン学プログラム	3	1.5%
理工学研究科 先端クリーンエネルギープログラム	1	0.5%
持続可能社会創成学環 社会データサイエンスプログラム	2	1.0%
持続可能社会創成学環 グローバルSDGsプログラム	1	0.5%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	10	5.1%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	7	3.6%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	5	2.6%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	11	5.6%
その他	1	0.5%

問2 あなたの学年を選択してください。



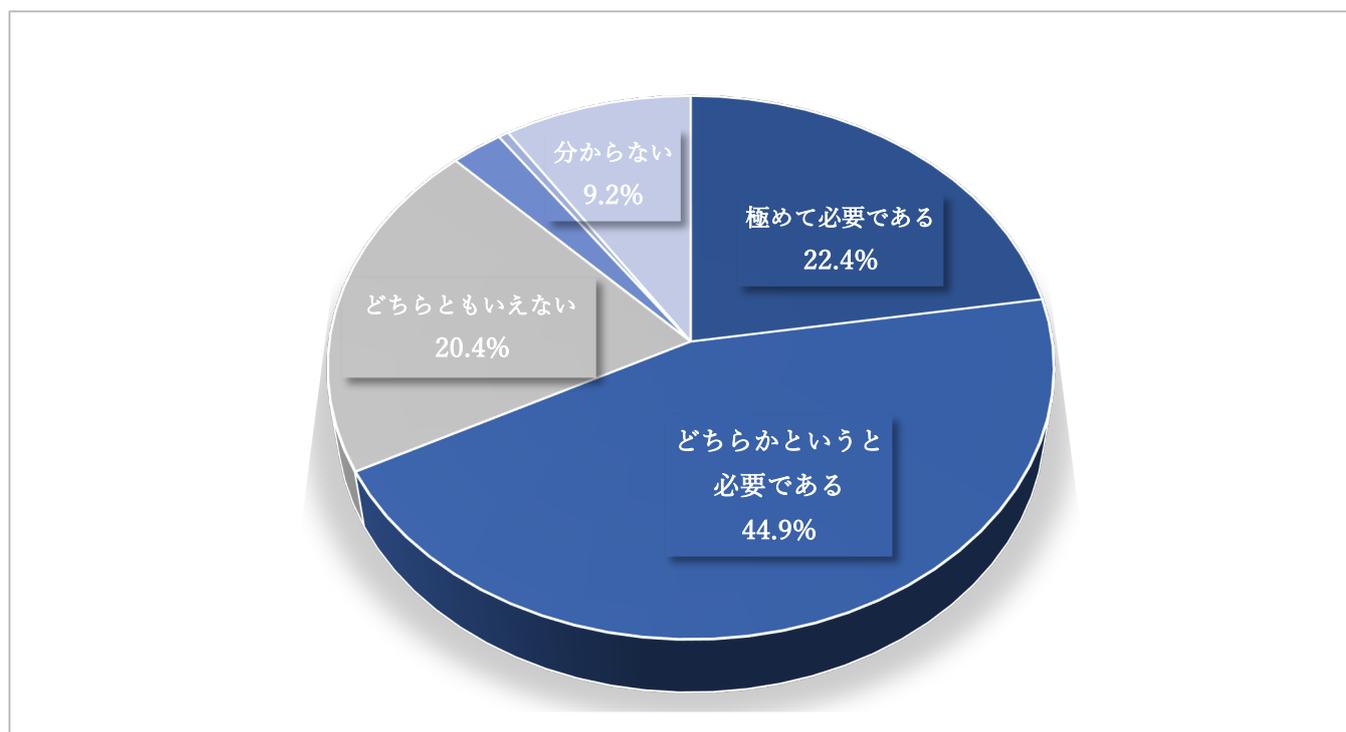
選択肢	回答数	割合
学部5年	66	33.7%
修士課程1年	129	65.8%
その他	1	0.5%

問3 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



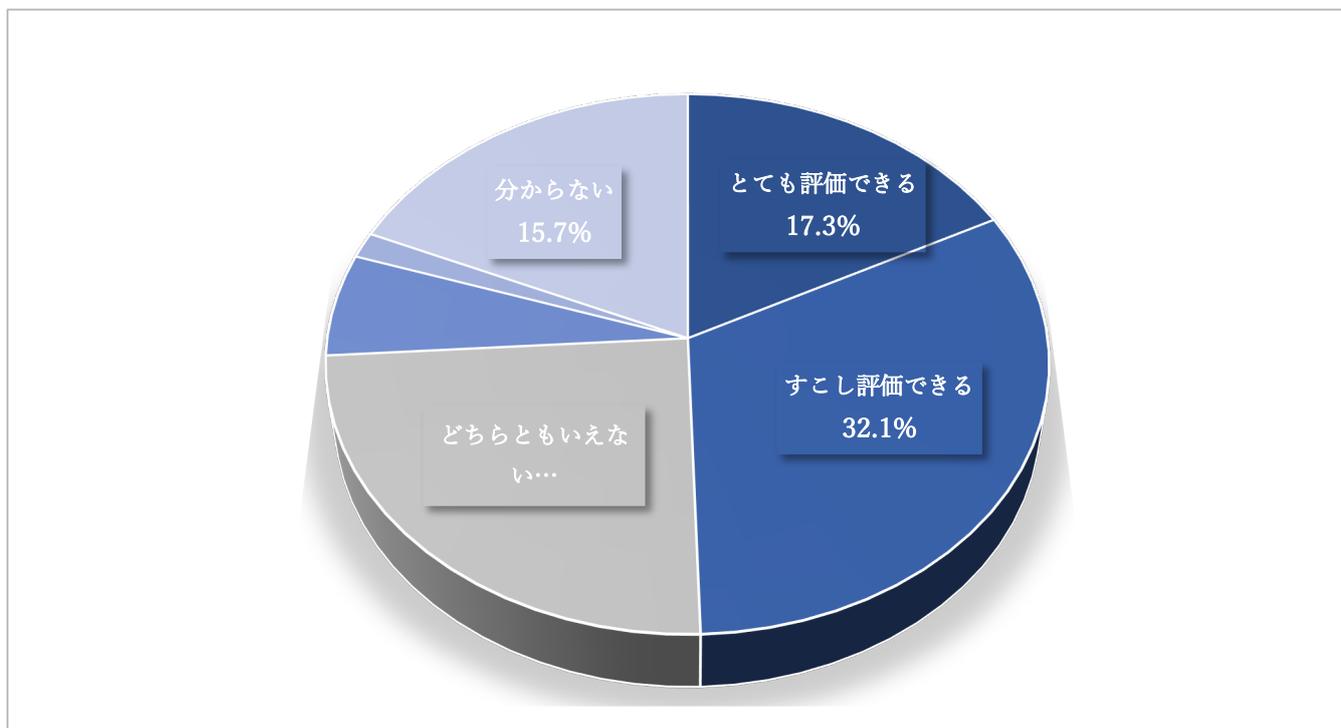
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	35	17.9%
すこし評価できる	68	34.7%
どちらともいえない	56	28.6%
あまり評価できない	11	5.6%
まったく評価できない	1	0.5%
分からない	25	12.8%

問4 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。



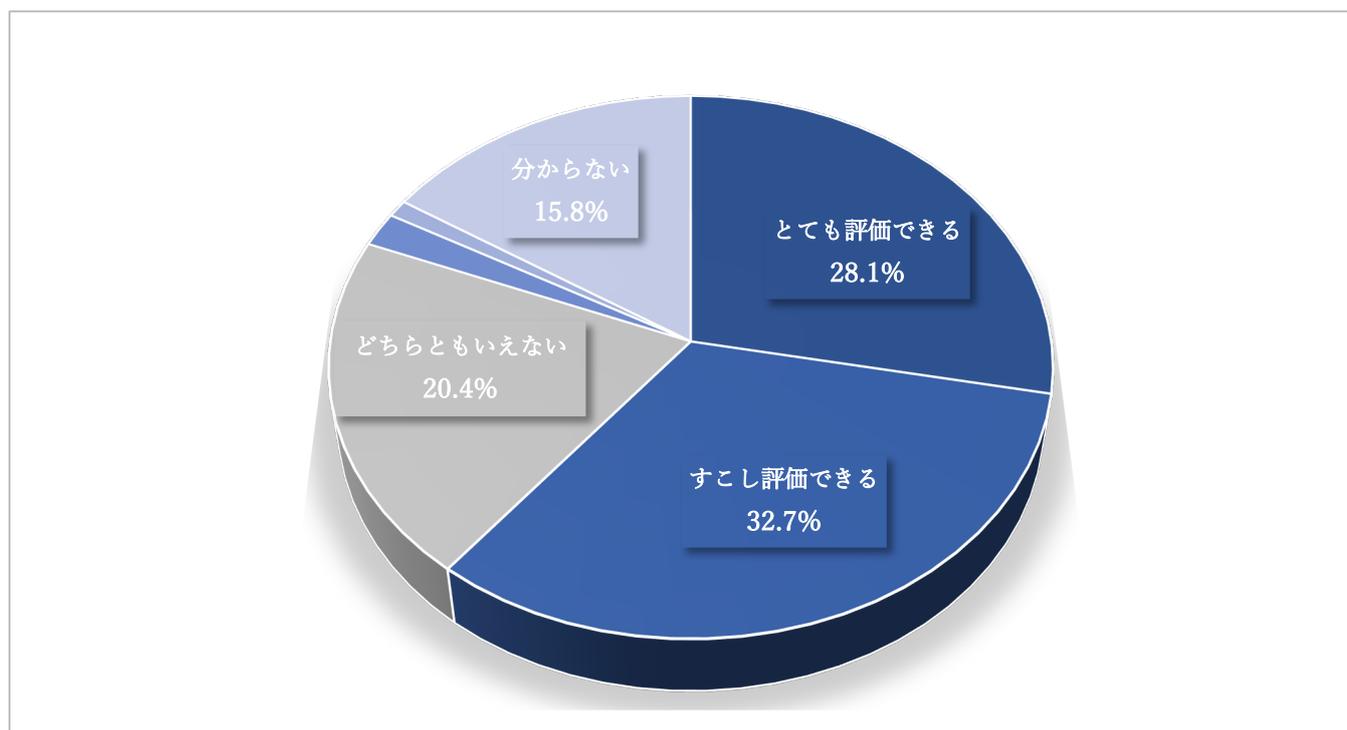
選択肢	回答数	割合
極めて必要である	44	22.4%
どちらかという必要である	88	44.9%
どちらともいえない	40	20.4%
あまり必要でない	5	2.6%
まったく必要でない	1	0.5%
分からない	18	9.2%

問5 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



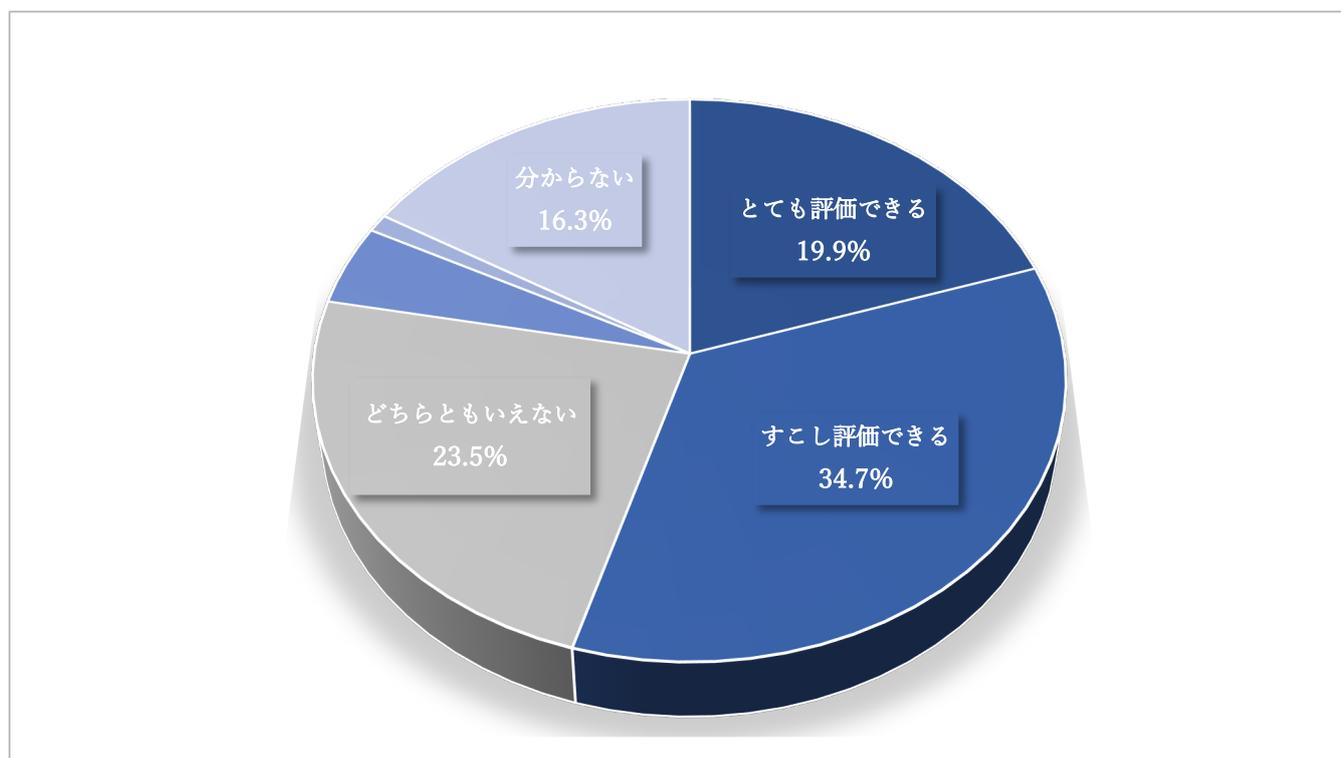
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	34	17.3%
すこし評価できる	63	32.1%
どちらともいえない	48	24.5%
あまり評価できない	12	6.1%
まったく評価できない	3	1.5%
分からない	36	18.4%

問6 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



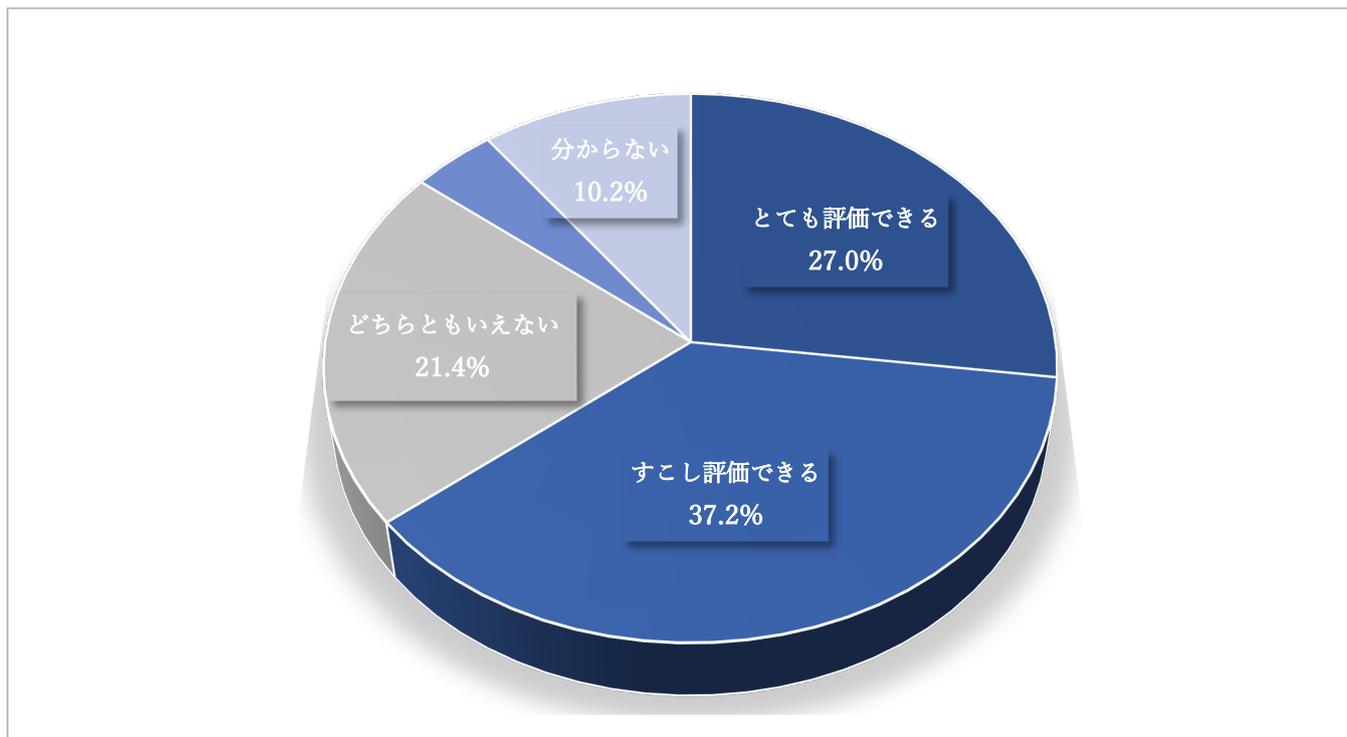
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	55	28.1%
すこし評価できる	64	32.7%
どちらともいえない	40	20.4%
あまり評価できない	4	2.0%
まったく評価できない	2	1.0%
分からない	31	15.8%

問7 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。



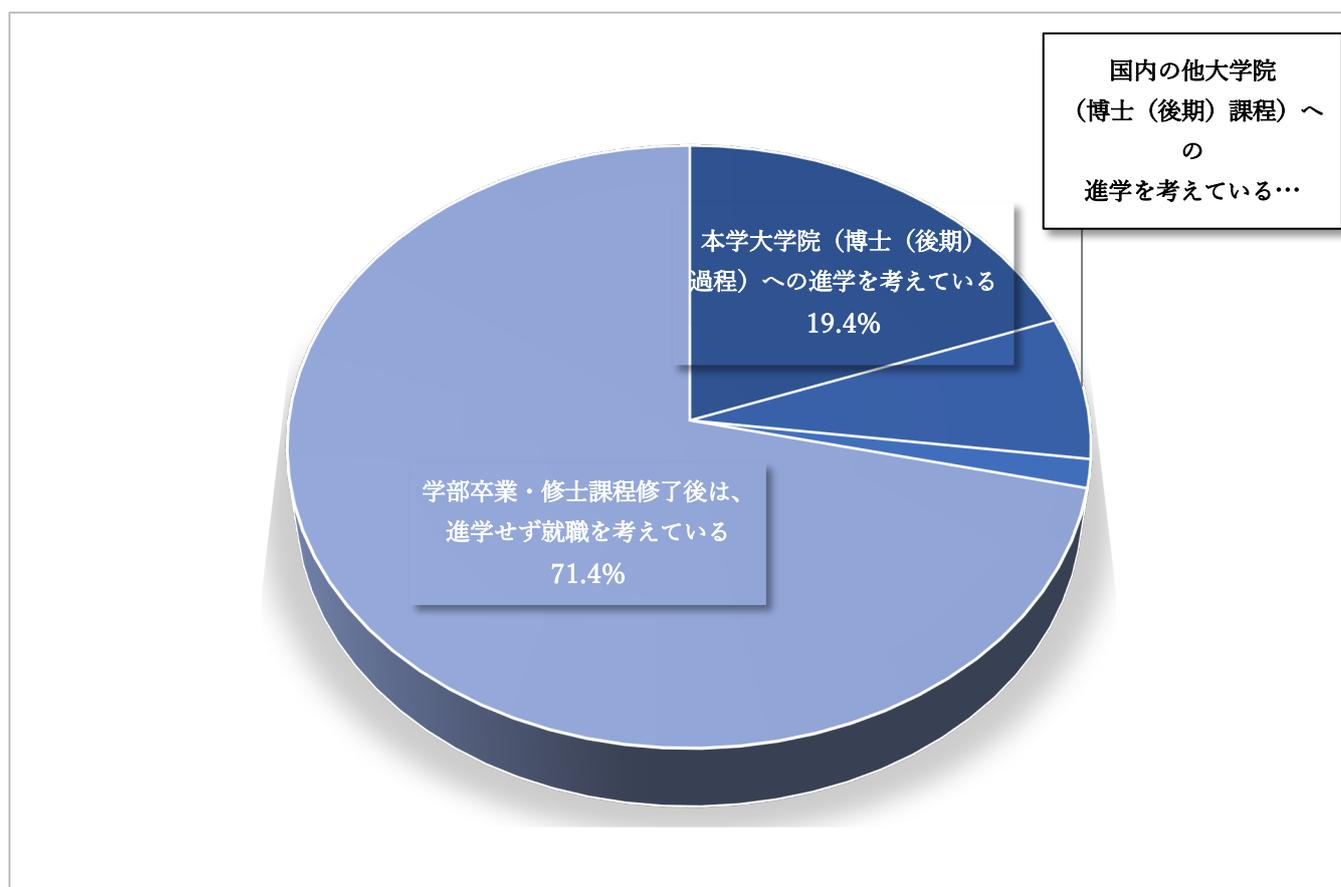
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	39	19.9%
すこし評価できる	68	34.7%
どちらともいえない	46	23.5%
あまり評価できない	9	4.6%
まったく評価できない	2	1.0%
分からない	32	16.3%

問8 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



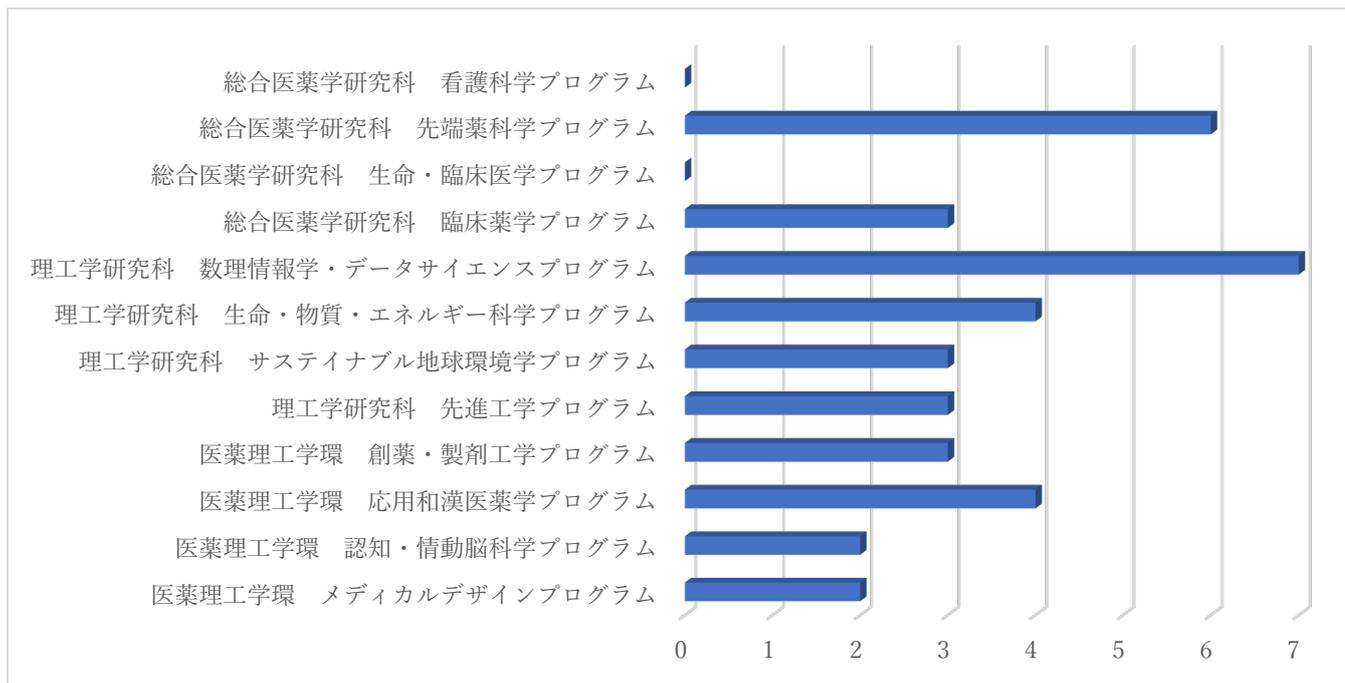
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	53	27.0%
すこし評価できる	73	37.2%
どちらともいえない	42	21.4%
あまり評価できない	8	4.1%
まったく評価できない	0	0.0%
分からない	20	10.2%

問9 あなたは、卒業・修了後（令和6年4月以降）に、大学院への進学を考えていますか。



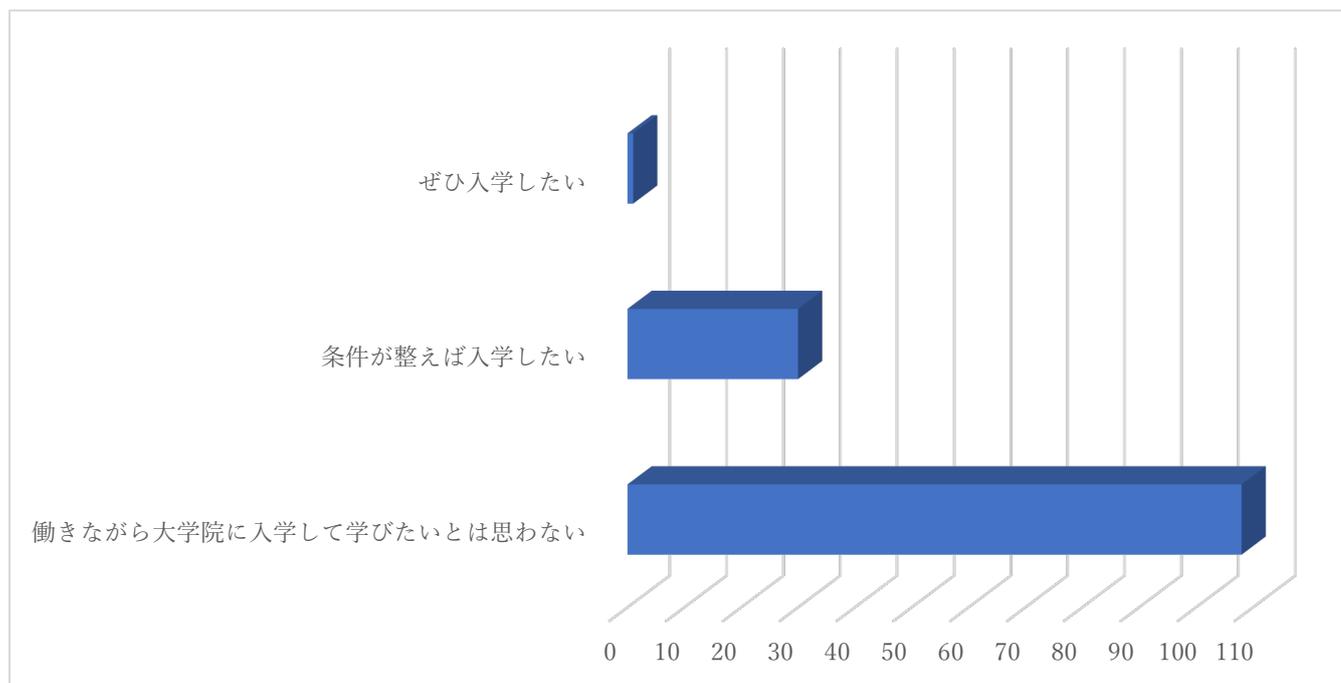
選択肢	回答数	割合
本学大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	38	19.4%
国内の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	15	7.7%
海外の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	3	1.5%
学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職を考えている	140	71.4%
その他	0	0.0%

問10 9. で「本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムを1つ選択してください。※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	6	16.2%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	3	8.1%
理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム	7	18.9%
理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム	4	10.8%
理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム	3	8.1%
理工学研究科 先進工学プログラム	3	8.1%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	3	8.1%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	4	10.8%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	2	5.4%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	2	5.4%

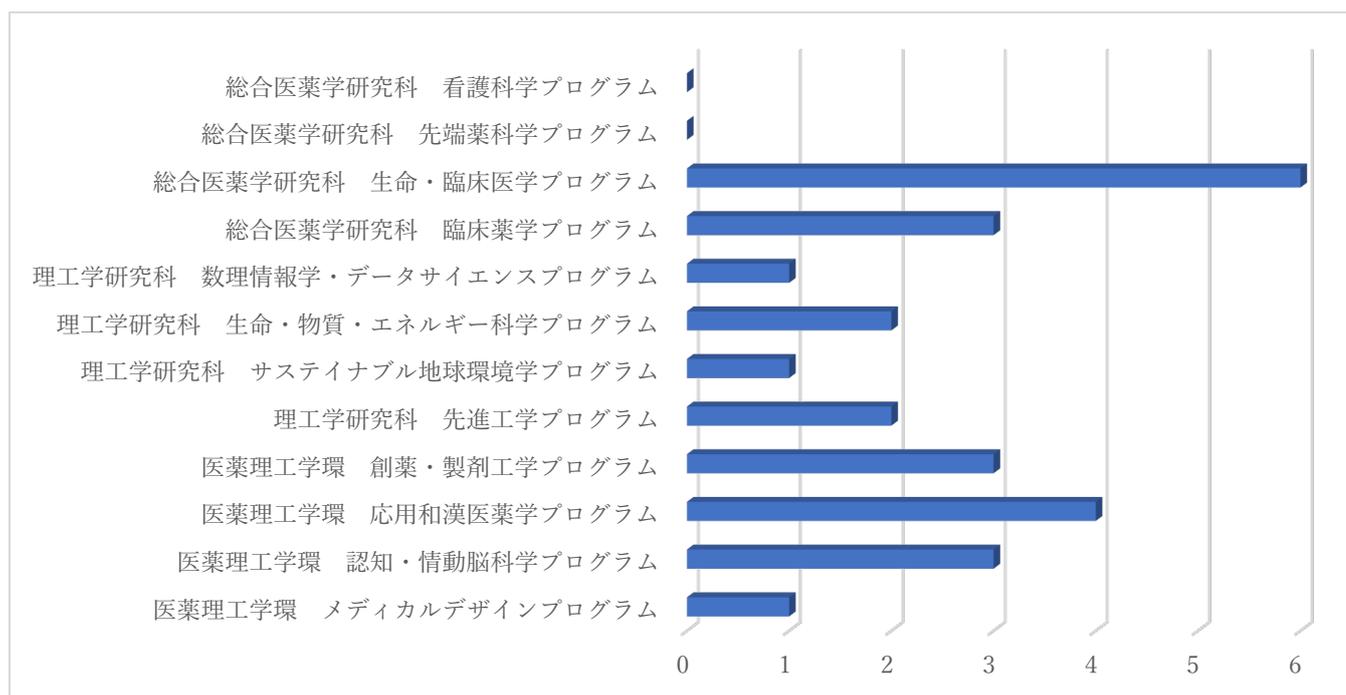
問 11 9. で「学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職」と回答した方についてお答えください。就職後、働きながらスキルアップ・キャリアアップを目的として富山大学博士課程に入学したいですか。



選択肢	回答数	割合
ぜひ入学したい	1	0.7%
条件が整えば入学したい	30	21.6%
働きながら大学院に入学して学びたいとは思わない	108	77.7%

問 12 10. で「ぜひ入学したい」「条件を整えば入学したい」と回答した方についてお答えください。就職後、ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムがありましたら回答してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	6	23.1%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	3	11.5%
理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム	1	3.8%
理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム	2	7.7%
理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム	1	3.8%
理工学研究科 先進工学プログラム	2	7.7%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	3	11.5%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	4	15.4%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	3	11.5%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	1	3.8%

富山大学大学院博士課程に関する 学生アンケート

このアンケートは、2024年4月に改組を予定している富山大学大学院（博士（後期）課程）に関するニーズを把握し、今後の改組準備に役立てるために実施するものです。調査結果は、本学の大学院教育の改革に活用していくものになりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

※回答内容によって、皆さんに不利益が生じることはありません。

※回答数の状況把握のため、富山大学Microsoftアカウントにログインの上、回答してください。

いただいた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. あなたの所属を選択してください。*

- 医学部医学科
- 薬学部薬学科
- 総合医薬学研究科 先端医科学プログラム
- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 基礎薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学プログラム
- 理工学研究科 物理学・応用物理学プログラム
- 理工学研究科 生命・物質化学プログラム
- 理工学研究科 地球生命環境科学プログラム
- 理工学研究科 メカトロニクスプログラム
- 理工学研究科 マテリアル科学工学プログラム
- 理工学研究科 都市・交通デザイン学プログラム
- 理工学研究科 先端クリーンエネルギープログラム
- 持続可能社会創成学環 社会データサイエンスプログラム
- 持続可能社会創成学環 グローバルSDGsプログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム
- その他

2. あなたの学年を選択してください。*

- 学部5年
- 修士課程1年
- その他

以降の設問は、別途添付している「富山大学大学院の改組構想」
をご覧ください。

※別添の「富山大学大学院の改組構想」は、以下のURLからもご覧いただけます。

総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/sougouiyakugaku.pdf>

理工学研究科 理工学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/rikou.pdf>

医薬理工学環

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/iyakurikou.pdf>

3. 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

4. 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。 *

- 極めて必要である
- どちらかという必要である
- どちらともいえない
- あまり必要でない
- まったく必要でない
- 分からない

5. 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

6. 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としています。この取り組みは評価できますか。*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

7. 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

8. 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。

*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

9. あなたは、卒業・修了後（令和6年4月以降）に、大学院への進学を考えていますか。 *

- 本学大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 国内の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 海外の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職を考えている
- その他

10. 9. で「本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムを1つ選択してください。
※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム
- 理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム
- 理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム
- 理工学研究科 先進工学プログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム

11. 9. で「学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職」と回答した方についてお答えください。就職後、働きながらスキルアップ・キャリアアップを目的として富山大学博士課程に入学したいですか。

- ぜひ入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 働きながら大学院に入学して学びたいとは思わない

12. 10. で「ぜひ入学したい」「条件を整えば入学したい」と回答した方についてお答えください。就職後、ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムがありましたら回答してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム
- 理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム
- 理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム
- 理工学研究科 先進工学プログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム

13. その他ご意見等があれば記載してください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

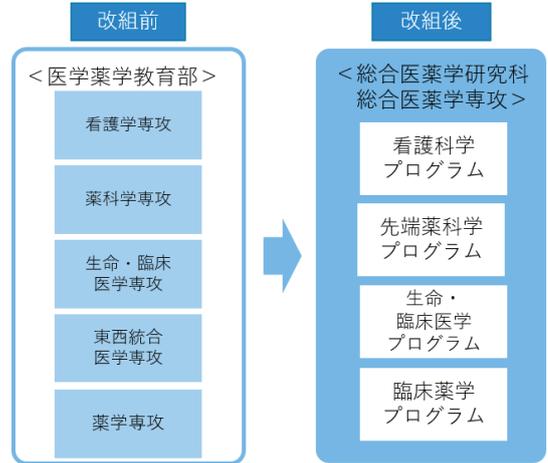
総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

2024年4月から、医学薬学教育部から総合医薬学研究科に改組する予定です

総合医薬学研究科の概要

医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）は、5専攻（看護学専攻、薬科学専攻、生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻、薬学専攻）を再編し、1専攻4プログラムからなる総合医薬学研究科に改組します。

1専攻4プログラムへの再編により、医療に関する実践的な多職種連携・協働とイノベーションにつながる包括的な医療的素養を身に付けさせる環境を整備し、医薬融合を更に高いレベルにて実践し、基礎医薬学と臨床医薬学の環流の飛躍的に推進することを見込んでいます。高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ高度な医師、薬剤師、看護職、医薬学研究者などを育成することが可能となります。



養成する人材像 ※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

看護科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（看護学）	募集人員：3人
<p>【養成する人材像】</p> <p>「基礎看護科学分野」「臨床・生体機能看護科学分野」「地域ケアシステム看護科学分野」の3分野を設け、看護科学における幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を行う。看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>看護職(保健師・助産師・看護師) 指導者(基幹・地域病院、保健所等行政機関) 看護教育・研究者(大学・短大等看護職養成機関)</p>	
先端薬科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（薬科学）	募集人員：6人
<p>【養成する人材像】</p> <p>薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>企業(製薬企業創薬研究者、化学メーカー研究者) 大学教員(薬学研究者、生命科学研究者) 治験関連(臨床開発研究者)</p>	
生命・臨床医学プログラム（博士課程）	学位：博士（医学）	募集人員：30人
<p>【養成する人材像】</p> <p>疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>医師(病院、行政機関) 教員・研究者(大学、研究所等) 企業(創薬開発) 治験関連</p>	
臨床薬学プログラム（博士課程）	学位：博士（薬学）	募集人員：4人
<p>【養成する人材像】</p> <p>臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>薬剤師(大学病院薬剤部、認定薬局、行政機関) 大学教員・研究者(大学、研究所等) 企業(医療研究開発、臨床研究実施)</p>	

カリキュラムの特徴

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

医学・薬学・看護学を統合した教育課程

本研究科は、医学部と薬学部、附属病院が同じキャンパスにある「地の利」を生かした医学・薬学・看護学を総合した特色ある教育課程とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成します。



研究科共通科目の開設

大学院博士課程レベルの研究科共通科目として「**医薬学プロフェッショナル研究論**」を開設します。本科目により医学・薬学・看護学領域のプロの研究者となるための必須のスキルを修得するとともに、臨床と基礎を横断した総合的な医療人材を育成します。医療の現場における上位職では、特定分野だけではなく様々な分野を俯瞰して理解した上でマネジメントを行うことが求められるため、高度な専門レベルでの複数分野を理解し、的確なリーダーシップを発揮できる能力を育成します。



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

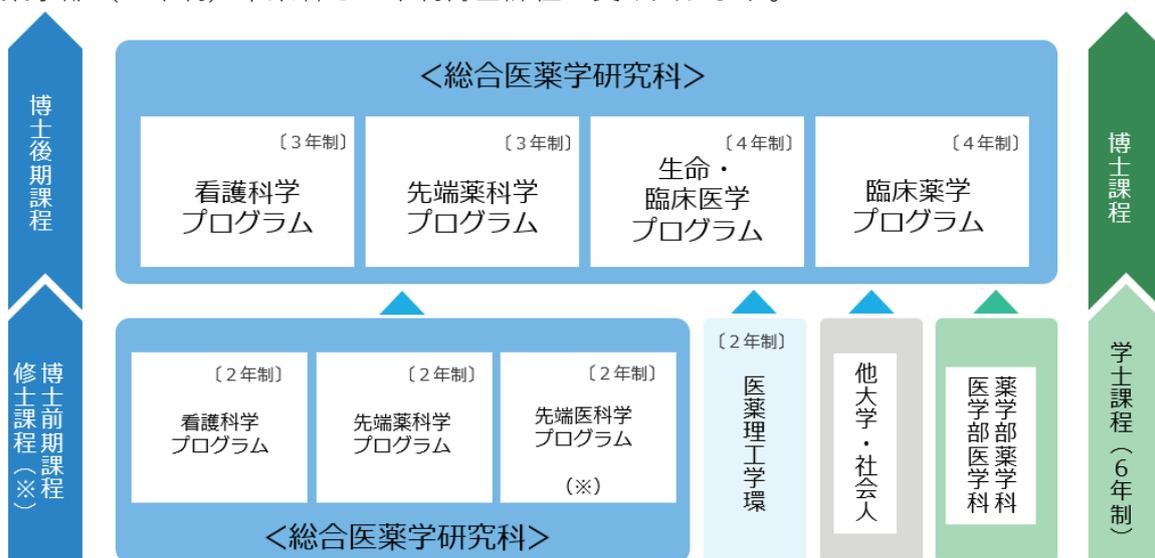
社会人のオンライン教育

社会人大学院生の学修機会の確保として、オンデマンド教育やオンライン教育を充実させます。



学部・修士課程との接続

総合医薬学研究科（博士前期課程・修士課程）の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。また、本学の医薬理工系大学院修士課程である「医薬理工学環」修了生も一部受け入れ、他分野指導体制を実施します。さらに、医学部及び薬学部（6年制）卒業生を4年制博士課程に受け入れます。



入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料（年額）
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学杉谷キャンパス
（富山県富山市杉谷2630）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

理工学研究科 理工学専攻（博士後期課程）

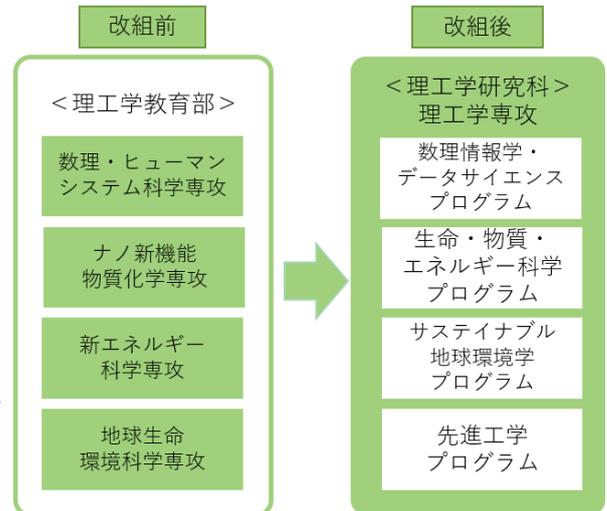
2024年4月に、理工学教育部から理工学研究科へ改組する予定です

理工学研究科の概要

理工学研究科は、理工学教育部（博士課程）の4専攻（数理・ヒューマンシステム科学専攻、ナノ新機能物質化学専攻、新エネルギー科学専攻、地球生命環境科学専攻）を、1専攻4プログラムに再編します。

近年、理工系人材には、イノベーションの創出のためのより高度かつ広範な能力が求められており、自身の専門分野だけでなく、幅広い分野横断的な知識と視野を持ち、**産業界においてもリーダーとして社会的に説明責任を果たしつつ技術革新を牽引できる理工系高度職業人や、基礎・応用において革新をもたらすような研究者**の養成が必要となっています。

本研究科では、上記のような人材を輩出するために、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化し、より高度な専門教育を行っていきます。



養成する人材像

<p>数理情報学・データサイエンスプログラム</p> <p>【養成する人材像】 数学、情報学およびデータサイエンスに必要なプログラミングやコンピューター、AIについての素養を主に必要とする数理情報学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（数理情報学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報通信業 公務（数理情報系） 大学、公的研究機関の数理情報分野の研究者
<p>生命・物質・エネルギー科学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 理学と工学の分野にまたがって、生命、物質、エネルギーの各分野について、物理化学的観点から理解し、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（理工学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業（化学工業（有機化学工業、無機化学工業、医薬品製造業）、輸送機械器具製造業（自動車・同附属品製造業））、電気・ガス 公務（理工系技術者・研究者） 大学、公的研究機関の理工系研究者
<p>サステナブル地球環境学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 地球科学、生物科学、環境科学の主たる学問分野を広く修得し、持続可能社会に貢献する高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（理学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業（食料品製造業、化学工業（環境安全に関わる管理業務））、農業 公務（理工系技術者・研究者） 大学、公的研究機関の理工系研究者
<p>先進工学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 機械工学、エレクトロニクス、ロボティクス、材料科学、社会基盤工学の工学分野の専門能力を身に付け、データを活用して、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（工学）</p> <p>募集人員：3人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業（鉄鋼業、非鉄金属製造業、電子部品、機械器具製造業（電子部品、電気機械、情報通信機械など））、建設業、運輸業・公務（理工系技術者・研究者） 大学、公的研究機関の理工系研究者

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

カリキュラムの特徴

1専攻4学位プログラム

本研究科は、博士前期課程において、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化するとともに、学問領域の枠を超えた、新しい学問領域に対応した学位プログラムを編成しています。博士後期課程においては、博士前期課程からさらにプログラムを融合するとともに、**プログラムの枠を超えた研究指導**を行い、**専門の枠にとらわれない教育や研究**を推進します。

異分野間の複数指導体制

理工学の各分野の枠を超えて幅広い分野横断的な知識と視野を持った人材を養成するために、プログラムの枠を超えた異分野間の連携・融合を重視して、複数指導教員による研究指導を行います。主指導教員による指導に加えて、異分野の副指導教員からも指導を受けることにより、幅広い視野からの教育・研究指導を行います。



大学院共通科目、研究科共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士（後期）課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士（後期）課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

また、専門的能力を企業や教育現場で活用する能力を養うための科目「プレFD」、 「長期インターンシップ」を、理工学研究科博士後期課程の研究科共通科目として開設します。

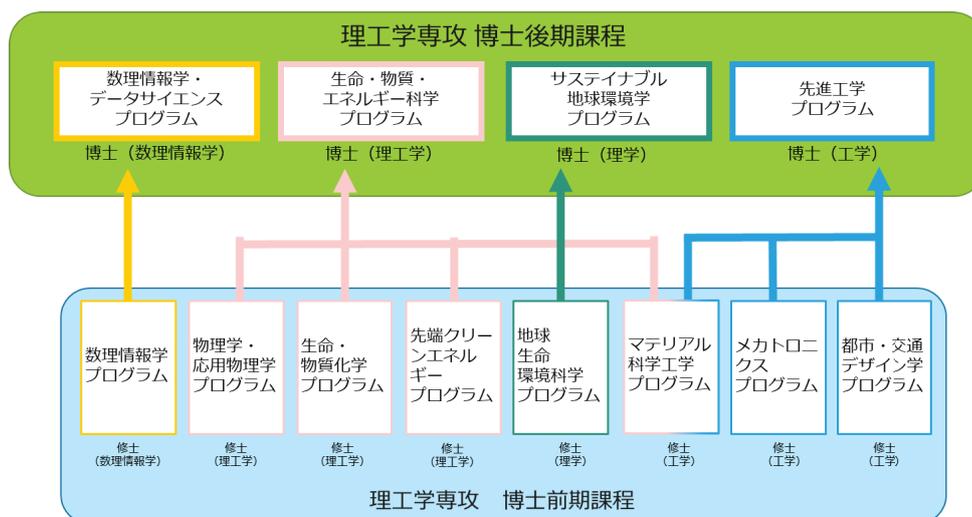
専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目

博士後期課程では専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目を開講します。プログラム専門科目では、各分野の最先端の研究に関する専門知識と実験技術を身に付けるとともに、専門知識や実験技術を統合・応用することで研究課題を解決する能力を育成することができます。



博士前期課程との接続

2022年4月に設置した本学理工学研究科博士前期課程の8プログラムの修了生を博士後期課程の4プログラムに受け入れ、博士前期・後期課程で一貫した教育内容を提供する5年一貫型教育体制を構築し、博士前期課程よりもさらに分野融合的で高度な教育を実施します。また、本学持続可能社会創成学環からの関連の深いプログラム（数理情報学・データサイエンスP, サステイナブル地球環境学P）への進学を可能としています。



入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学五福キャンパス
（富山県富山市五福3190）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

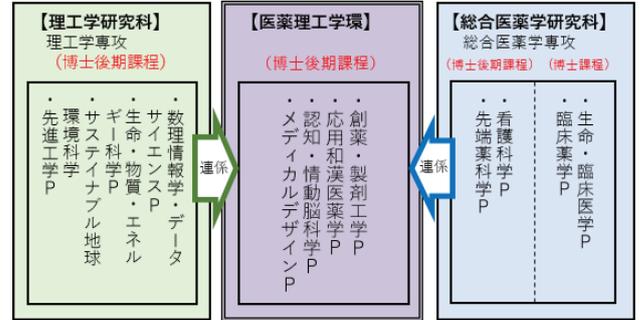
医薬理工学環（博士後期課程）

2024年4月に、総合医薬学研究科と理工学研究科の連係により医薬理工学環を設置します

医薬理工学環の概要

医薬理工学環は、総合医薬学研究科・理工学研究科の連係により設置します。

本学環は、**医薬理工を横断した教員体制**を基盤とし、富山県における産業等の強み・特徴・課題である、**医薬品開発、和漢医薬学、脳科学、医療機器・福祉機器開発**など、創薬・ヘルスケア分野への貢献という、プログラム毎に出口を明確化した教育課程を構築し、各分野の高度人材の育成を目指します。



医学、薬学、理学及び工学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度専門職業人や教育研究者としての人材を育成します。

養成する人材像

創薬・製剤工学プログラム	学位：博士（薬科学） 募集人員：3人
【養成する人材像】 創薬・製剤工学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医薬品開発・医薬品工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。	【修了後の進路】 <ul style="list-style-type: none"> ・企業（製薬企業創薬、製剤開発、DDS研究開発者） ・大学教員・研究者 
応用和漢医薬学プログラム	学位：博士（薬科学） 募集人員：3人
【養成する人材像】 応用和漢医薬学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、和漢医薬学・薬科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。	【修了後の進路】 <ul style="list-style-type: none"> ・生薬を扱う製薬企業等の研究者等 ・大学教員・研究者 ・薬事審査官等の省庁機関職員 
認知・情動脳科学プログラム	学位：博士（神経科学） 募集人員：4人
【養成する人材像】 認知・情動脳科学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、脳科学・神経科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。	【修了後の進路】 <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経科学研究分野人材（国内外教育研究機関） ・医薬研究開発人材（創薬、臨床治験、企業等） 
メディカルデザインプログラム	学位：博士（医工学） 募集人員：4人
【養成する人材像】 メディカルデザインプログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医用・福祉工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。	【修了後の進路】 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスケア機器メーカーで機器を開発するエンジニア ・ヘルスケアサービス企業でサービスやビジネスモデルを開発するプランナー ・医用・福祉工学の研究・教育者 

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

カリキュラムの特徴

横断的な学位論文研究の指導

学系を横断した3名以上の複数指導教員による研究指導体制を構築し、高い専門性ととも幅広い視野を備え、専門分野の枠にとらわれない独創性・創造性を持った人材を養成します。

分野横断的教育体制の構築

各プログラムの研究分野における先端研究の、高度かつ俯瞰的な企画・遂行能力を養成するため、以下の科目を開講します。

- ・プログラム別演習科目：学系を横断した複数指導教員により、学位論文研究に関わる演習を行う
- ・プログラム別実習科目：所属プログラムの諸課題を俯瞰的に解決する実験技術を、学系を超えた異分野での学内留学で養成する
- ・プログラム別講義科目：所属プログラムの先端課題を提示・解決できる専門知識を、学系を超えた講義体制で養成する



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

学環共通科目の設定

異分野と連携・融合する能力や、学術研究の成果を社会実装に連結する能力を養うため、以下のような学環共通科目を設定します。

- ・先端研究企画演習(リサーチ・プロポーザル)：学生自身の専門とは異なる分野の研究を企画立案することで、新たな発想の創出やチームリーダーとしての資質向上を目指す
- ・研究インターンシップ(長期インターンによる企業・研究機関での開発・研究の実習を通して、大学院と社会の連結を実践)
- ・国際連携実習(学位論文研究に関連した海外研究機関での共同研究を実施)

本学博士前期課程との接続

令和4年4月に修士課程「医薬理工学環」を設置しており、本組織の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。(令和6年4月の博士後期課程設置時に、修士課程を博士前期課程に改めます。)

その他、本学の医薬理工系大学院である、「総合医薬学研究科」又は「理工学研究科」修了生及び他大学修了者、社会人も受け入れます。

博士後期課程

博士前期課程



入学科・授業料(2022年11月現在)

入学科	授業料
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学五福キャンパス
(富山県富山市五福3190)
富山大学杉谷キャンパス
(富山県富山市杉谷2630)

(富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく)

富山大学大学院博士課程に関するアンケート（富山大学附属病院 医員・研修医）

■ 調査の概要

（１） 調査の対象

富山大学附属病院に在籍する医員及び臨床研修医

（２） 調査の方法

上記対象者に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。
またアンケートはウェブ上で実施した。

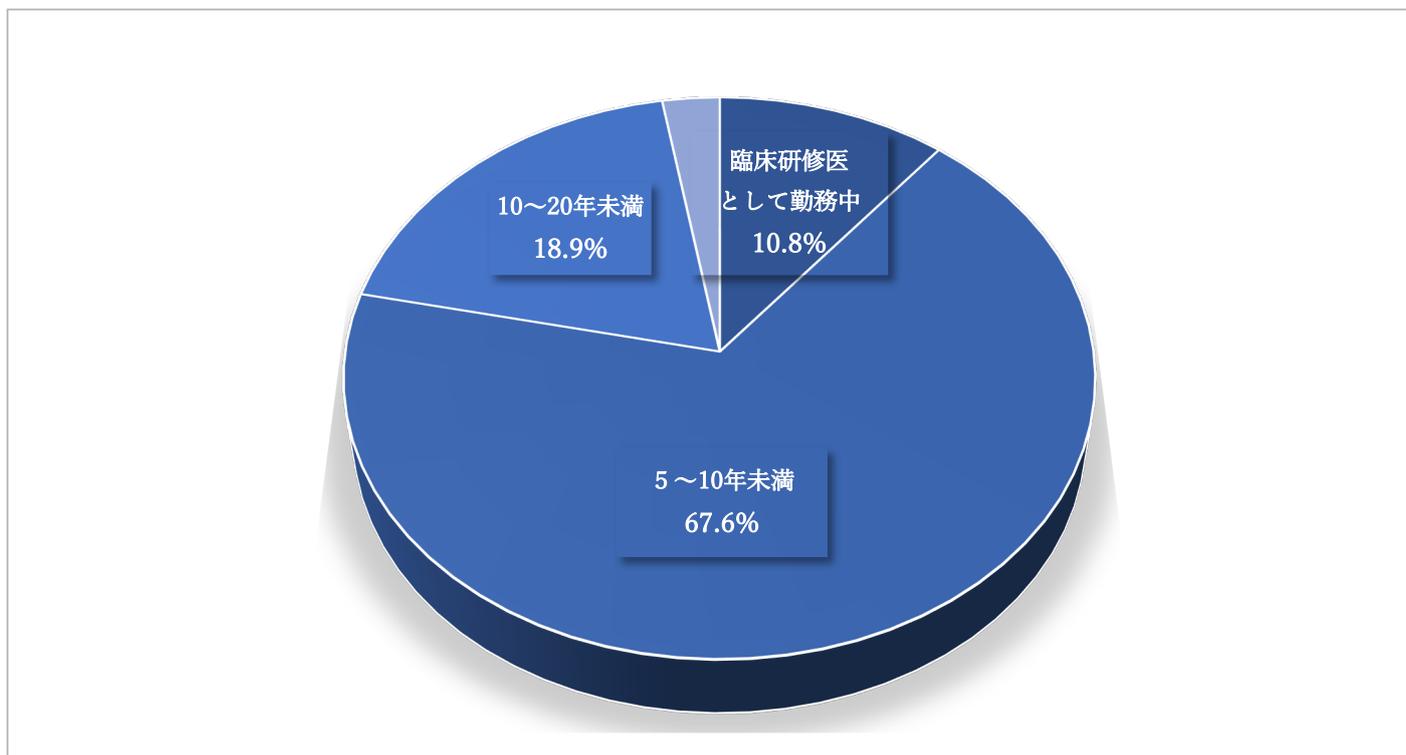
（３） 回答数

37名

（４） 調査期間

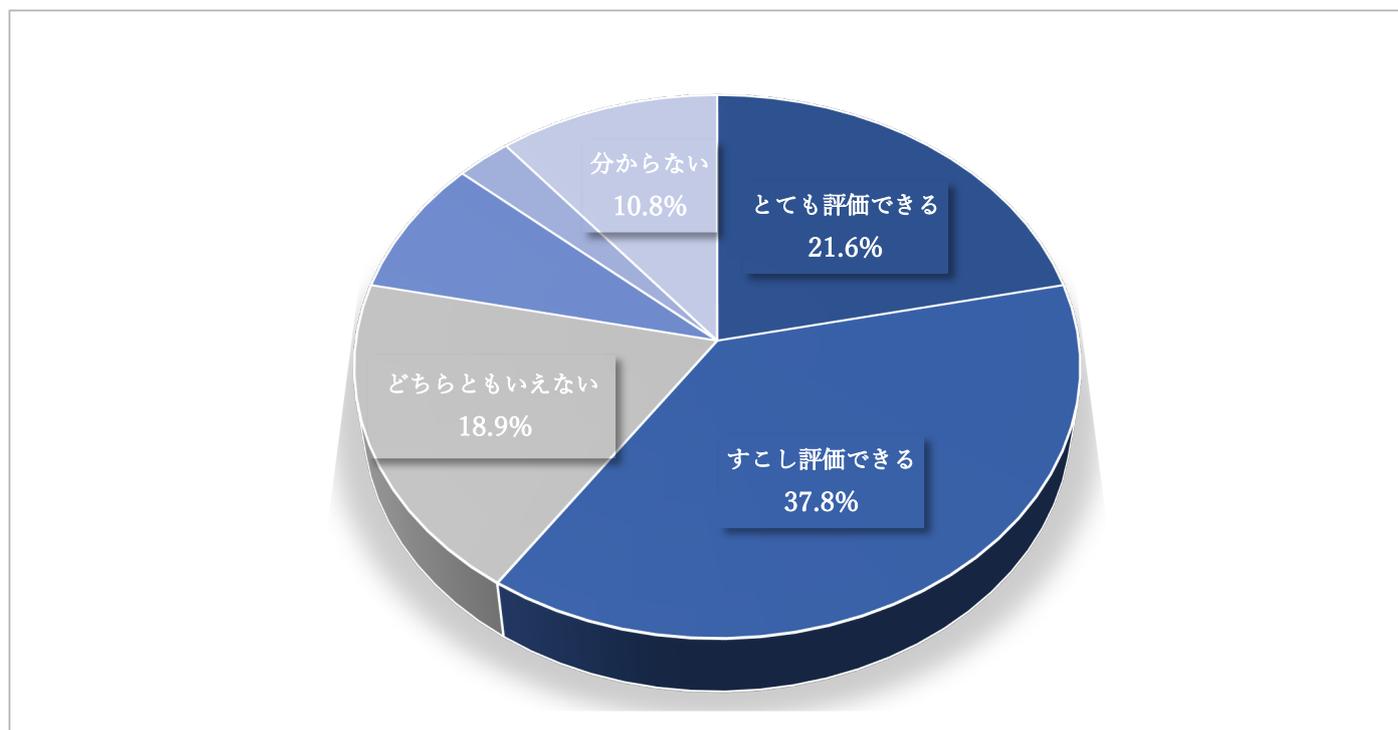
令和4年11月7日（月）～令和5年1月22日（日）

問1 あなたの医師としての勤続年数を選択してください（他の機関を含む）。



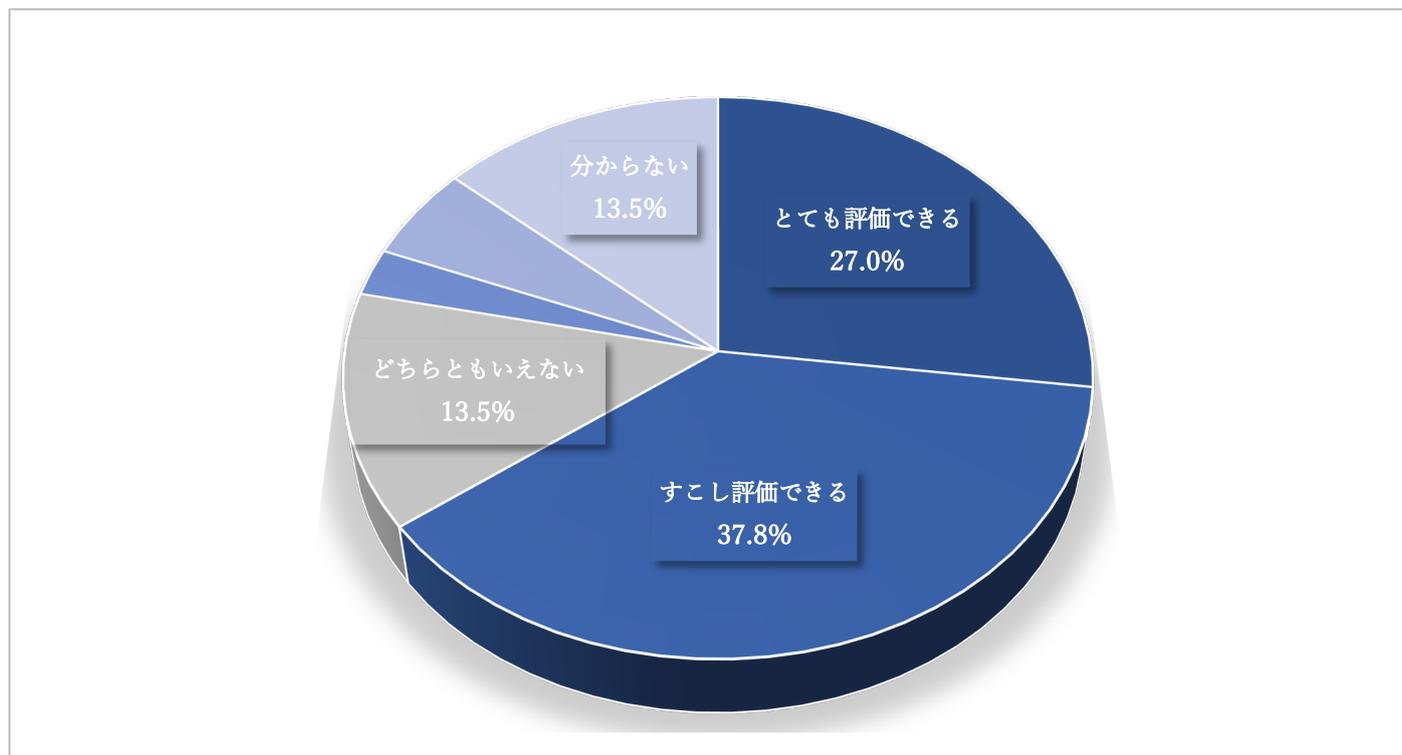
選択肢	回答数	割合
臨床研修医として勤務中	4	10.8%
5～10年未満	25	67.6%
10～20年未満	7	18.9%
20年以上	1	2.7%
その他	0	0.0%

問2 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



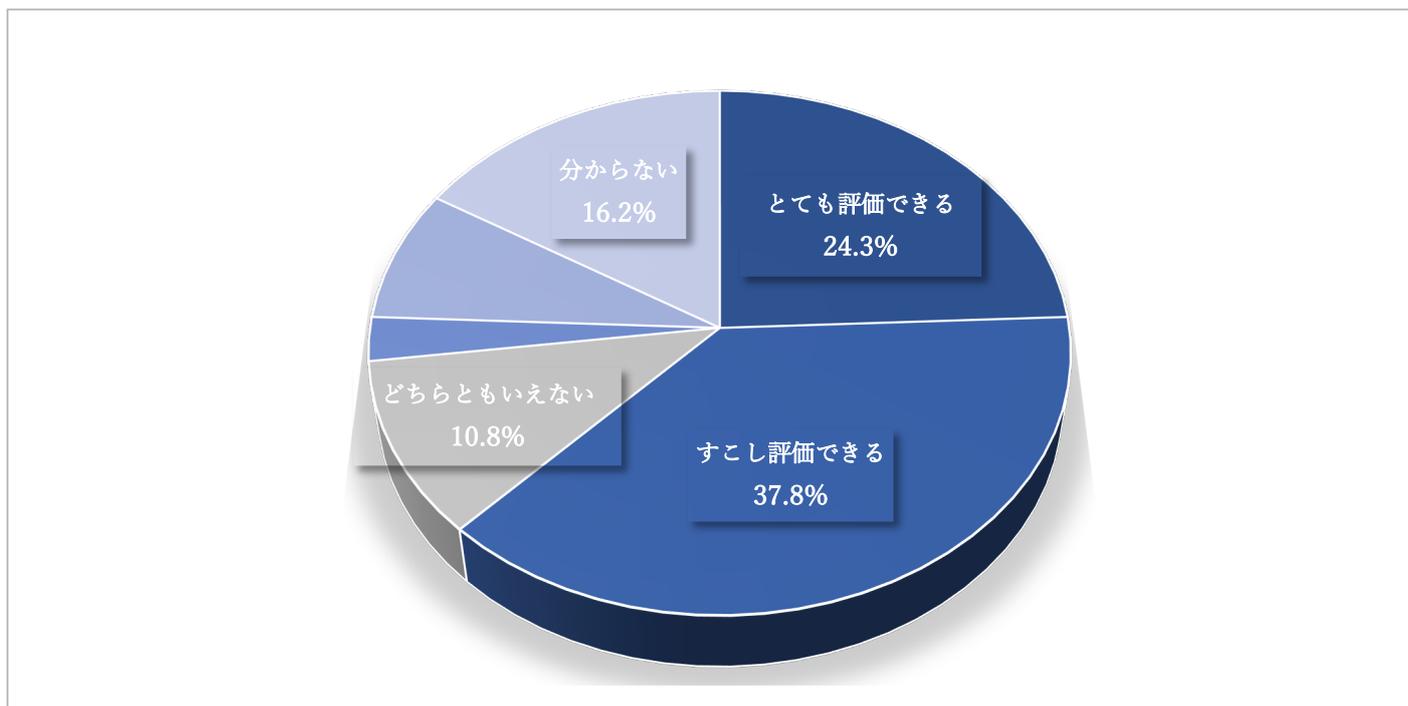
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	8	21.6%
少し評価できる	14	37.8%
どちらともいえない	7	18.9%
あまり評価できない	3	8.1%
まったく評価できない	1	2.7%
分からない	4	10.8%

問3 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



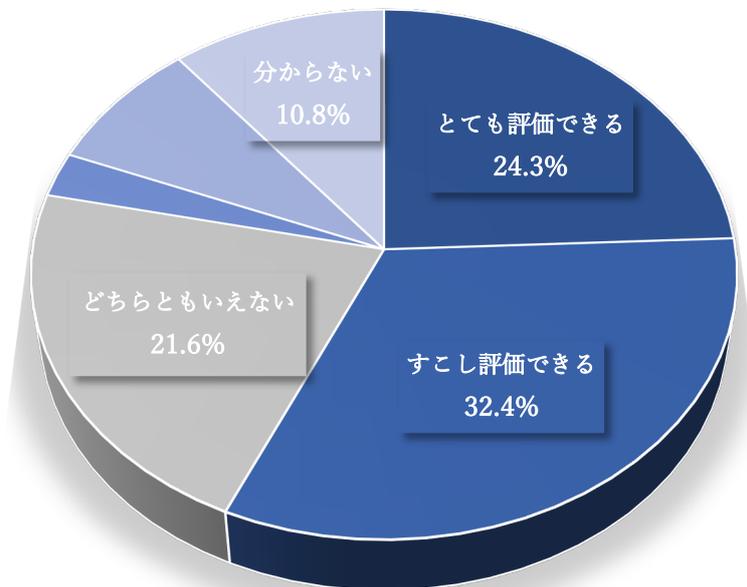
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	10	27.0%
すこし評価できる	14	37.8%
どちらともいえない	5	13.5%
あまり評価できない	1	2.7%
まったく評価できない	2	5.4%
分からない	5	13.5%

問4 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。



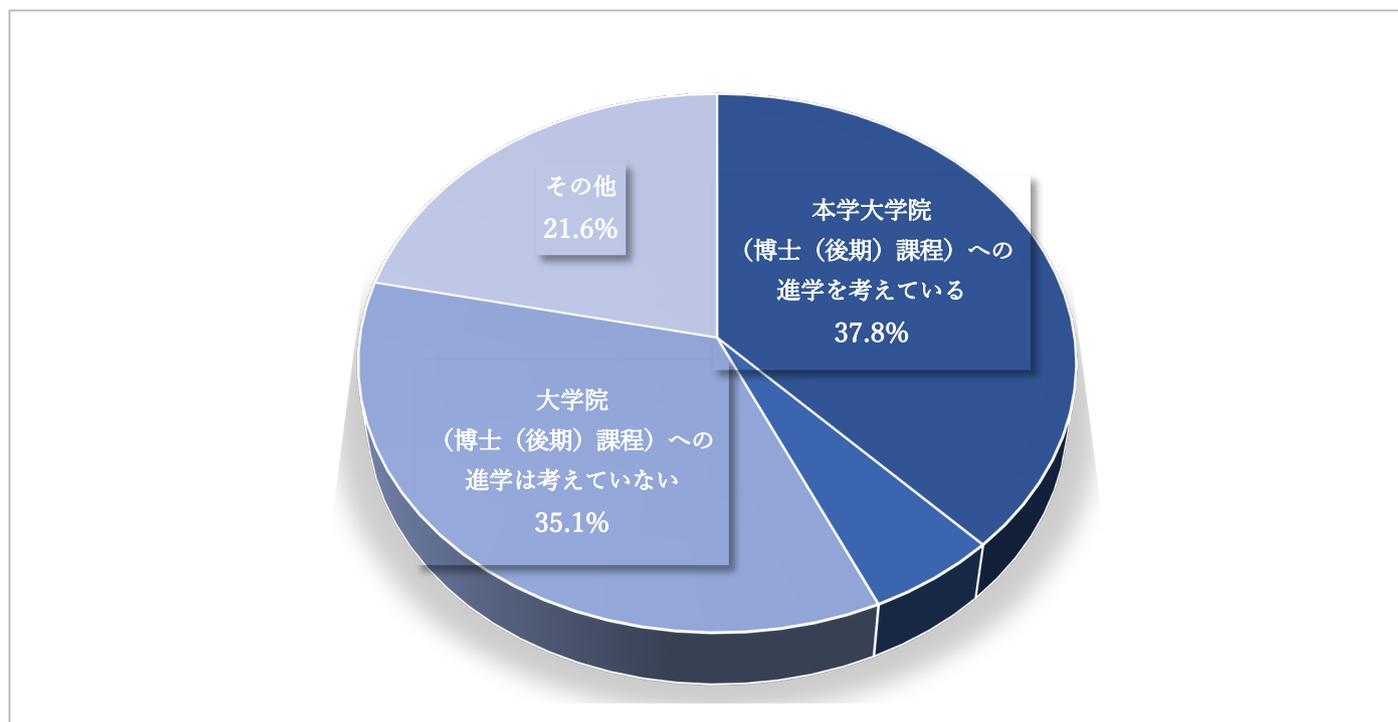
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	9	24.3%
すこし評価できる	14	37.8%
どちらともいえない	4	10.8%
あまり評価できない	1	2.7%
まったく評価できない	3	8.1%
分からない	6	16.2%

問5 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



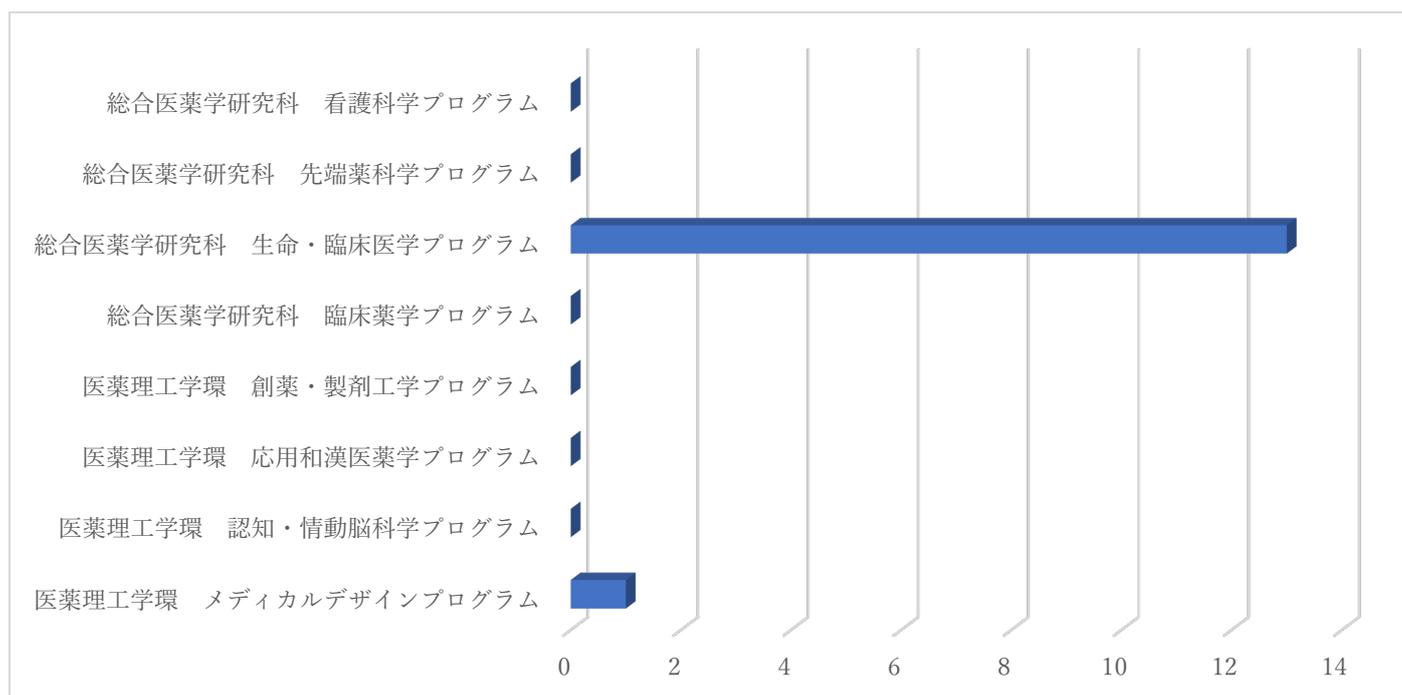
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	9	24.3%
すこし評価できる	12	32.4%
どちらともいえない	8	21.6%
あまり評価できない	1	2.7%
まったく評価できない	3	8.1%
分からない	4	10.8%

問6 あなたは、令和6年4月以降に、大学院への進学を考えていますか。



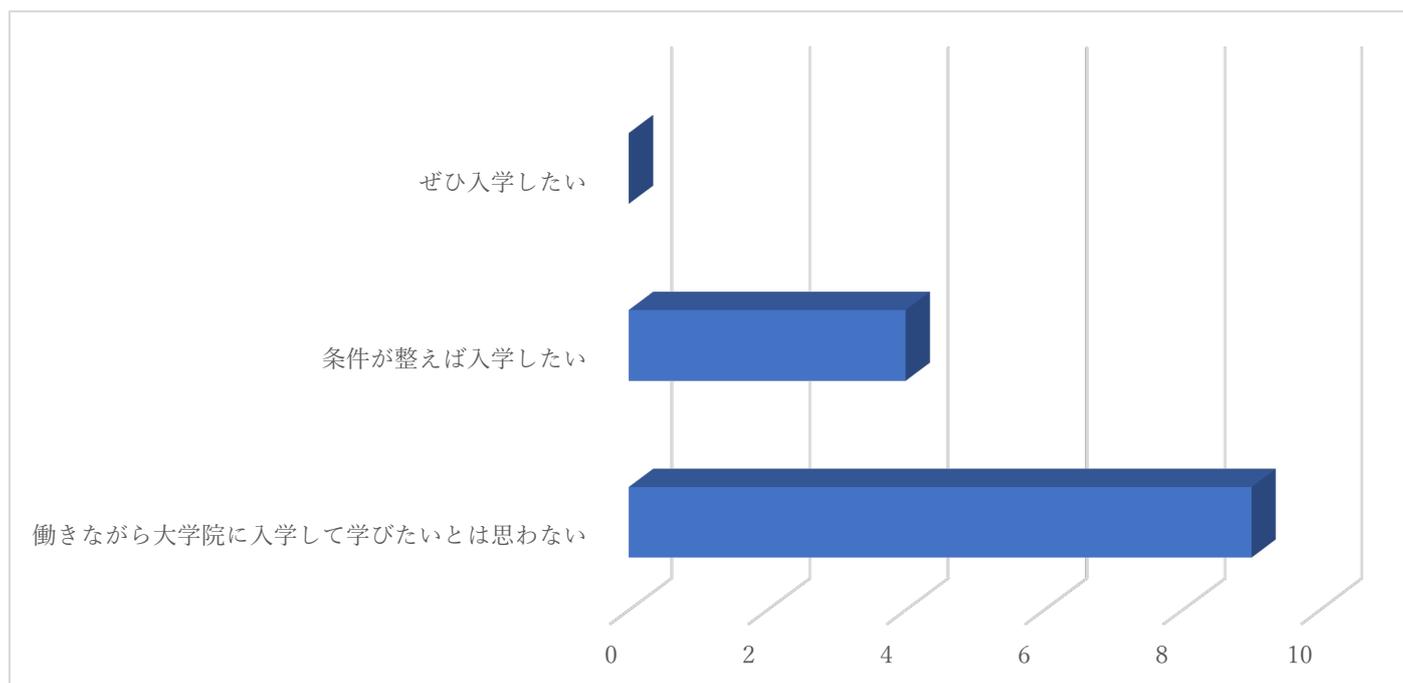
選択肢	回答数	割合
本学大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	14	37.8%
国内の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	2	5.4%
海外の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	0	0.0%
大学院（博士（後期）課程）への進学は考えていない	13	35.1%
その他	8	21.6%

問7 6. で「本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムを1つ選択してください。※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	13	92.9%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	1	7.1%

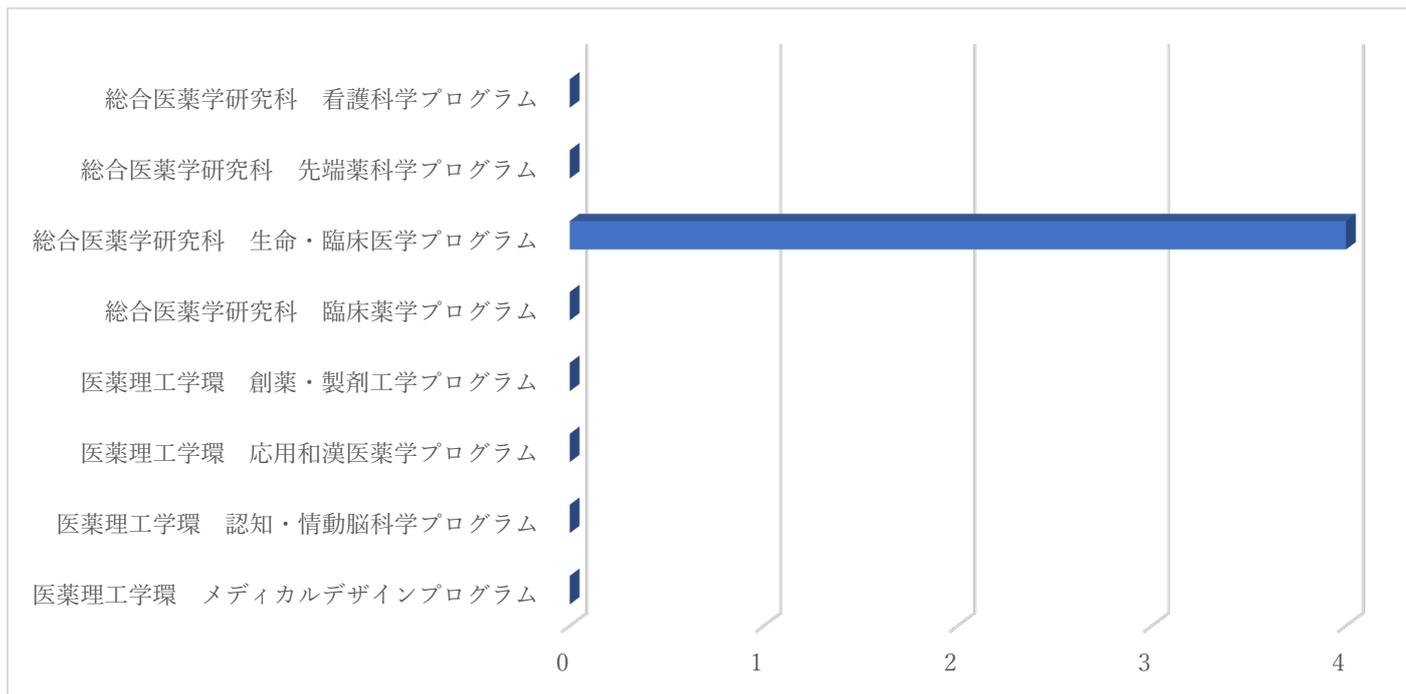
問8 6. で「大学院（博士（後期）課程）への進学は考えていない」と回答した方についてお答えください。
 今後、働きながらスキルアップ・キャリアアップを目的として富山大学博士課程に入学したいですか。



選択肢	回答数	割合
ぜひ入学したい	0	0.0%
条件が整えば入学したい	4	30.8%
働きながら大学院に入学して学びたいとは思わない	9	69.2%

問9 7. で「ぜひ入学したい」「条件が整えば入学したい」と回答した方についてお答えください。就職後、ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムがありましたら回答してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	4	100.0%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	0	0.0%

富山大学大学院博士課程に関するアンケート（富山大学附属病院 医員・研修医）

このアンケートは、2024年4月に改組を予定している富山大学大学院（博士（後期）課程）に関するニーズを把握し、今後の改組準備に役立てるために実施するものです。調査結果は、本学の大学院教育の改革に活用していくものになりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

※回答内容によって、皆さんに不利益が生じることはありません。

※いただいた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。

* 必須

1. あなたの医師としての勤続年数を選択してください（他の機関を含む）。*

- 臨床研修医として勤務中
- 5～10年未満
- 10～20年未満
- 20年以上
- その他

以降の設問は、別途添付している「富山大学大学院の改組構想」
をご覧ください。

※別添の「富山大学大学院の改組構想」は、以下のURLからもご覧いただけます。

総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/sougouiyakugaku.pdf>

医薬理工学環

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/iyakurikou.pdf>

2. 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

3. 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

4. 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

5. 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」，「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。

*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

6. あなたは、令和6年4月以降に、大学院への進学を考えていますか。

*

- 本学大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 国内の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 海外の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 大学院（博士（後期）課程）への進学は考えていない
- その他

7. 6. で「本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムを1つ選択してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム【博士（看護学）】
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム【博士（薬科学）】
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム【博士（医学）】
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム【博士（薬学）】
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム【博士（薬科学）】
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム【博士（薬科学）】
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム【博士（神経科学）】
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム【博士（医工学）】

8. 6. で「大学院（博士（後期）課程）への進学は考えていない」と回答した方についてお答えください。今後、働きながらスキルアップ・キャリアアップを目的として富山大学博士課程に入学したいですか。

- ぜひ入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 働きながら大学院に入学して学びたいとは思わない

9. 7. で「ぜひ入学したい」「条件が整えば入学したい」と回答した方についてお答えください。就職後、ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムがありましたら回答してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム【博士（看護学）】
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム【博士（薬科学）】
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム【博士（医学）】
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム【博士（薬学）】
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム【博士（薬科学）】
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム【博士（薬科学）】
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム【博士（神経科学）】
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム【博士（医工学）】

10. その他ご意見等があれば記載してください。

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

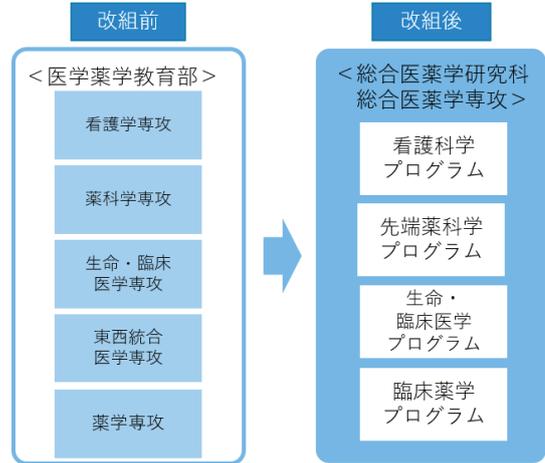
総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

2024年4月から、医学薬学教育部から総合医薬学研究科に改組する予定です

総合医薬学研究科の概要

医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）は、5専攻（看護学専攻、薬科学専攻、生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻、薬学専攻）を再編し、1専攻4プログラムからなる総合医薬学研究科に改組します。

1専攻4プログラムへの再編により、医療に関する実践的な多職種連携・協働とイノベーションにつながる包括的な医療的素養を身に付けさせる環境を整備し、医薬融合を更に高いレベルにて実践し、基礎医薬学と臨床医薬学の環流の飛躍的に推進することを見込んでいます。高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ高度な医師、薬剤師、看護職、医薬学研究者などを育成することが可能となります。



養成する人材像

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

看護科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（看護学）	募集人員：3人
<p>【養成する人材像】</p> <p>「基礎看護科学分野」「臨床・生体機能看護科学分野」「地域ケアシステム看護科学分野」の3分野を設け、看護科学における幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を行う。看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>看護職(保健師・助産師・看護師) 指導者(基幹・地域病院、保健所等行政機関) 看護教育・研究者(大学・短大等看護職養成機関)</p>	
先端薬科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（薬科学）	募集人員：6人
<p>【養成する人材像】</p> <p>薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>企業(製薬企業創薬研究者、化学メーカー研究者) 大学教員(薬学研究者、生命科学研究者) 治験関連(臨床開発研究者)</p>	
生命・臨床医学プログラム（博士課程）	学位：博士（医学）	募集人員：30人
<p>【養成する人材像】</p> <p>疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>医師(病院、行政機関) 教員・研究者(大学、研究所等) 企業(創薬開発) 治験関連</p>	
臨床薬学プログラム（博士課程）	学位：博士（薬学）	募集人員：4人
<p>【養成する人材像】</p> <p>臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>薬剤師(大学病院薬剤部、認定薬局、行政機関) 大学教員・研究者(大学、研究所等) 企業(医療研究開発、臨床研究実施)</p>	

カリキュラムの特徴

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

医学・薬学・看護学を統合した教育課程

本研究科は、医学部と薬学部、附属病院が同じキャンパスにある「地の利」を生かした医学・薬学・看護学を総合した特色ある教育課程とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成します。



研究科共通科目の開設

大学院博士課程レベルの研究科共通科目として「**医薬学プロフェッショナル研究論**」を開設します。本科目により医学・薬学・看護学領域のプロの研究者となるための必須のスキルを修得するとともに、臨床と基礎を横断した総合的な医療人材を育成します。医療の現場における上位職では、特定分野だけではなく様々な分野を俯瞰して理解した上でマネジメントを行うことが求められるため、高度な専門レベルでの複数分野を理解し、的確なリーダーシップを発揮できる能力を育成します。



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

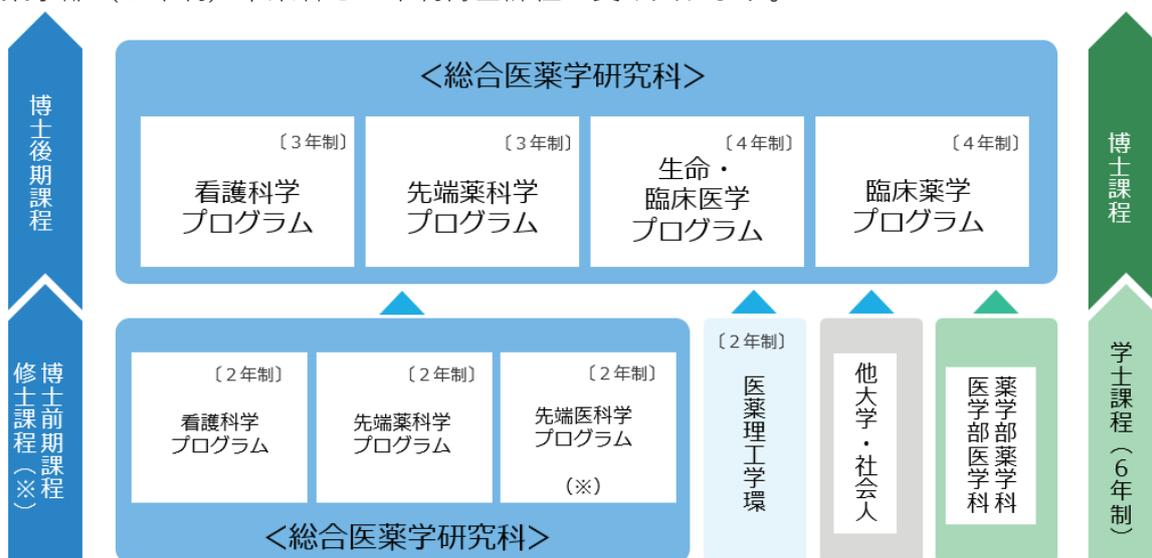
社会人のオンライン教育

社会人大学院生の学修機会の確保として、オンデマンド教育やオンライン教育を充実させます。



学部・修士課程との接続

総合医薬学研究科（博士前期課程・修士課程）の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。また、本学の医薬理工系大学院修士課程である「医薬理工学環」修了生も一部受け入れ、他分野指導体制を実施します。さらに、医学部及び薬学部（6年制）卒業生を4年制博士課程に受け入れます。



入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料（年額）
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学杉谷キャンパス
（富山県富山市杉谷2630）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

医薬理工学環（博士後期課程）

2024年4月に、総合医薬学研究科と理工学研究科の係により医薬理工学環を設置します

医薬理工学環の概要

医薬理工学環は、総合医薬学研究科・理工学研究科の係により設置します。

本学環は、**医薬理工を横断した教員体制**を基盤とし、富山県における産業等の強み・特徴・課題である、**医薬品開発、和漢医薬学、脳科学、医療機器・福祉機器開発**など、創薬・ヘルスケア分野への貢献という、プログラム毎に出口を明確化した教育課程を構築し、各分野の高度人材の育成を目指します。



医学、薬学、理学及び工学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度専門職業人や教育研究者としての人材を育成します。

養成する人材像

<p>創薬・製剤工学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 創薬・製剤工学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医薬品開発・医薬品工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（薬科学） 募集人員：3人</p> <p>【修了後の進路】 ・企業（製薬企業創薬、製剤開発、DDS研究開発者） ・大学教員・研究者</p> 
<p>応用和漢医薬学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 応用和漢医薬学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、和漢医薬学・薬科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（薬科学） 募集人員：3人</p> <p>【修了後の進路】 ・生薬を扱う製薬企業等の研究者等 ・大学教員・研究者 ・薬事審査官等の省庁機関職員</p> 
<p>認知・情動脳科学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 認知・情動脳科学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、脳科学・神経科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（神経科学） 募集人員：4人</p> <p>【修了後の進路】 ・脳神経科学研究分野人材（国内外教育研究機関） ・医薬研究開発人材（創薬、臨床治験、企業等）</p> 
<p>メディカルデザインプログラム</p> <p>【養成する人材像】 メディカルデザインプログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医用・福祉工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（医工学） 募集人員：4人</p> <p>【修了後の進路】 ・ヘルスケア機器メーカーで機器を開発するエンジニア ・ヘルスケアサービス企業でサービスやビジネスモデルを開発するプランナー ・医用・福祉工学の研究・教育者</p> 

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

カリキュラムの特徴

横断的な学位論文研究の指導

学系を横断した3名以上の複数指導教員による研究指導体制を構築し、高い専門性ととも幅広い視野を備え、専門分野の枠にとられない独創性・創造性を持った人材を養成します。

分野横断的教育体制の構築

各プログラムの研究分野における先端研究の、高度かつ俯瞰的な企画・遂行能力を養成するため、以下の科目を開講します。

- ・プログラム別演習科目：学系を横断した複数指導教員により、学位論文研究に関わる演習を行う
- ・プログラム別実習科目：所属プログラムの諸課題を俯瞰的に解決する実験技術を、学系を超えた異分野での学内留学で養成する
- ・プログラム別講義科目：所属プログラムの先端課題を提示・解決できる専門知識を、学系を超えた講義体制で養成する



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

学環共通科目の設定

異分野と連携・融合する能力や、学術研究の成果を社会実装に連結する能力を養うため、以下のような学環共通科目を設定します。

- ・先端研究企画演習(リサーチ・プロポーザル)：学生自身の専門とは異なる分野の研究を企画立案することで、新たな発想の創出やチームリーダーとしての資質向上を目指す
- ・研究インターンシップ(長期インターンによる企業・研究機関での開発・研究の実習を通して、大学院と社会の連結を実践)
- ・国際連携実習(学位論文研究に関連した海外研究機関での共同研究を実施)

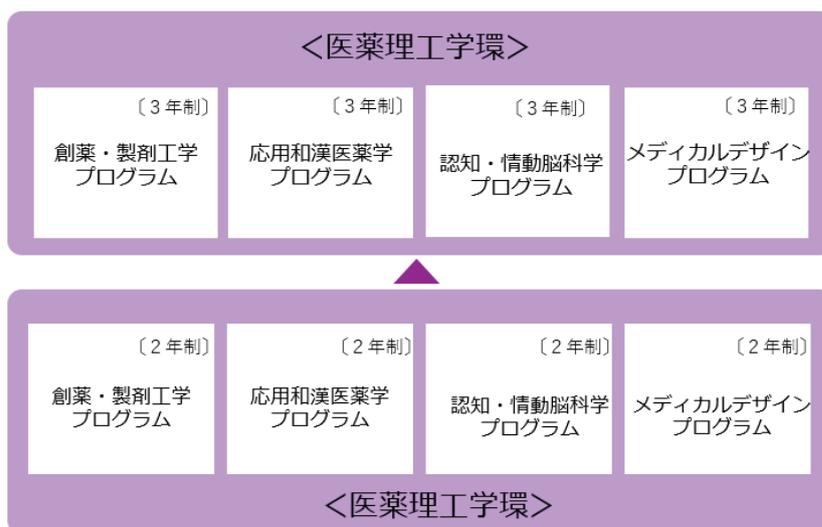
本学博士前期課程との接続

令和4年4月に修士課程「医薬理工学環」を設置しており、本組織の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。(令和6年4月の博士後期課程設置時に、修士課程を博士前期課程に改めます。)

その他、本学の医薬理工系大学院である、「総合医薬学研究科」又は「理工学研究科」修了生及び他大学修了者、社会人も受け入れます。

博士後期課程

博士前期課程



入学科・授業料(2022年11月現在)

入学科	授業料
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学五福キャンパス
(富山県富山市五福3190)
富山大学杉谷キャンパス
(富山県富山市杉谷2630)

(富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく)

富山大学大学院博士課程（主に医療系大学院）に関するアンケート結果

■ 調査の概要

(1) 調査の対象

富山県内の医療機関等 27 機関

(2) 調査の方法

上記対象企業等に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。
またアンケートはウェブ上で実施した。

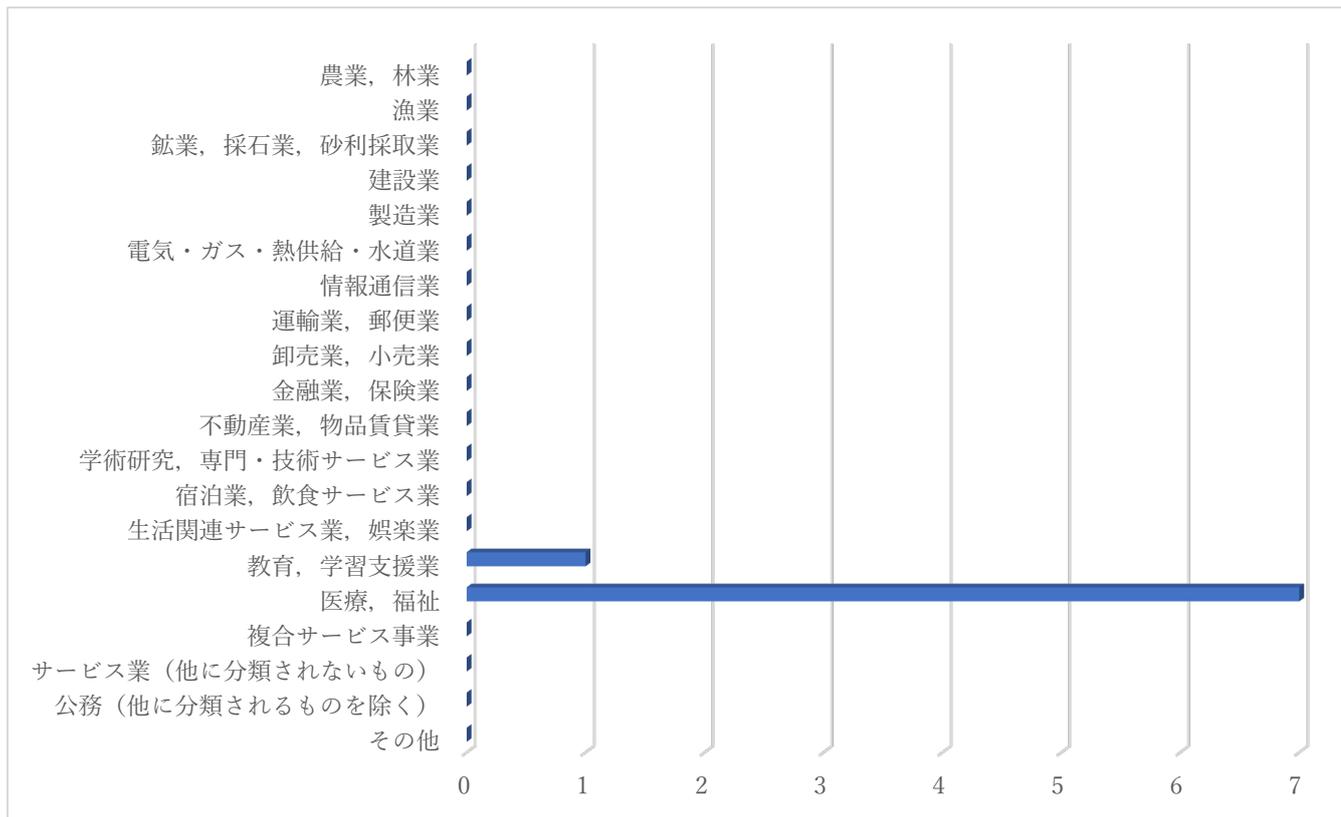
(3) 回答数

8 機関

(4) 調査期間

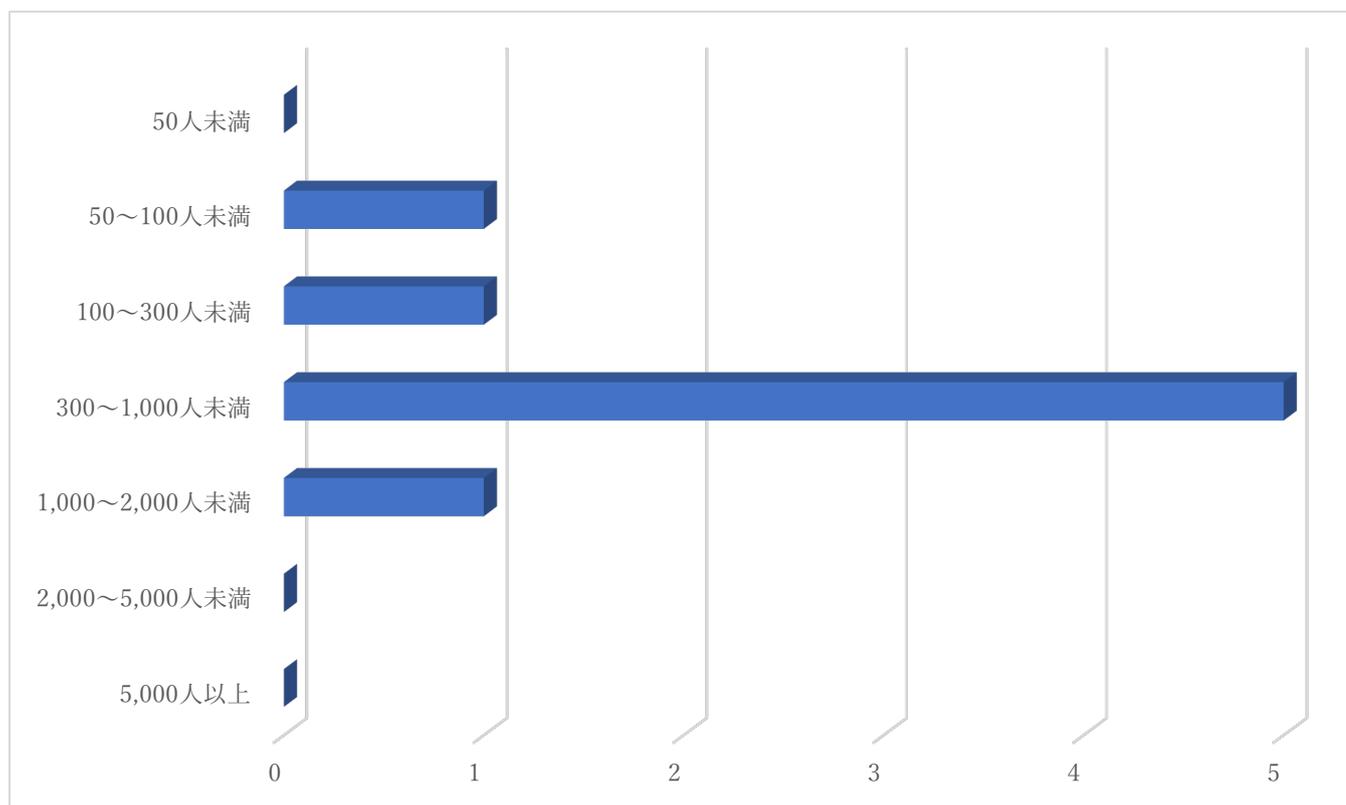
令和4年11月7日（火）～令和4年12月26日（月）

問1 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを選んでください（主たるものをひとつ）。※以下の分類は、日本標準産業分類（総務省）による分類です。



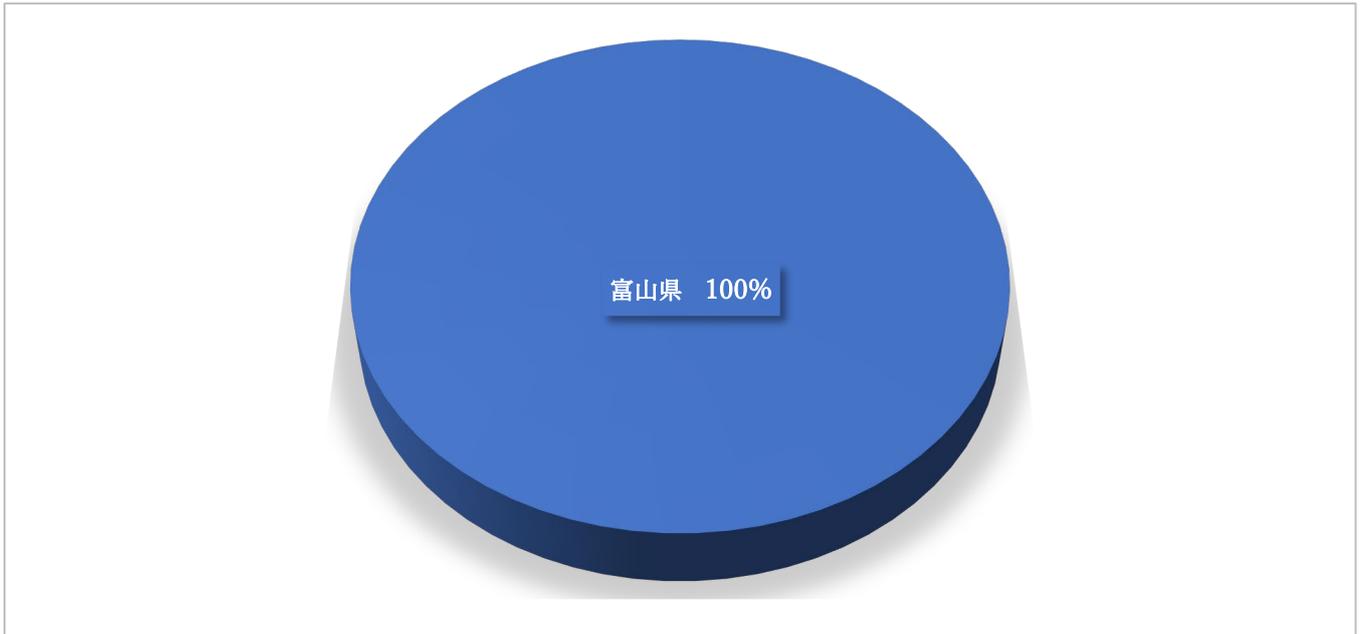
選択肢	回答数	割合
農業, 林業	0	0%
漁業	0	0%
鉱業, 採石業, 砂利採取業	0	0%
建設業	0	0%
製造業	0	0%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0%
情報通信業	0	0%
運輸業, 郵便業	0	0%
卸売業, 小売業	0	0%
金融業, 保険業	0	0%
不動産業, 物品賃貸業	0	0%
学術研究, 専門・技術サービス業	0	0%
宿泊業, 飲食サービス業	0	0%
生活関連サービス業, 娯楽業	0	0%
教育, 学習支援業	1	12.5%
医療, 福祉	7	87.5%
複合サービス事業	0	0%
サービス業（他に分類されないもの）	0	0%
公務（他に分類されるものを除く）	0	0%
その他	0	0%

問2 貴社の従業員数について、該当するものを選んでください。



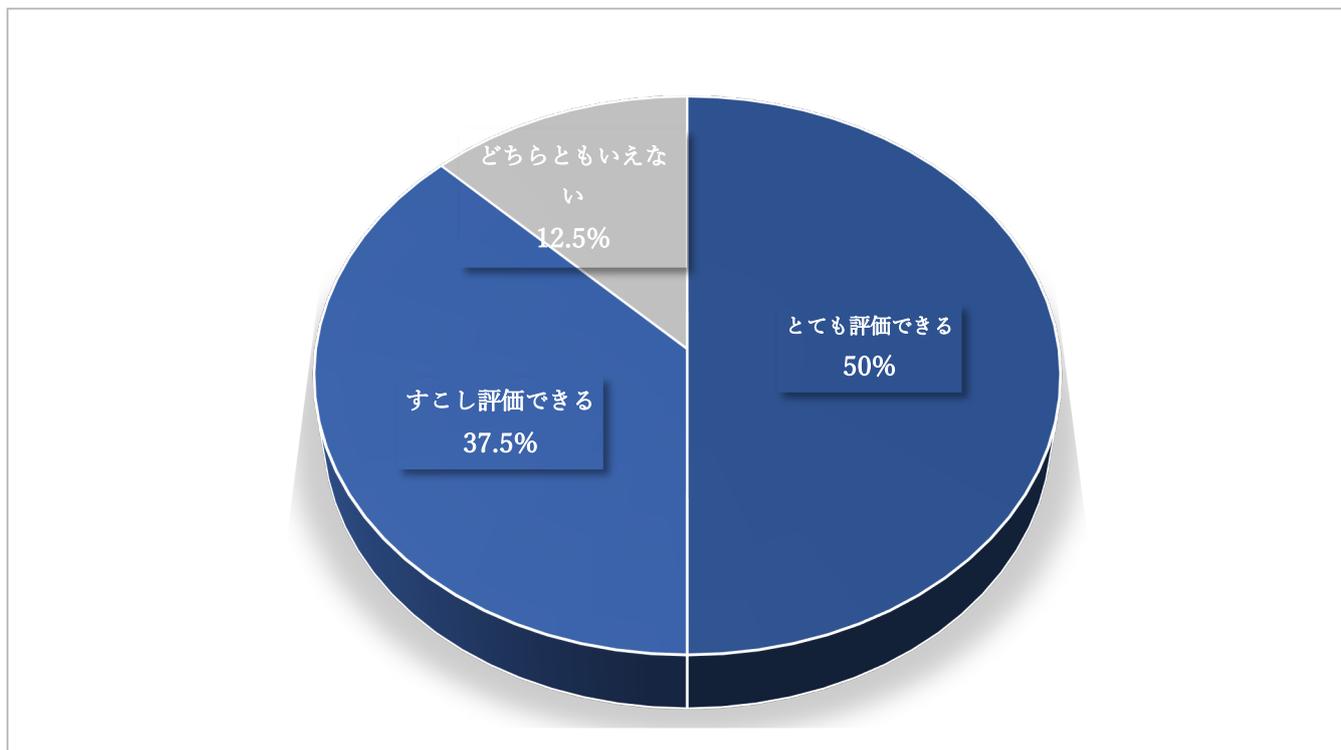
選択肢	回答数	割合
50人未満	0	0%
50~100人未満	1	12.5%
100~300人未満	1	12.5%
300~1,000人未満	5	62.5%
1,000~2,000人未満	1	12.5%
2,000~5,000人未満	0	0%
5,000人以上	0	0%

問3 貴社の所在地を都道府県で記載してください。貴社が事業所ごとの採用を行っており、事業所において本調査に回答される場合は、当該事業所の所在地を都道府県で記載してください。



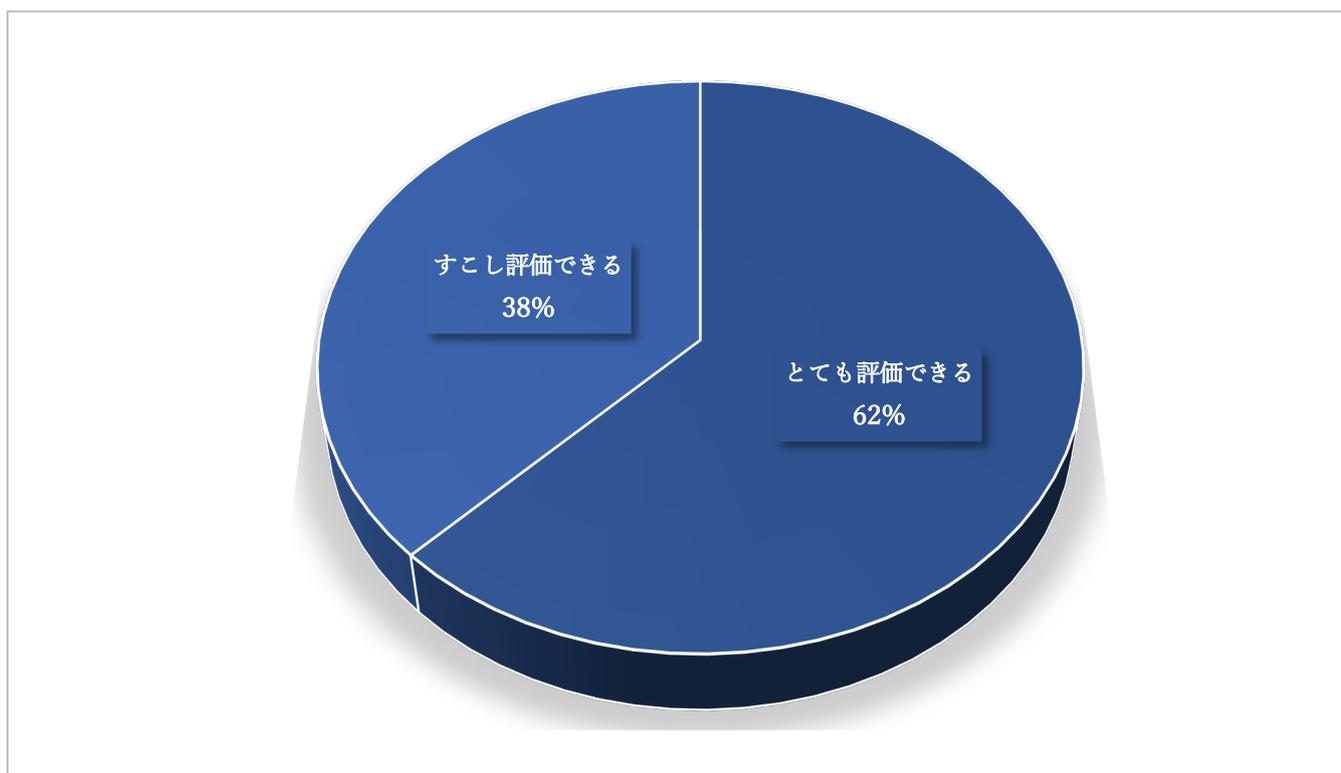
自由記述	回答数	割合
富山県	8	100%

問4 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



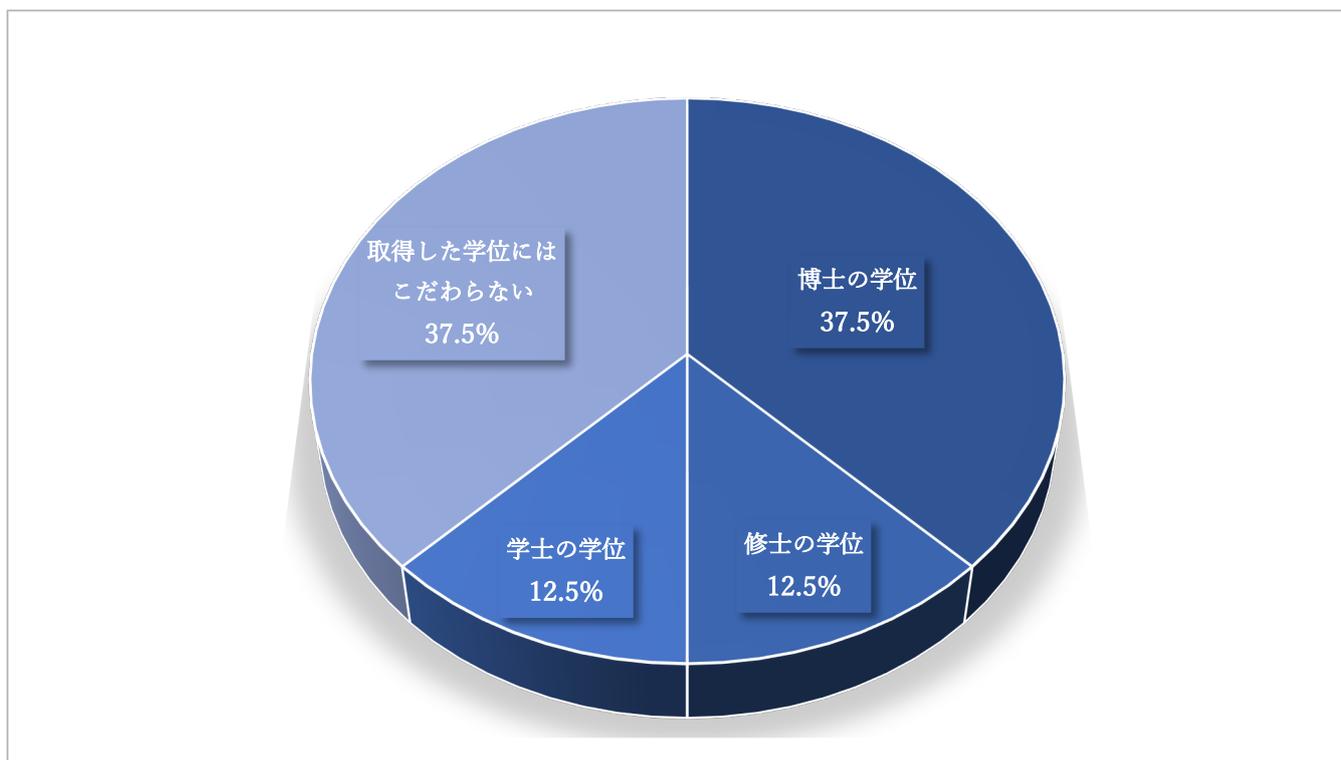
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	4	50%
すこし評価できる	3	37.5%
どちらともいえない	1	12.5%
あまり評価できない	0	0%
まったく評価できない	0	0%
分からない	0	0%

問5 大学院総合医薬学研究科では、高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ専門職医療人や高度専門職業人を育成するという目的を掲げています。そのような人材を養成することは評価できますか。



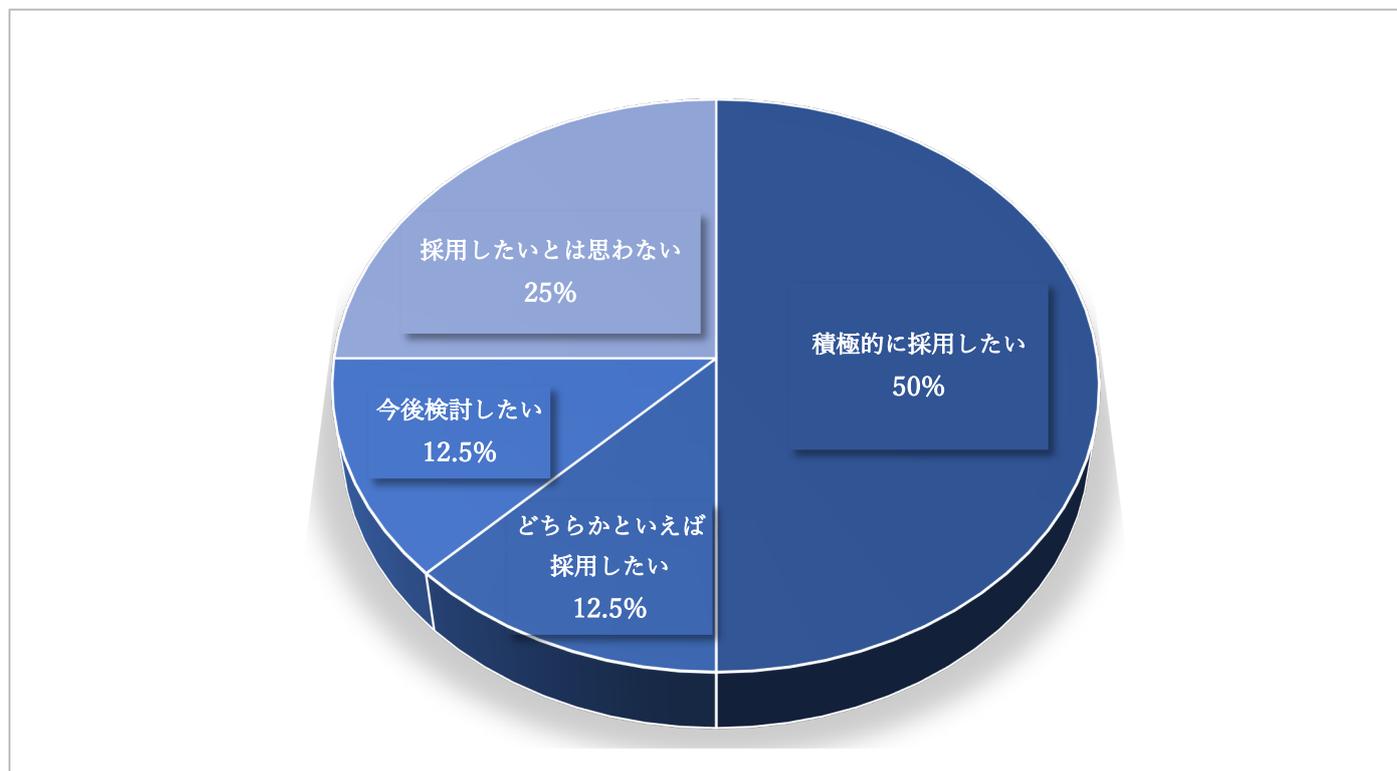
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	5	62%
すこし評価できる	3	38%
どちらともいえない	0	0%
あまり評価できない	0	0%
まったく評価できない	0	0%
分からない	0	0%

問6 貴社・貴施設における管理職（例：診療科長，看護部長，薬剤部長等部長相当職）を担う者として，取得が望ましい学位についてどのようにお考えですか。



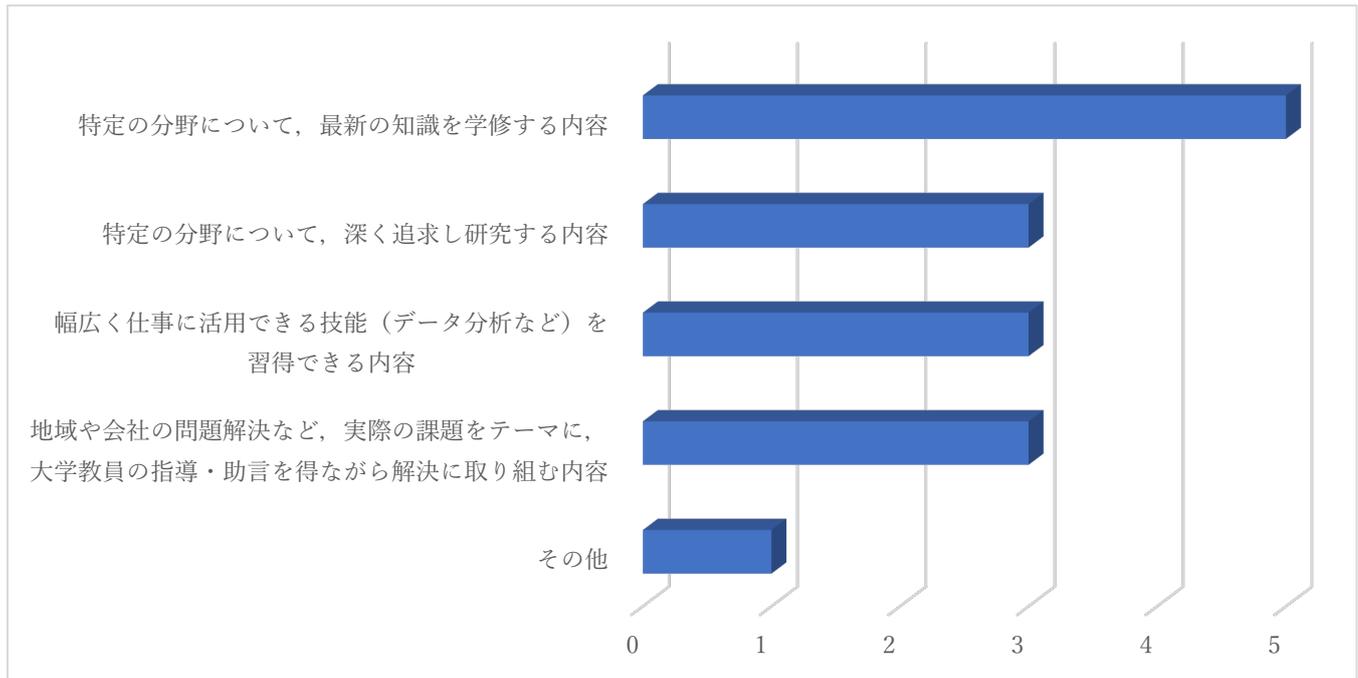
選択肢	回答数	割合
博士の学位を取得した者が望ましい	3	37.5%
修士の学位を取得した者が望ましい	1	12.5%
学士の学位を取得した者が望ましい	1	12.5%
取得した学位にはこだわらない	3	37.5%
分からない	0	0%

問7 大学院総合医薬学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどのようにお考えですか。



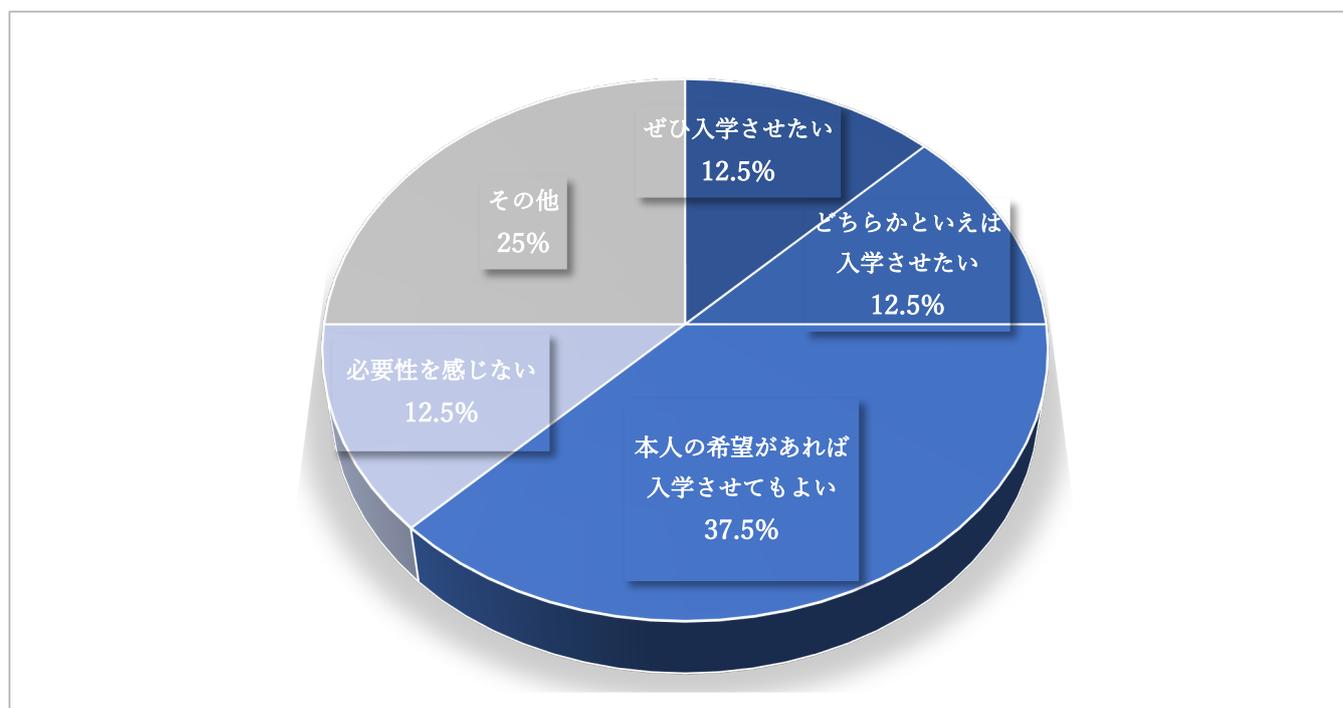
選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	4	50%
どちらかといえば採用したい	1	12.5%
今後検討したい	1	12.5%
採用したいとは思わない	2	25%

問8 「積極的に採用したい」「どちらかといえば採用したい」「今後検討したい」と回答した方に伺います。大学院博士課程へ社員・職員を入学させる場合、大学にどのような内容を求めますか（複数回答可）。



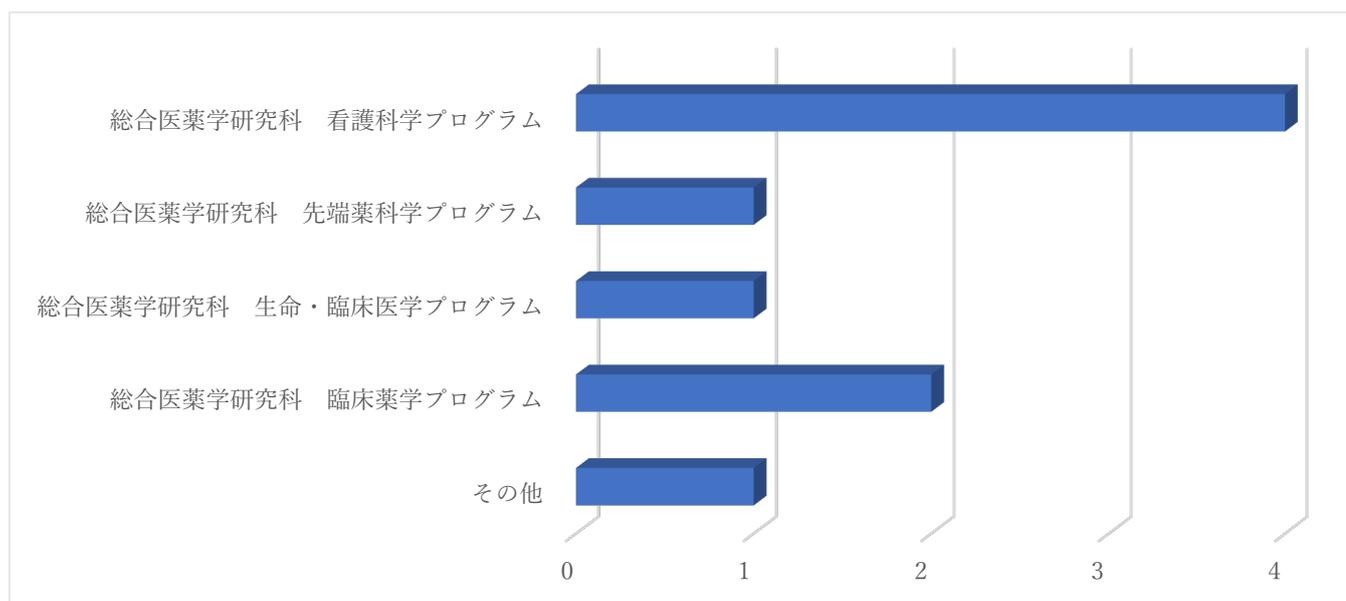
選択肢	回答数	割合
特定の分野について、最新の知識を学修する内容	5	16.7%
特定の分野について、深く追求し研究する内容	3	50%
幅広く仕事に活用できる技能（データ分析など）を習得できる内容	3	50%
地域や会社の問題解決など、実際の課題をテーマに、大学教員の指導・助言を得ながら解決に取り組む内容	3	50%
その他	1	83.3%

問9 リカレント教育として貴社の社員・職員を大学院博士課程に入学させたいですか。



選択肢	回答数	割合
ぜひ入学させたい	1	12.5%
どちらかといえば入学させたい	1	12.5%
本人の希望があれば入学させてもよい	3	37.5%
今後検討したい	0	0%
必要性を感じない	1	12.5%
その他	2	25%

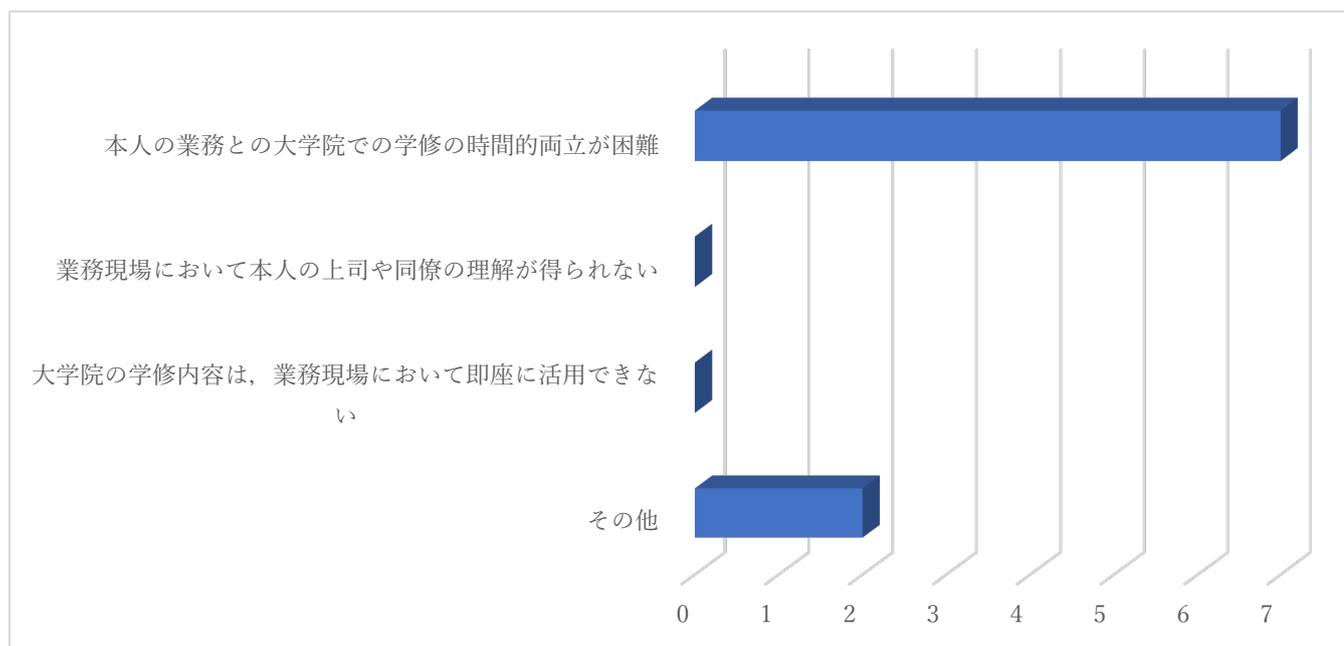
問 10 「ぜひ入学させたい」「どちらかといえば入学させたい」「本人の希望があれば入学させてもよい」「今後検討したい」と回答した方についてお答えください。
どのプログラムに貴社の社員・職員を大学院に入学させたいですか。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	4	45%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	1	11%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	1	11%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	2	22%
その他	1	11%

※複数回答あり

問 11 貴社にとって社員・職員の大学院入学に関して障害と考えられることはどのようなことですか（複数回答可）。



選択肢	回答数	割合
本人の業務との大学院での学修の時間的両立が困難	7	87.5%
業務現場において本人の上司や同僚の理解が得られない	0	0%
大学院の学修内容は、業務現場において即座に活用できない	0	0%
その他	2	25%

問 12 最後に、富山大学大学院の改組構想に関しまして、全体を通じてご意見がございましたらお聞かせください。

- ・専門的分野を深く掘り下げ、研究者、専門家、教育者の養成を目指していることは県内の総合大学として評価できる。

富山大学大学院博士課程（主に医療系大学院）に関するアンケート

このアンケートは、改組予定の富山大学大学院の修了者に関する社会的ニーズを把握し、今後の改組準備に役立てるために実施するものです。調査結果は、本学の大学院教育の改革に活用していくものになりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

なお、いただいた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。

* 必須

1. 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを選んでください（主たるものをひとつ）。

※以下の分類は、日本標準産業分類（総務省）による分類です。*

- 農業，林業
- 漁業
- 鉱業，採石業，砂利採取業
- 建設業
- 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 情報通信業
- 運輸業，郵便業
- 卸売業，小売業
- 金融業，保険業
- 不動産業，物品賃貸業
- 学術研究，専門・技術サービス業
- 宿泊業，飲食サービス業
- 生活関連サービス業，娯楽業
- 教育，学習支援業
- 医療，福祉
- 複合サービス事業
- サービス業（他に分類されないもの）
- 公務（他に分類されるものを除く）
- その他

2. 貴社の従業員数について、該当するものを選んでください。*

- 50人未満
- 50～100人未満
- 100～300人未満
- 300～1,000人未満
- 1,000～2,000人未満
- 2,000～5,000人未満
- 5,000人以上

3. 貴社の所在地を都道府県で記載してください。

貴社が事業所ごとの採用を行っており、事業所において本調査に回答される場合は、当該事業所の所在地を都道府県で記載してください。

*

大変お手数ですが、以降の設問は、別途添付している「富山大学大学院の改組構想」をご覧ください。

※別添の「富山大学大学院の改組構想」は、以下のURLからもご覧いただけます。

総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/sougouiyakugaku.pdf>

4. 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

5. 大学院総合医薬学研究科では、高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ専門職医療人や高度専門職業人を育成するという目的を掲げています。そのような人材を養成することは評価できますか。

*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

6. 貴社・貴施設における管理職（例：診療科長，看護部長，薬剤部長等部長相当職）を担う者として，取得が望ましい学位についてどのようにお考えですか。*

- 博士の学位を取得した者が望ましい
- 修士の学位を取得した者が望ましい
- 学士の学位を取得した者が望ましい
- 取得した学位にはこだわらない
- 分からない

7. 大学院総合医薬学研究科を修了し，博士の学位を取得した者の採用についてどのようにお考えですか。*

- 積極的に採用したい
- どちらかといえば採用したい
- 今後検討したい
- 採用したいとは思わない

8. 「積極的に採用したい」「どちらかといえば採用したい」「今後検討したい」と回答した方に伺います。大学院博士課程へ社員・職員を入学させる場合，大学にどのような内容を求めますか（複数回答可）。

- 特定の分野について，最新の知識を学修する内容
- 特定の分野について，深く追求し研究する内容
- 幅広く仕事に活用できる技能（データ分析など）を習得できる内容
- 地域や会社の問題解決など，実際の課題をテーマに，大学教員の指導・助言を得ながら解決に取り組む内容
- その他

9. リカレント教育として貴社の社員・職員を大学院博士課程に入学させたいですか。 *

- ぜひ入学させたい
- どちらかといえば入学させたい
- 本人の希望があれば入学させてもよい
- 今後検討したい
- 必要性を感じない
- その他

10. 「ぜひ入学させたい」「どちらかといえば入学させたい」「本人の希望があれば入学させてもよい」「今後検討したい」と回答した方についてお答えください。

どのプログラムに貴社の社員・職員を大学院に入学させたいですか。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム
- その他

11. 貴社にとって社員・職員の大学院入学に関して障害と考えられることはどのようなことですか（複数回答可）。 *

- 本人の業務との大学院での学修の時間的両立が困難
- 業務現場において本人の上司や同僚の理解が得られない
- 大学院の学修内容は、業務現場において即座に活用できない
- その他

12. 最後に、富山大学大学院の改組構想に関しまして、全体を通じてご意見がございましたらお聞かせください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。



富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

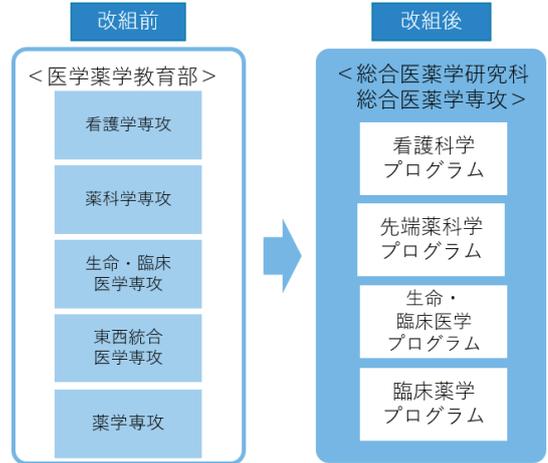
総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

2024年4月から、医学薬学教育部から総合医薬学研究科に改組する予定です

総合医薬学研究科の概要

医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）は、5専攻（看護学専攻、薬科学専攻、生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻、薬学専攻）を再編し、1専攻4プログラムからなる総合医薬学研究科に改組します。

1専攻4プログラムへの再編により、医療に関する実践的な多職種連携・協働とイノベーションにつながる包括的な医療的素養を身に付けさせる環境を整備し、医薬融合を更に高いレベルにて実践し、基礎医薬学と臨床医薬学の環流の飛躍的に推進することを見込んでいます。高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ高度な医師、薬剤師、看護職、医薬学研究者などを育成することが可能となります。



養成する人材像 ※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

看護科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（看護学）	募集人員：3人
<p>【養成する人材像】 「基礎看護科学分野」「臨床・生体機能看護科学分野」「地域ケアシステム看護科学分野」の3分野を設け、看護科学における幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を行う。看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】 看護職(保健師・助産師・看護師) 指導者(基幹・地域病院、保健所等行政機関) 看護教育・研究者(大学・短大等看護職養成機関)</p>	
先端薬科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（薬科学）	募集人員：6人
<p>【養成する人材像】 薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととも、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】 企業(製薬企業創薬研究者、化学メーカー研究者) 大学教員(薬学研究者、生命科学研究者) 治験関連(臨床開発研究者)</p>	
生命・臨床医学プログラム（博士課程）	学位：博士（医学）	募集人員：30人
<p>【養成する人材像】 疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】 医師(病院、行政機関) 教員・研究者(大学、研究所等) 企業(創薬開発) 治験関連</p>	
臨床薬学プログラム（博士課程）	学位：博士（薬学）	募集人員：4人
<p>【養成する人材像】 臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととも、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】 薬剤師(大学病院薬学部、認定薬局、行政機関) 大学教員・研究者(大学、研究所等) 企業(医療研究開発、臨床研究実施)</p>	

カリキュラムの特徴

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

医学・薬学・看護学を統合した教育課程

本研究科は、医学部と薬学部、附属病院が同じキャンパスにある「地の利」を生かした医学・薬学・看護学を総合した特色ある教育課程とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成します。



研究科共通科目の開設

大学院博士課程レベルの研究科共通科目として「**医薬学プロフェッショナル研究論**」を開設します。本科目により医学・薬学・看護学領域のプロの研究者となるための必須のスキルを修得するとともに、臨床と基礎を横断した総合的な医療人材を育成します。医療の現場における上位職では、特定分野だけではなく様々な分野を俯瞰して理解した上でマネジメントを行うことが求められるため、高度な専門レベルでの複数分野を理解し、的確なリーダーシップを発揮できる能力を育成します。



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

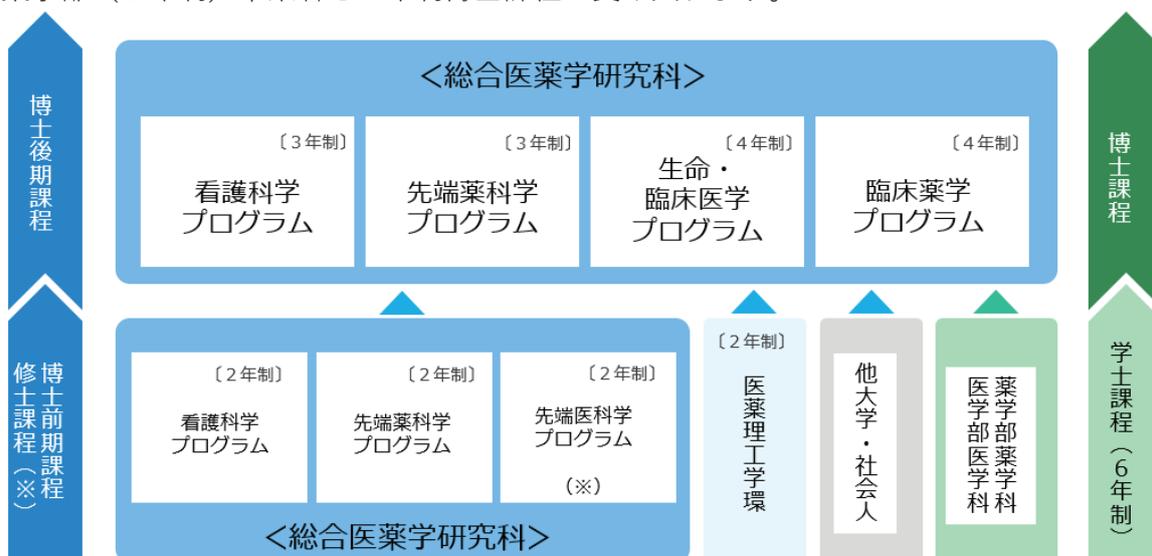
社会人のオンライン教育

社会人大学院生の学修機会の確保として、オンデマンド教育やオンライン教育を充実させます。



学部・修士課程との接続

総合医薬学研究科（博士前期課程・修士課程）の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。また、本学の医薬理工系大学院修士課程である「医薬理工学環」修了生も一部受け入れ、他分野指導体制を実施します。さらに、医学部及び薬学部（6年制）卒業生を4年制博士課程に受け入れます。



入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料（年額）
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学杉谷キャンパス
（富山県富山市杉谷2630）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院博士課程（主に理系大学院）に関するアンケート結果

■ 調査の概要

(1) 調査の対象

過去に採用実績のある企業等 513 社・機関

(2) 調査の方法

上記対象企業等に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。
またアンケートはウェブ上で実施した。

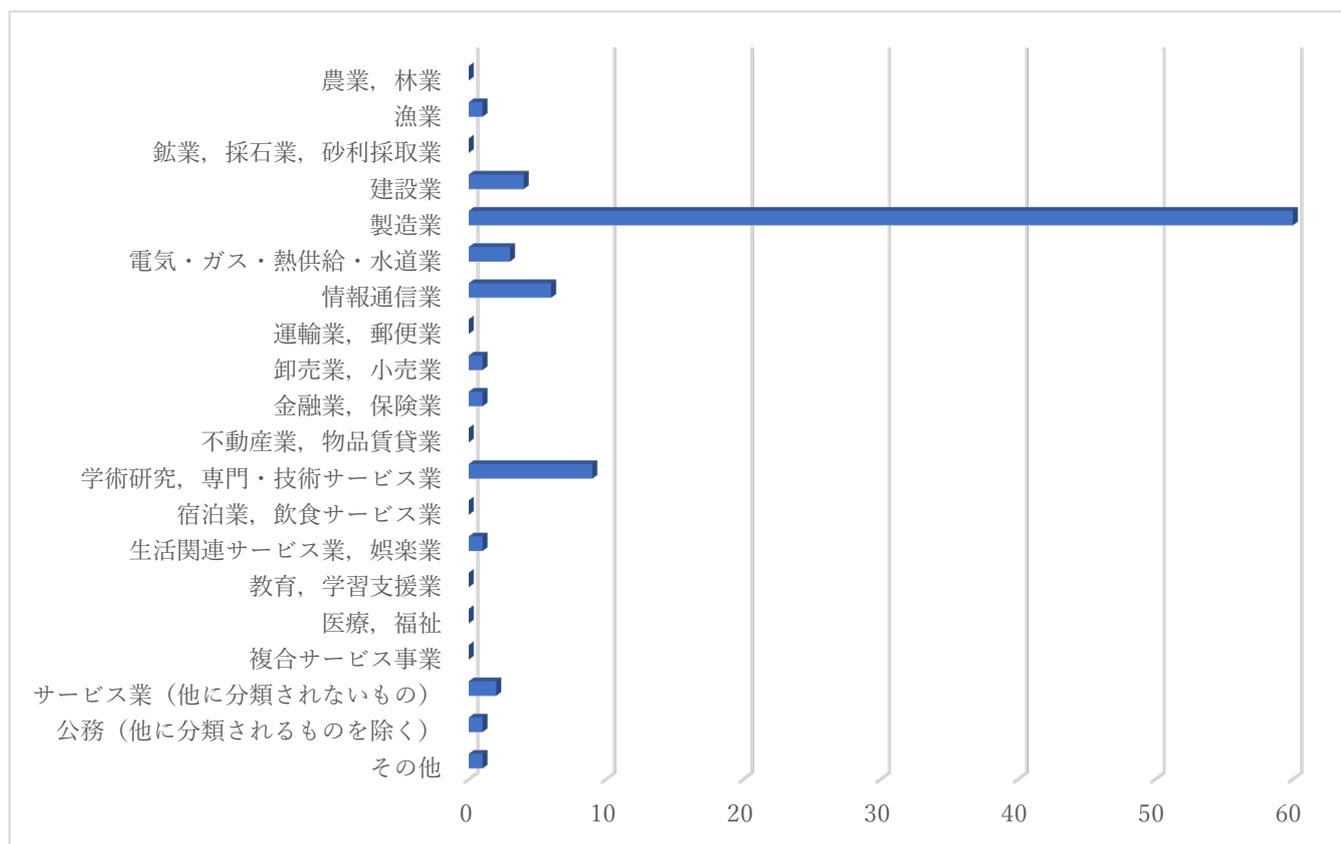
(3) 回答数

90 社

(4) 調査期間

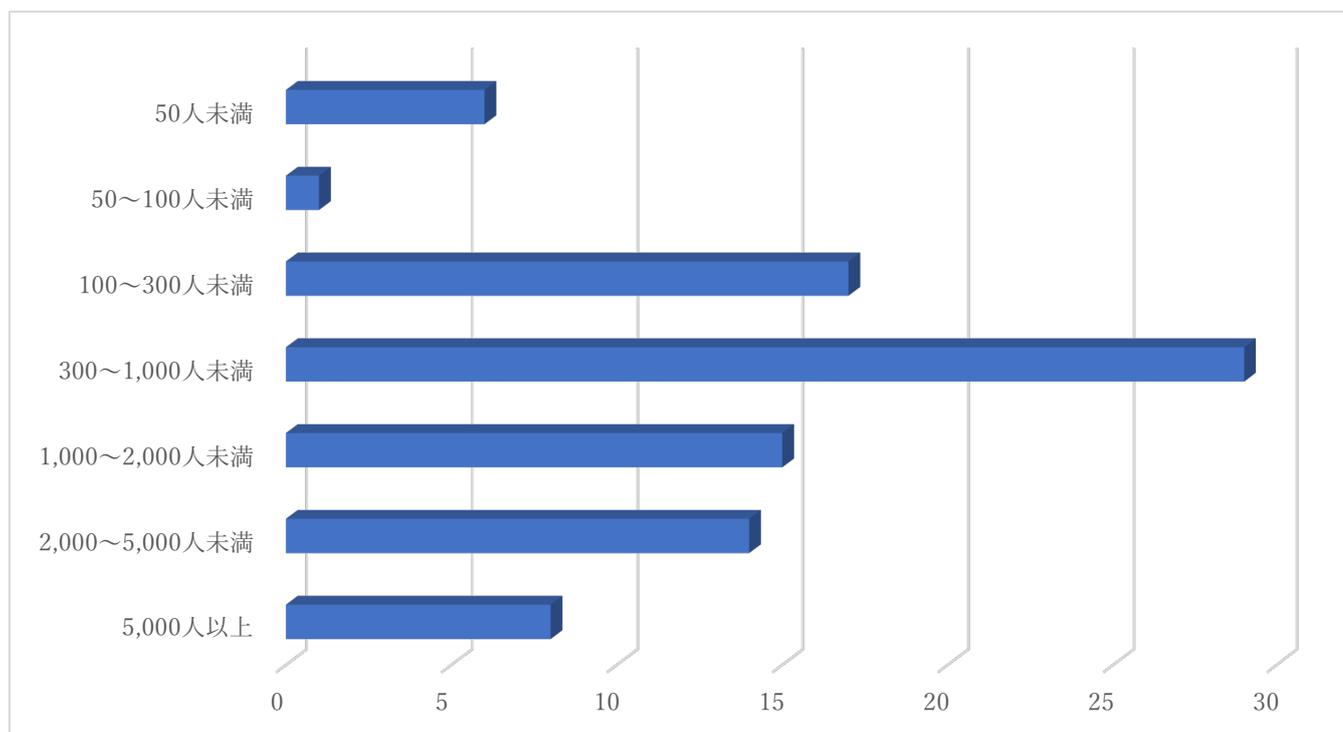
令和 4 年 1 1 月 7 日（月）～令和 5 年 1 月 2 0 日（金）

問1 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを選んでください（主たるものをひとつ）。※以下の分類は、日本標準産業分類（総務省）による分類です。



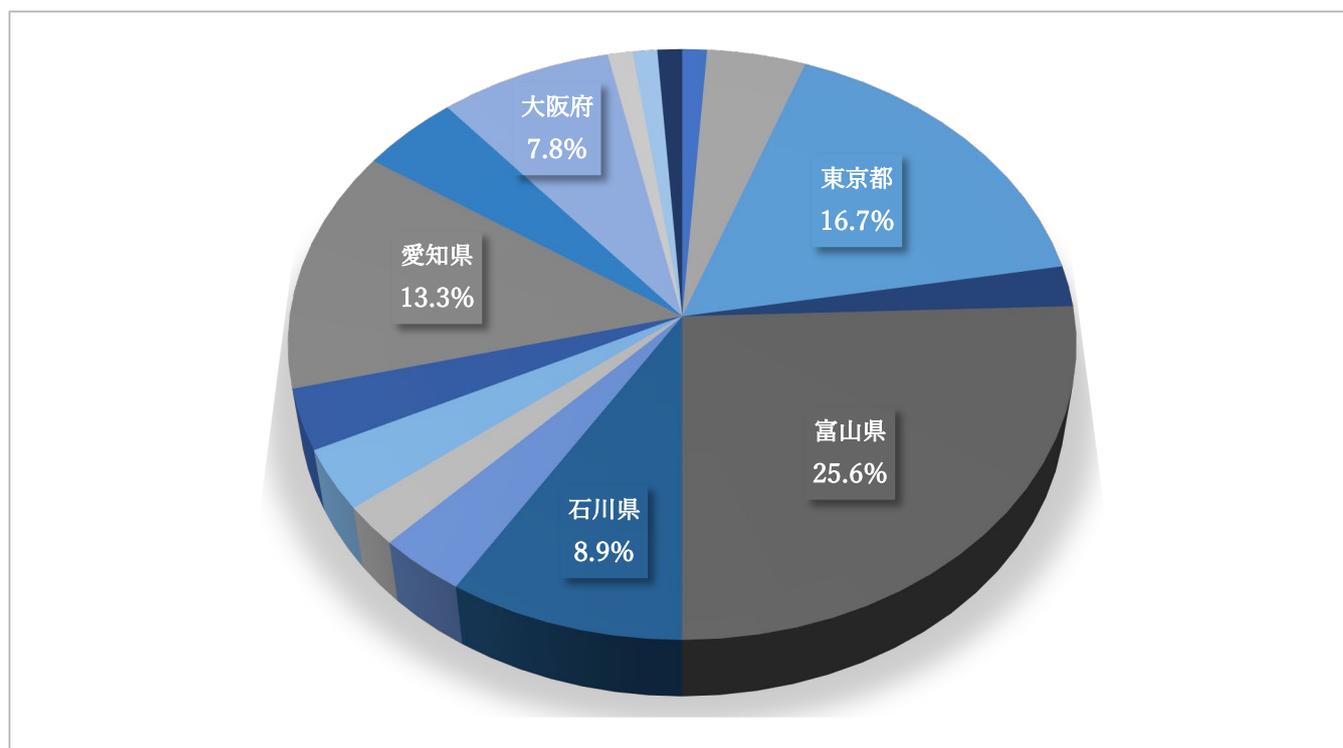
選択肢	回答数	割合
農業，林業	0	0.0%
漁業	1	1.1%
鉱業，採石業，砂利採取業	0	0.0%
建設業	4	4.4%
製造業	60	66.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	3	3.3%
情報通信業	6	6.7%
運輸業，郵便業	0	0.0%
卸売業，小売業	1	1.1%
金融業，保険業	1	1.1%
不動産業，物品賃貸業	0	0.0%
学術研究，専門・技術サービス業	9	10.0%
宿泊業，飲食サービス業	0	0.0%
生活関連サービス業，娯楽業	1	1.1%
教育，学習支援業	0	0.0%
医療，福祉	0	0.0%
複合サービス事業	0	0.0%
サービス業（他に分類されないもの）	2	2.2%
公務（他に分類されるものを除く）	1	1.1%
その他	1	1.1%

問2 貴社の従業員数について、該当するものを選んでください。



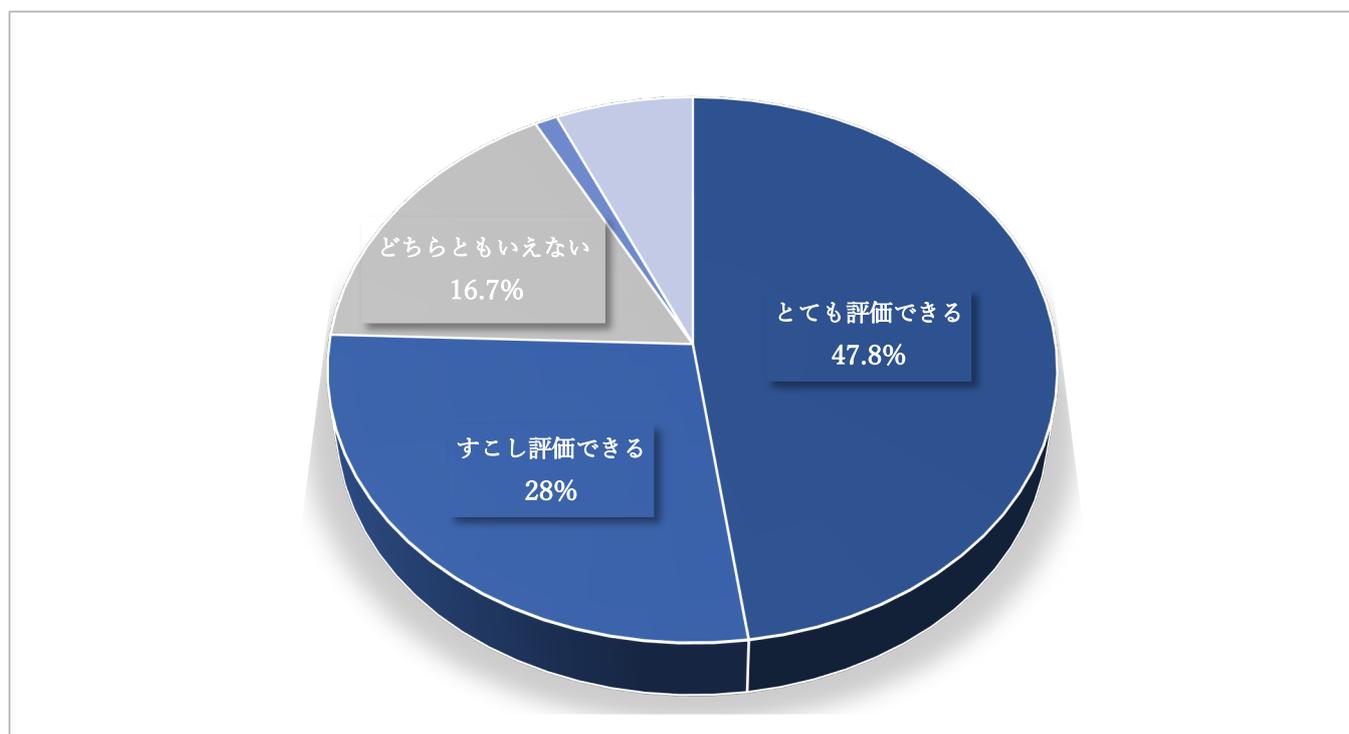
選択肢	回答数	割合
50人未満	6	6.7%
50~100人未満	1	1.1%
100~300人未満	17	18.9%
300~1,000人未満	29	32.2%
1,000~2,000人未満	15	16.7%
2,000~5,000人未満	14	15.6%
5,000人以上	8	8.9%

問3 貴社の所在地を都道府県で記載してください。貴社が事業所ごとの採用を行っており、事業所において本調査に回答される場合は、当該事業所の所在地を都道府県で記載してください。



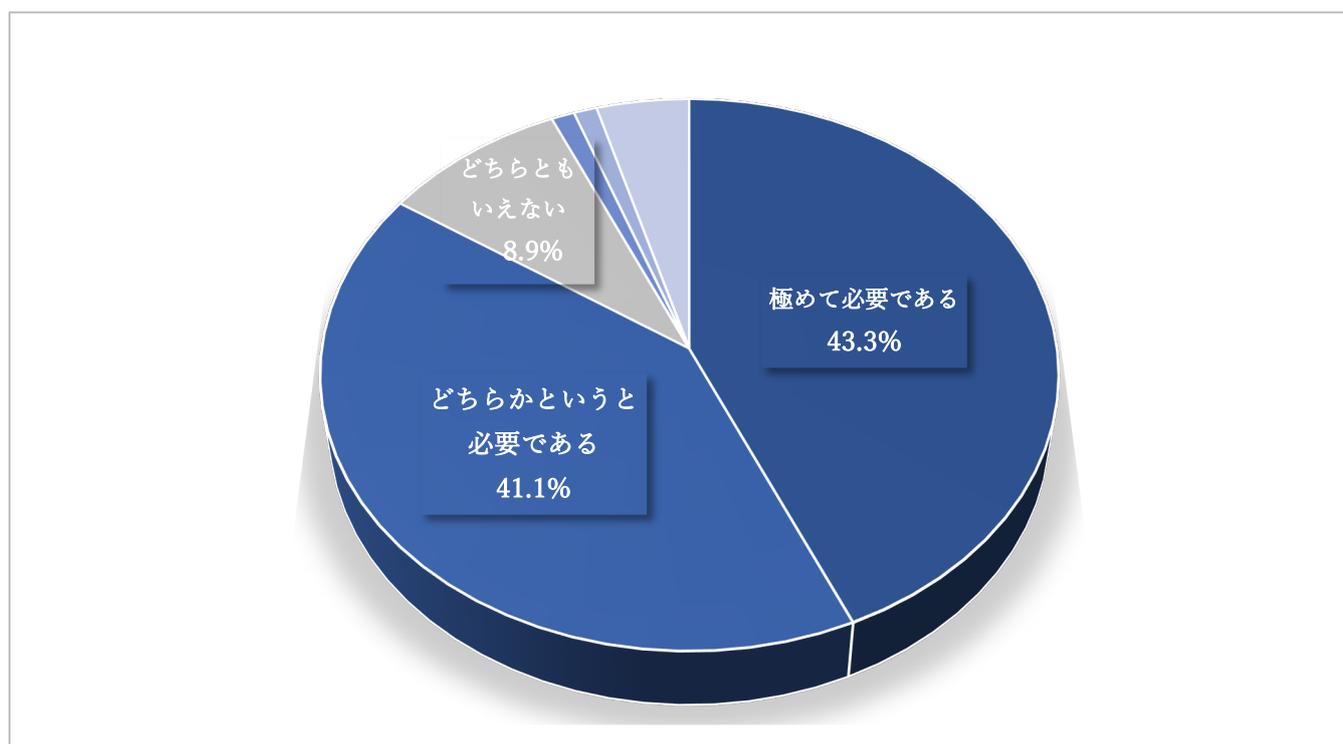
自由記述	回答数	割合
茨城県	1	1.1%
埼玉県	4	4.4%
東京都	15	16.7%
神奈川県	2	2.2%
富山県	23	25.6%
石川県	8	8.9%
福井県	3	3.3%
長野県	2	2.2%
岐阜県	3	3.3%
静岡県	3	3.3%
愛知県	12	13.3%
京都府	4	4.4%
大阪府	7	7.8%
兵庫県	1	1.1%
和歌山県	1	1.1%
熊本県	1	1.1%

問4 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



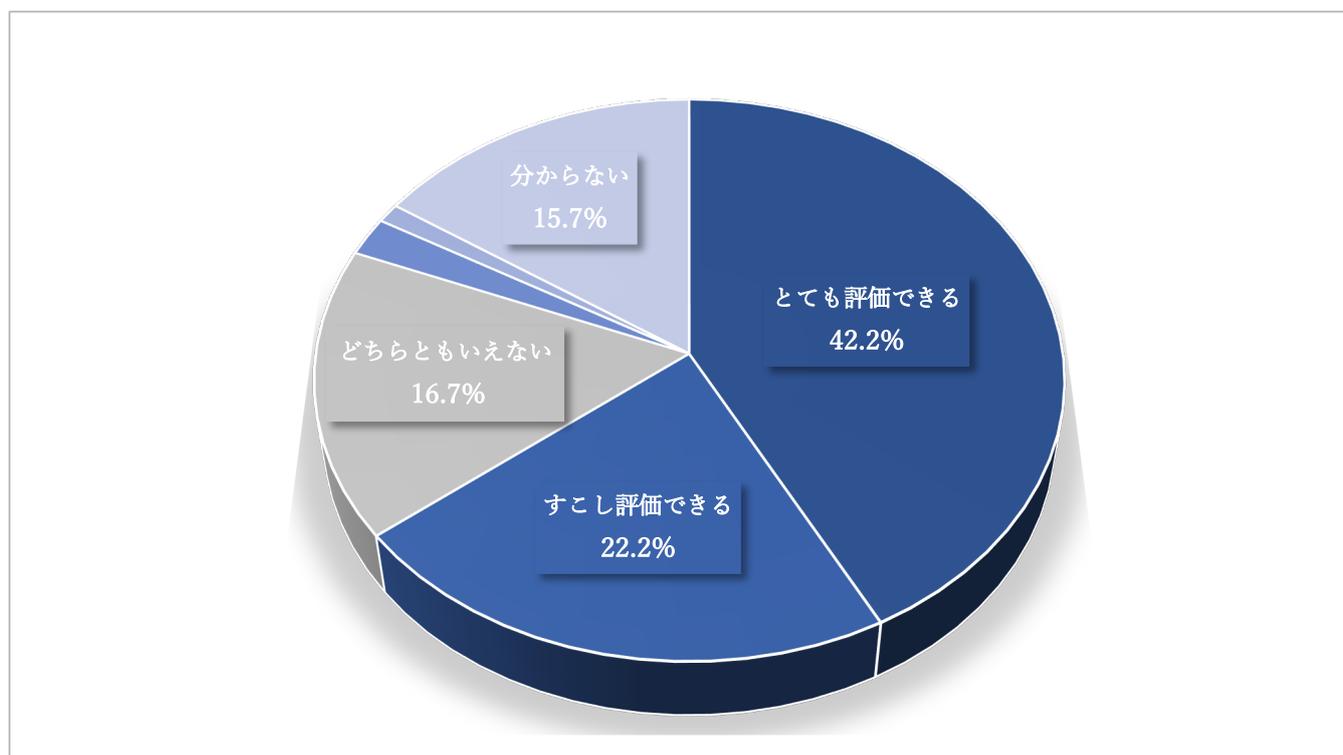
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	43	47.8%
すこし評価できる	25	27.8%
どちらともいえない	15	16.7%
あまり評価できない	1	1.1%
まったく評価できない	0	0.0%
分からない	6	6.7%

問5 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。



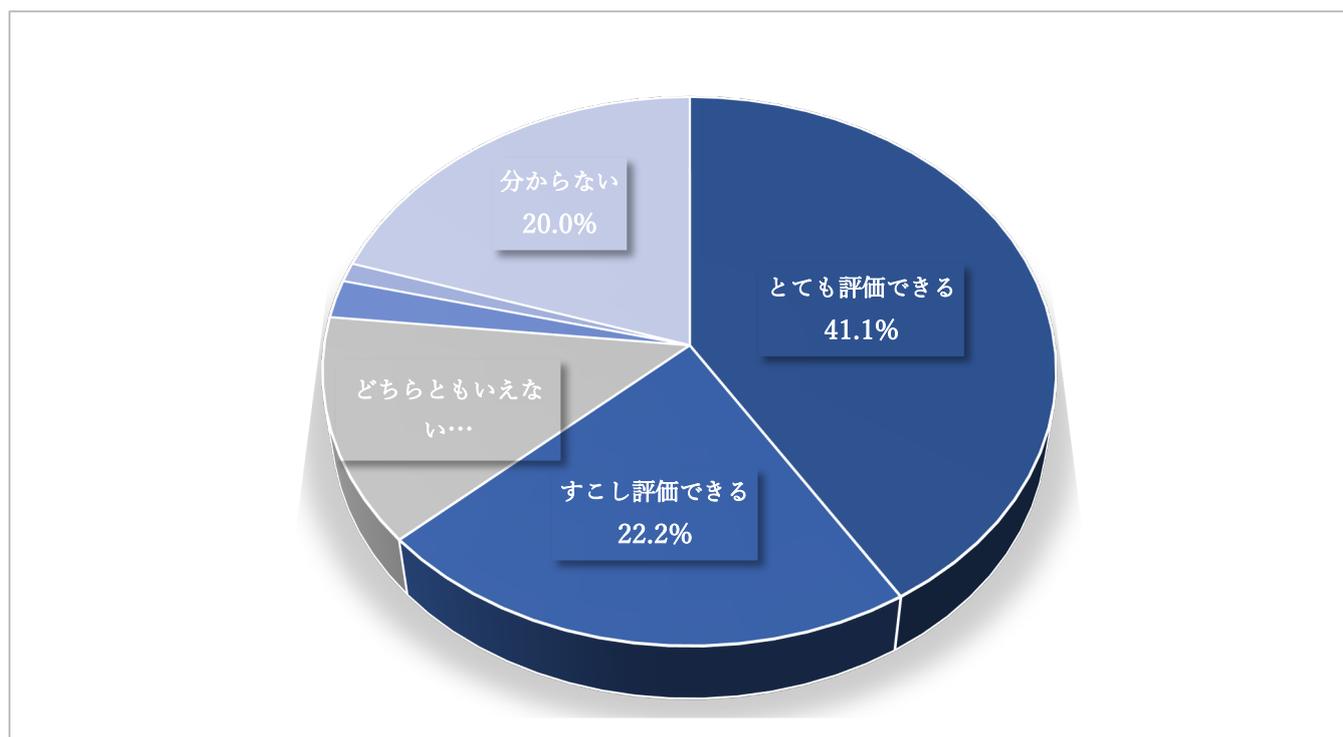
選択肢	回答数	割合
極めて必要である	39	43.3%
どちらかという必要である	37	41.1%
どちらともいえない	8	8.9%
あまり必要でない	1	1.1%
まったく必要でない	1	1.1%
分からない	4	4.4%

問6 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



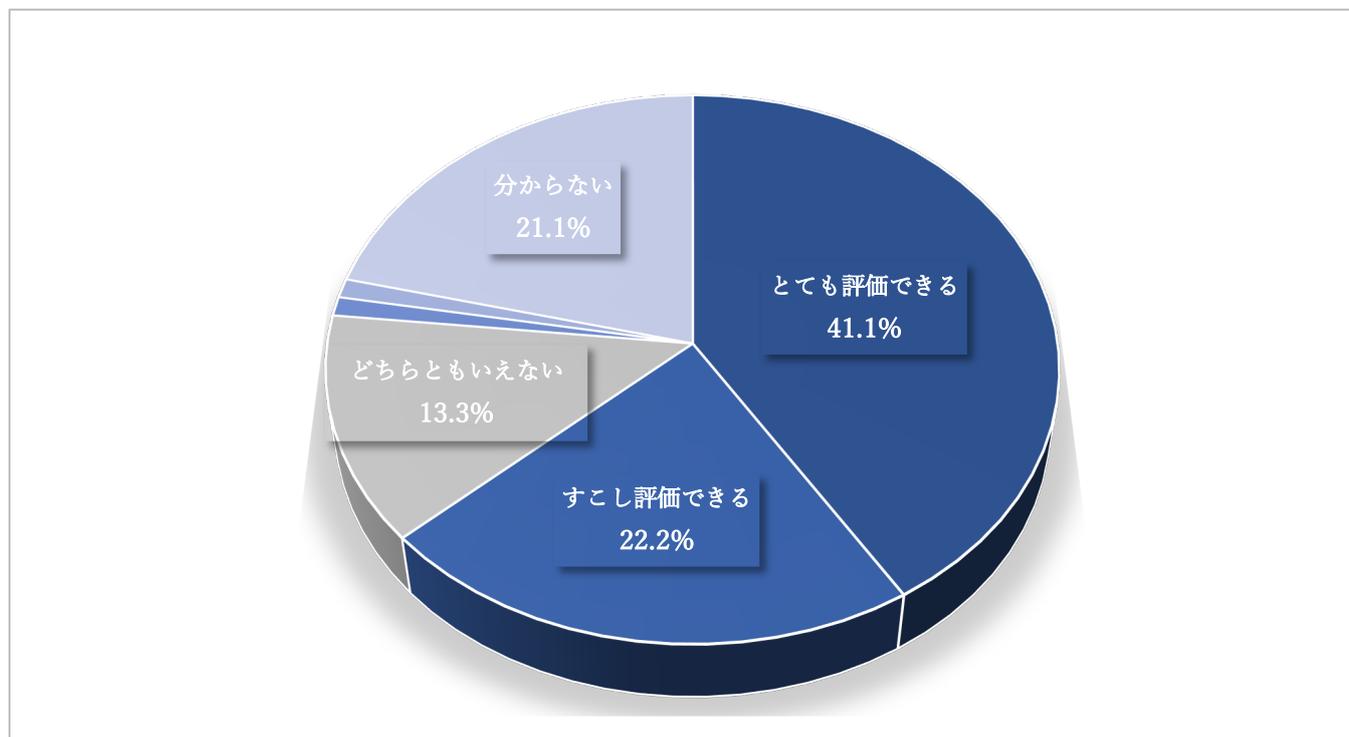
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	38	42.2%
すこし評価できる	20	22.2%
どちらともいえない	15	16.7%
あまり評価できない	2	2.2%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	14	15.6%

問7 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



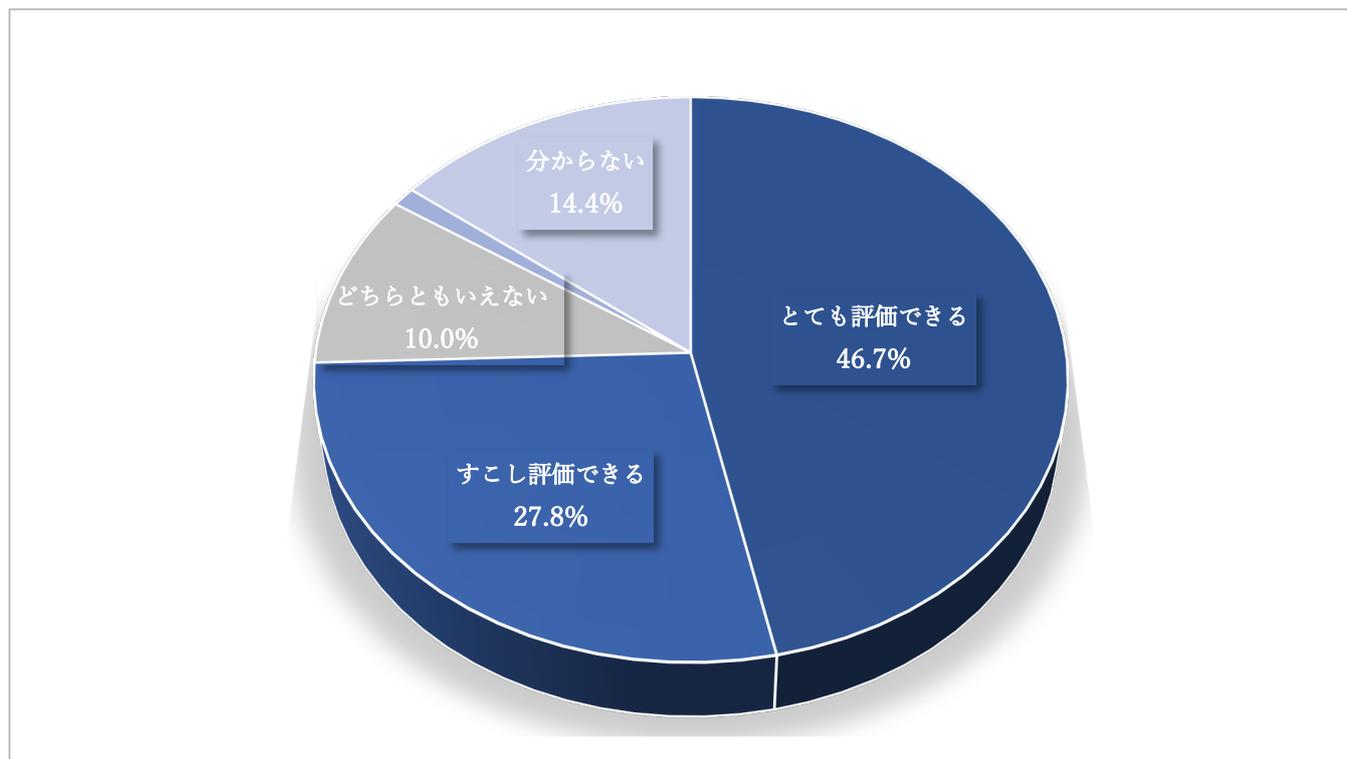
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	37	41.1%
すこし評価できる	20	22.2%
どちらともいえない	12	13.3%
あまり評価できない	2	2.2%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	18	20.0%

問8 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。



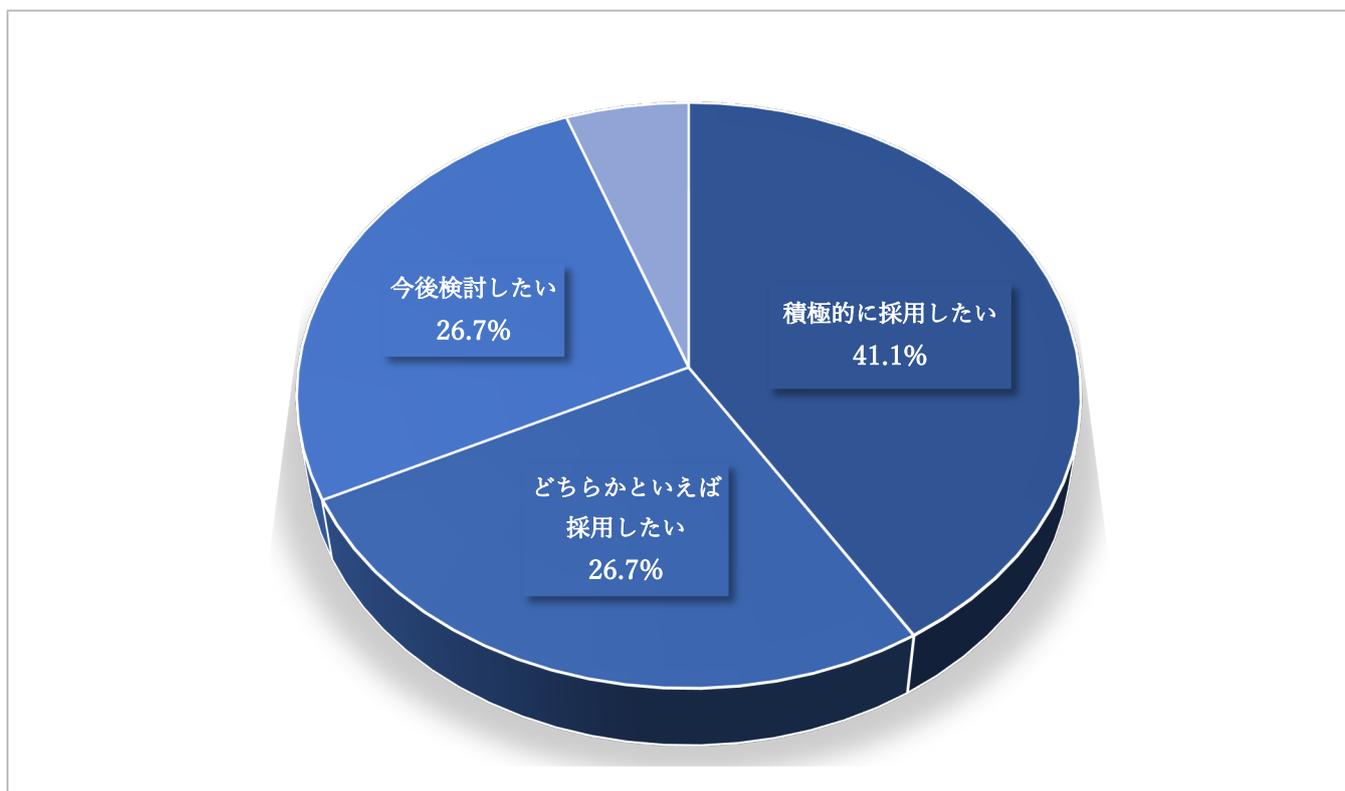
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	37	41.1%
すこし評価できる	20	22.2%
どちらともいえない	12	13.3%
あまり評価できない	1	1.1%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	19	21.1%

問9 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますがこの取り組みは評価できますか。



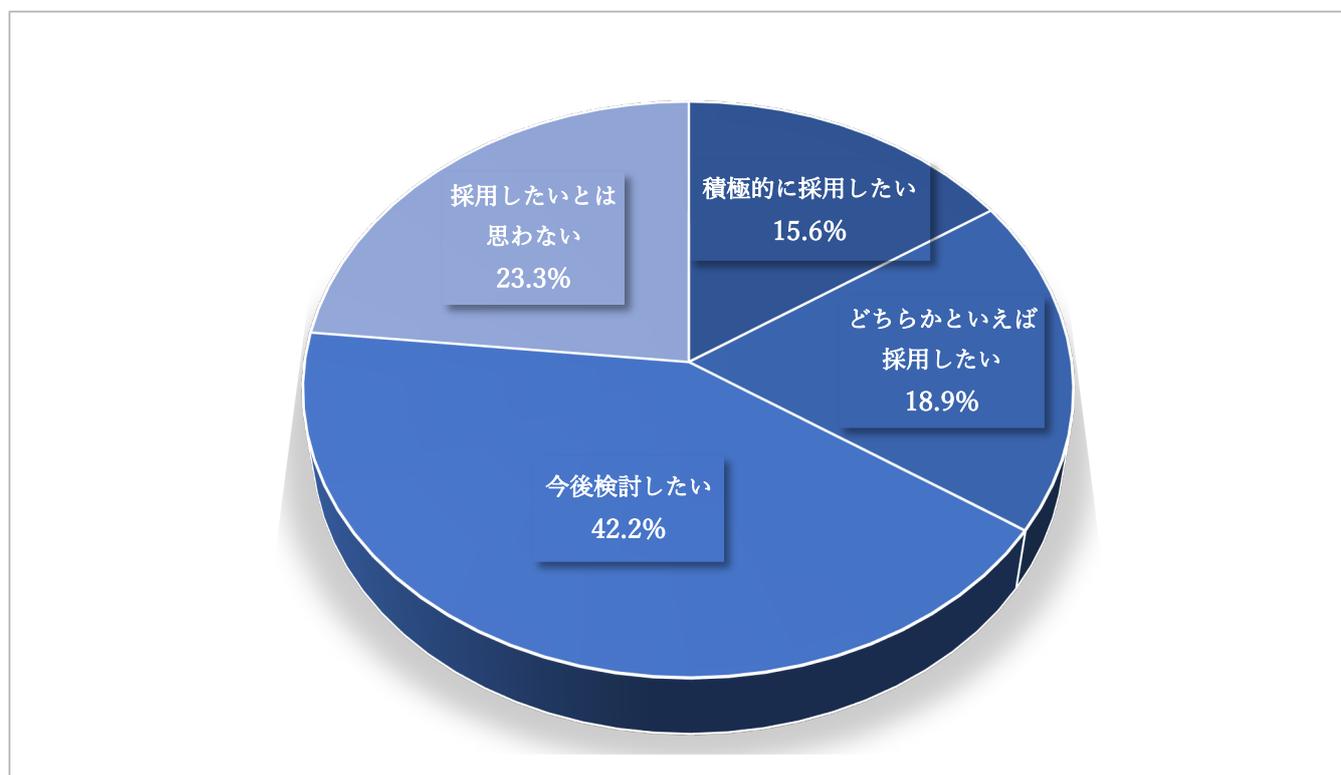
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	42	46.7%
すこし評価できる	25	27.8%
どちらともいえない	9	10.0%
あまり評価できない	0	0.0%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	13	14.4%

問 10 大学院理工学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。



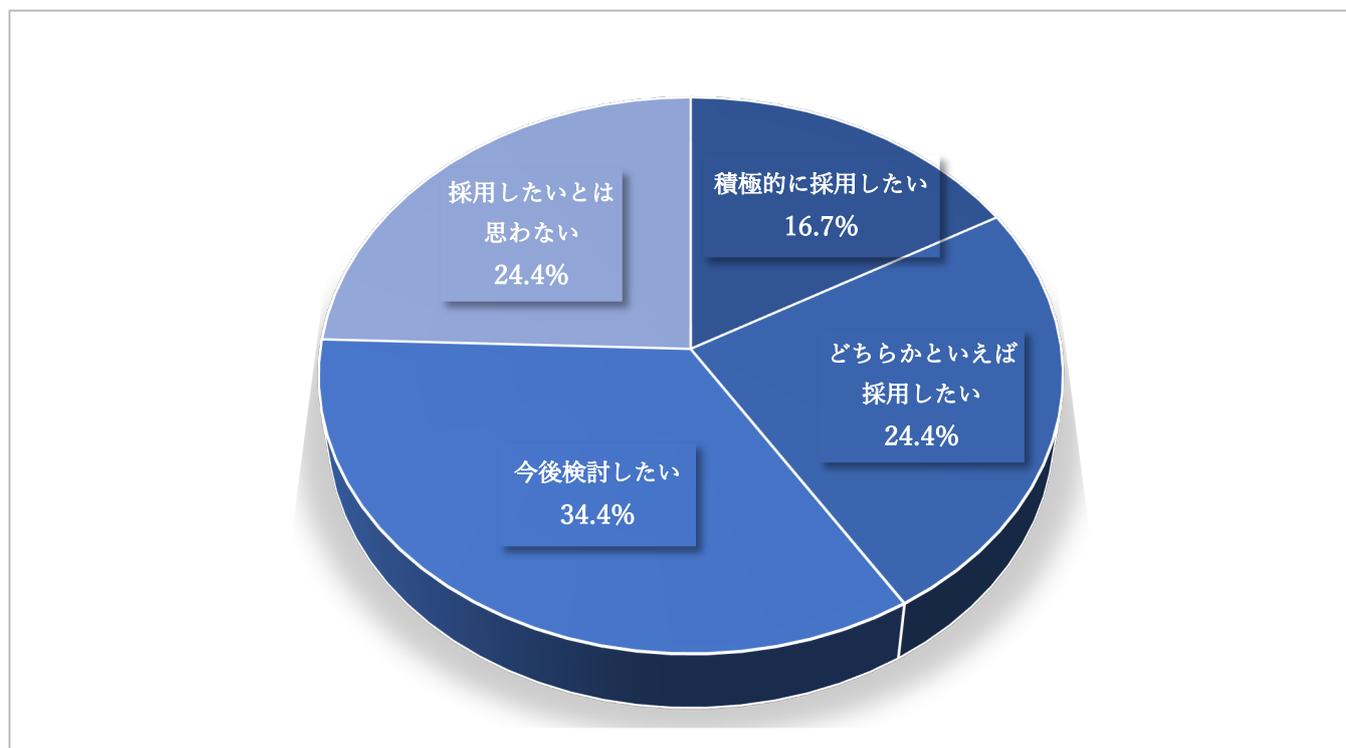
選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	37	41.1%
どちらかといえば採用したい	24	26.7%
今後検討したい	24	26.7%
採用したいとは思わない	5	5.6%

問 11 大学院総合医薬学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。



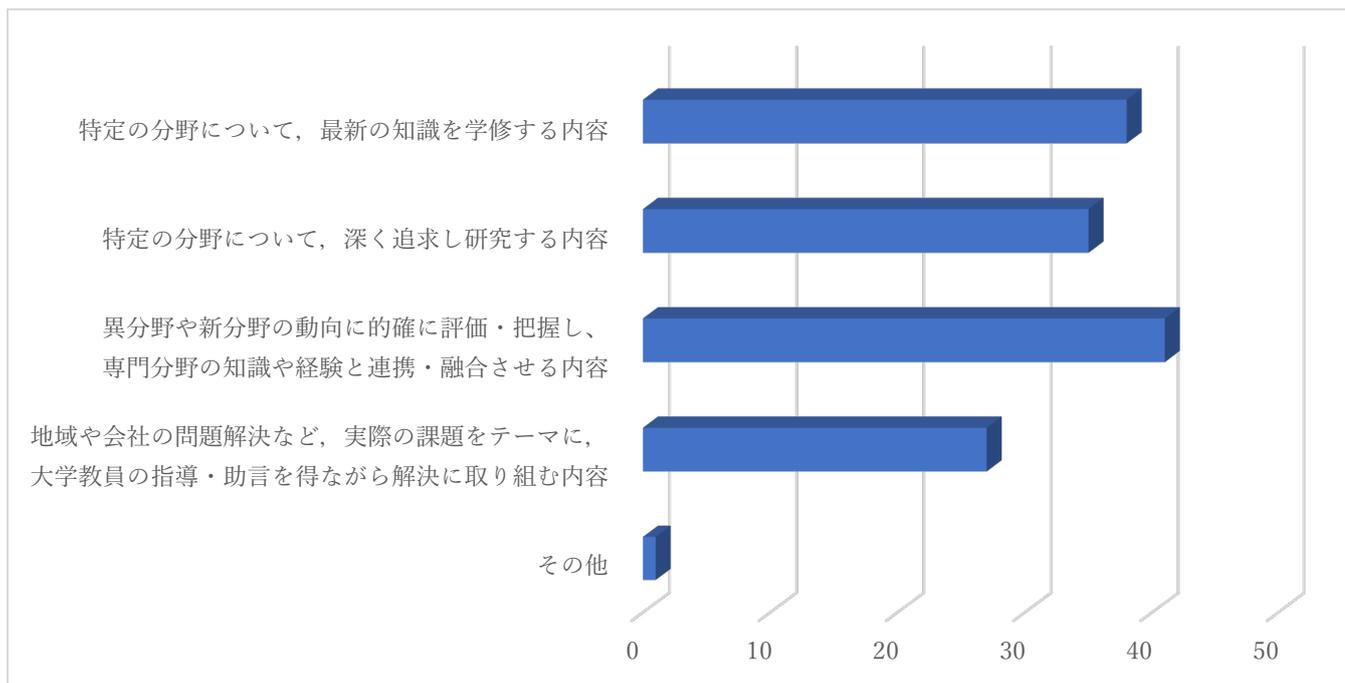
選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	14	15.6%
どちらかといえば採用したい	17	18.9%
今後検討したい	38	42.2%
採用したいとは思わない	21	23.3%

問 12 大学院医薬理工学環を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。



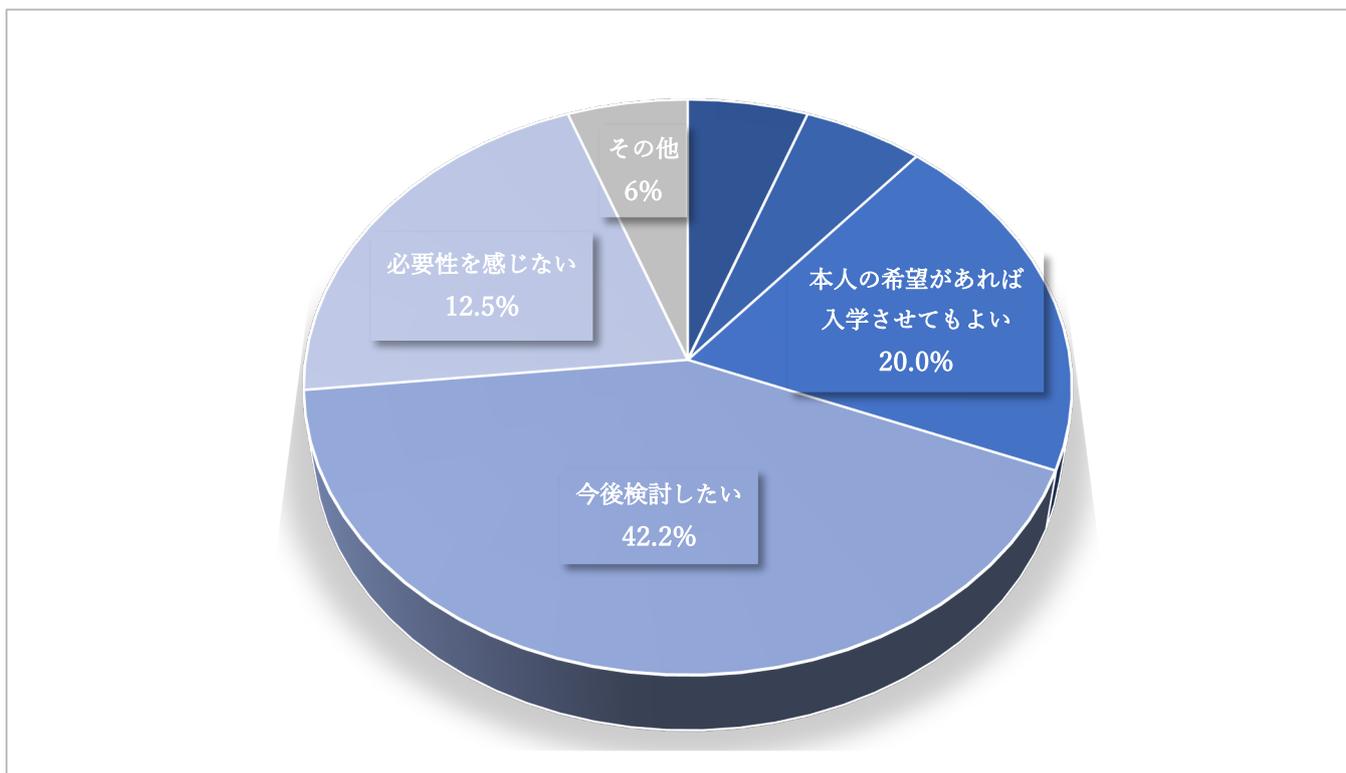
選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	15	16.7%
どちらかといえば採用したい	22	24.4%
今後検討したい	31	34.4%
採用したいとは思わない	22	24.4%

問 13 10.~12.で、「積極的に採用したい」「どちらかといえば採用したい」「今後検討したい」と回答した方に伺います。大学院博士課程へ社員・職員を入学させる場合、大学にどのような教育内容を求めますか（複数回答可）。



選択肢	回答数	割合
特定の分野について、最新の知識を学修する内容	38	58.5%
特定の分野について、深く追求し研究する内容	35	53.8%
異分野や新分野の動向に的確に評価・把握し、専門分野の知識や経験と連携・融合させる内容	41	63.1%
地域や会社の問題解決など、実際の課題をテーマに、大学教員の指導・助言を得ながら解決に取り組む内容	27	41.5%
その他	1	1.5%

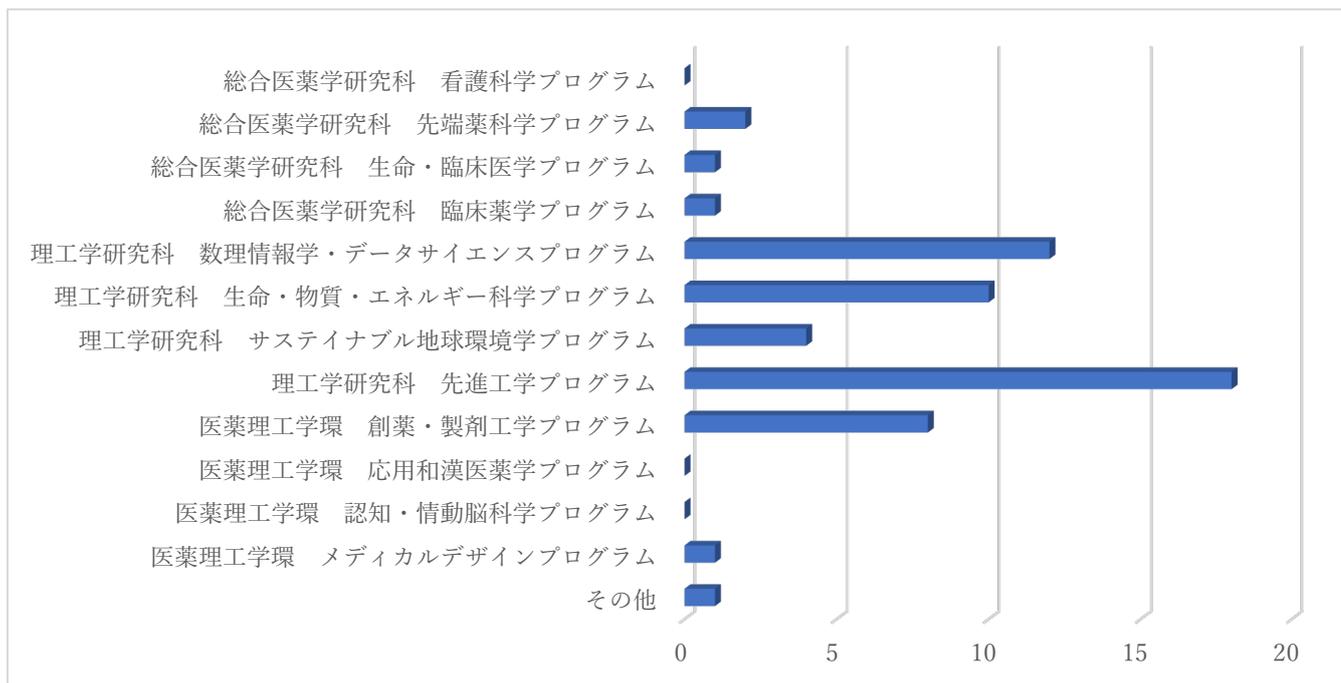
問 14 リカレント教育として貴社の社員・職員を大学院博士課程に入学させたいですか。



選択肢	回答数	割合
ぜひ入学させたい	5	5.6%
どちらかといえば入学させたい	5	5.6%
本人の希望があれば入学させてもよい	18	20.0%
今後検討したい	38	42.2%
必要を感じない	19	21.1%
その他	5	5.6%

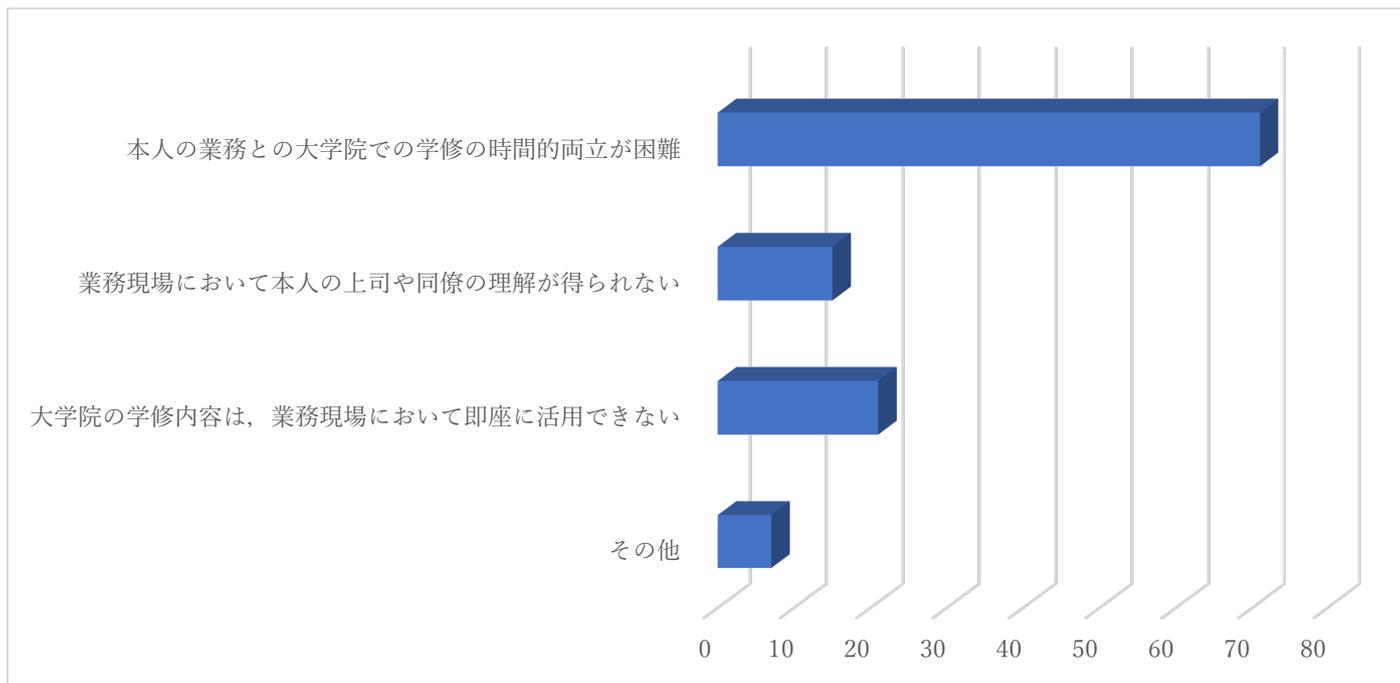
問 15 「ぜひ入学させたい」「どちらかといえば入学させたい」「本人の希望があれば入学させてもよい」「今後検討したい」と回答した方についてお答えください。

どのプログラムに貴社の社員・職員を大学院に入学させたいですか。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	2	3.4%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	1	1.7%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	1	1.7%
理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム	12	20.7%
理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム	10	17.2%
理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム	4	6.9%
理工学研究科 先進工学プログラム	18	31.0%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	8	13.8%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	1	1.7%
その他	1	1.7%

問 16 貴社にとって社員・職員の大学院入学に関して障害と考えられることはどのようなことですか（複数回答可）。



選択肢	回答数	割合
本人の業務との大学院での学修の時間的両立が困難	71	79.8%
業務現場において本人の上司や同僚の理解が得られない	15	16.9%
大学院の学修内容は、業務現場において即座に活用できない	21	23.6%
その他	7	7.9%

問 17 最後に、富山大学大学院の改組構想に関しまして、全体を通じてご意見がございましたらお聞かせください。

- ・改組に関しては博打的側面が大きく、実施してみないとわからないことが多いため、構想段階で評価することは難しいですが、激動の時代を生き抜く次代のリーダーを育成することは必須とされます。大学がタコソボから脱しよう？様々な試みに取り組んでいらっしゃることはよくわかり、評価できます。
- ・改組構想は評価できます。残念ながら当社の事業における求める人材とは合致しないため採用は難しいと考えます。
- ・工学科の場合もそうですが、〇〇コースや〇〇専攻まで確認しないと、学生の専門分野が分かり辛くなっているように感じます。
- ・大学院は「研究」色が強いが、製造系一般企業では「開発」力が求められるので、応用力のある人材育成プログラムをお願い致します。
- ・より幅広い分野を総合的に学ぶことができる取り組みは、とても良いと考えます。
- ・理工学研究科の博士前期、後期課程とも教育内容のイメージが湧きづらい課程名のように感じます。

富山大学大学院博士課程（主に理系大学院）に関するアンケート

このアンケートは、改組予定の富山大学大学院の修了者に関する社会的ニーズを把握し、今後の改組準備に役立てるために実施するものです。調査結果は、本学の大学院教育の改革に活用していくものになりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

なお、いただいた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。

* 必須

1. 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを選んでください（主たるものをひとつ）。

※以下の分類は、日本標準産業分類（総務省）による分類です。*

- 農業，林業
- 漁業
- 鉱業，採石業，砂利採取業
- 建設業
- 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 情報通信業
- 運輸業，郵便業
- 卸売業，小売業
- 金融業，保険業
- 不動産業，物品賃貸業
- 学術研究，専門・技術サービス業
- 宿泊業，飲食サービス業
- 生活関連サービス業，娯楽業
- 教育，学習支援業
- 医療，福祉
- 複合サービス事業
- サービス業（他に分類されないもの）
- 公務（他に分類されるものを除く）
- その他

2. 貴社の従業員数について、該当するものを選んでください。*

- 50人未満
- 50～100人未満
- 100～300人未満
- 300～1,000人未満
- 1,000～2,000人未満
- 2,000～5,000人未満
- 5,000人以上

3. 貴社の所在地を都道府県で記載してください。

貴社が事業所ごとの採用を行っており、事業所において本調査に回答される場合は、当該事業所の所在地を都道府県で記載してください。

*

大変お手数ですが、以降の設問は、別途添付している「富山大学大学院の改組構想」をご覧ください。

※別添の「富山大学大学院の改組構想」は、以下のURLからもご覧いただけます。

総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/sougouiyakugaku.pdf>

理工学研究科 理工学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/rikou.pdf>

医薬理工学環

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/iyakurikou.pdf>

4. 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

5. 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。

*

- 極めて必要である
- どちらかという必要である
- どちらともいえない
- あまり必要でない
- まったく必要でない
- 分からない

6. 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

7. 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。

*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

8. 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。 *

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

9. 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますがこの取り組みは評価できますか。

*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

10. 大学院理工学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。 *

- 積極的に採用したい
- どちらかといえば採用したい
- 今後検討したい
- 採用したいとは思わない

11. 大学院総合医薬学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。 *

- 積極的に採用したい
- どちらかといえば採用したい
- 今後検討したい
- 採用したいとは思わない

12. 大学院医薬理工学環を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。 *

- 積極的に採用したい
- どちらかといえば採用したい
- 今後検討したい
- 採用したいとは思わない

13. 10.~12.で、「積極的に採用したい」「どちらかといえば採用したい」「今後検討したい」と回答した方に伺います。大学院博士課程へ社員・職員を入学させる場合、大学にどのような教育内容を求めますか（複数回答可）。

- 特定の分野について、最新の知識を自ら学修・アップデートできる内容
- 特定の分野について深く追求し研究するとともに、将来性についての見識を持つ内容
- 異分野や新分野の動向に的確に評価・把握し、専門分野の知識や経験と連携・融合させる内容
- 地域や会社の問題解決など、実際の課題をテーマに、リーダーシップをとって解決に取り組む内容
- その他

14. リカレント教育として貴社の社員・職員を大学院博士課程に入学させたいですか。 *

- ぜひ入学させたい
- どちらかといえば入学させたい
- 本人の希望があれば入学させてもよい
- 今後検討したい
- 必要性を感じない
- その他

15. 「ぜひ入学させたい」「どちらかといえば入学させたい」「本人の希望があれば入学させてもよい」「今後検討したい」と回答した方についてお答えください。

どのプログラムに貴社の社員・職員を大学院に入学させたいですか。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム
- 理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム
- 理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム
- 理工学研究科 先進工学プログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム
- その他

16. 貴社にとって社員・職員の大学院入学に関して障害と考えられることはどのようなことですか（複数回答可）。*

- 本人の業務との大学院での学修の時間的両立が困難
- 業務現場において本人の上司や同僚の理解が得られない
- 大学院の学修内容は、業務現場において即座に活用できない
- その他

17. 最後に、富山大学大学院の改組構想に関しまして、全体を通じてご意見がございましたらお聞かせください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。



富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

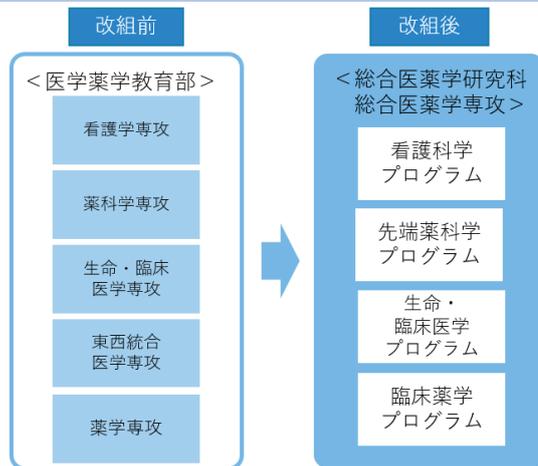
総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

2024年4月から、医学薬学教育部から総合医薬学研究科に改組する予定です

総合医薬学研究科の概要

医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）は、5専攻（看護学専攻、薬科学専攻、生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻、薬学専攻）を再編し、1専攻4プログラムからなる総合医薬学研究科に改組します。

1専攻4プログラムへの再編により、医療に関する実践的な多職種連携・協働とイノベーションにつながる包括的な医療的素養を身に付けさせる環境を整備し、医薬融合を更に高いレベルにて実践し、基礎医薬学と臨床医薬学の環流の飛躍的に推進することを見込んでいます。高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ高度な医師、薬剤師、看護職、医薬学研究者などを育成することが可能となります。



養成する人材像 ※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

看護科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（看護学）	募集人員：3人
<p>【養成する人材像】</p> <p>「基礎看護科学分野」「臨床・生体機能看護科学分野」「地域ケアシステム看護科学分野」の3分野を設け、看護科学における幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を行う。看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>看護職(保健師・助産師・看護師) 指導者(基幹・地域病院、保健所等行政機関) 看護教育・研究者(大学・短大等看護職養成機関)</p>	
先端薬科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（薬科学）	募集人員：6人
<p>【養成する人材像】</p> <p>薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>企業(製薬企業創薬研究者、化学メーカー研究者) 大学教員(薬学研究者、生命科学研究者) 治験関連(臨床開発研究者)</p>	
生命・臨床医学プログラム（博士課程）	学位：博士（医学）	募集人員：30人
<p>【養成する人材像】</p> <p>疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>医師(病院、行政機関) 教員・研究者(大学、研究所等) 企業(創薬開発) 治験関連</p>	
臨床薬学プログラム（博士課程）	学位：博士（薬学）	募集人員：4人
<p>【養成する人材像】</p> <p>臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>薬剤師(大学病院薬学部、認定薬局、行政機関) 大学教員・研究者(大学、研究所等) 企業(医療研究開発、臨床研究実施)</p>	

カリキュラムの特徴

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

医学・薬学・看護学を統合した教育課程

本研究科は、医学部と薬学部、附属病院が同じキャンパスにある「地の利」を生かした医学・薬学・看護学を総合した特色ある教育課程とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成します。



研究科共通科目の開設

大学院博士課程レベルの研究科共通科目として「**医薬学プロフェッショナル研究論**」を開設します。本科目により医学・薬学・看護学領域のプロの研究者となるための必須のスキルを修得するとともに、臨床と基礎を横断した総合的な医療人材を育成します。医療の現場における上位職では、特定分野だけではなく様々な分野を俯瞰して理解した上でマネジメントを行うことが求められるため、高度な専門レベルでの複数分野を理解し、的確なリーダーシップを発揮できる能力を育成します。



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

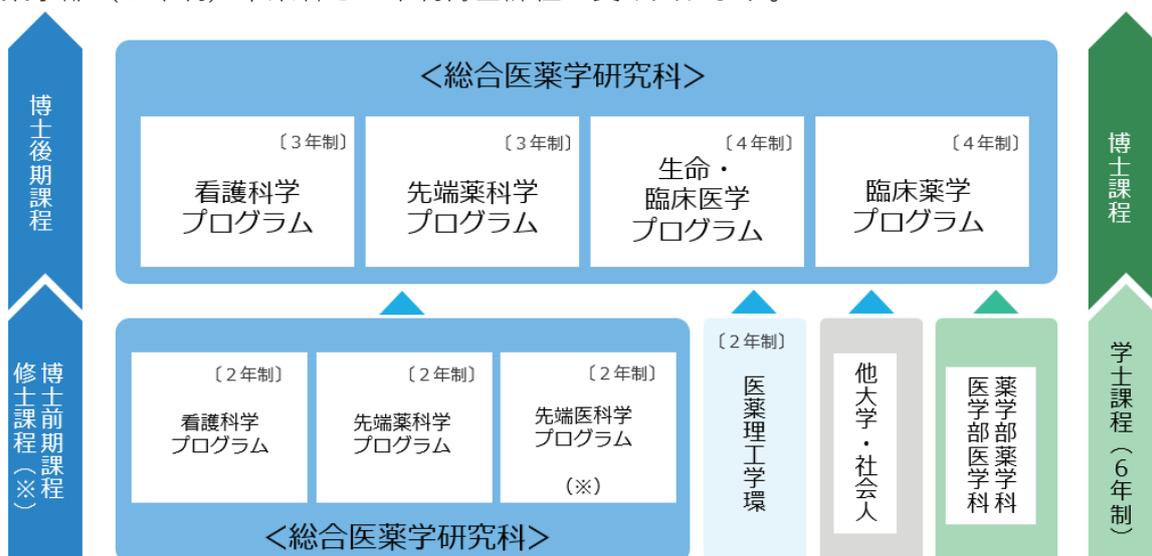
社会人のオンライン教育

社会人大学院生の学修機会の確保として、オンデマンド教育やオンライン教育を充実させます。



学部・修士課程との接続

総合医薬学研究科（博士前期課程・修士課程）の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。また、本学の医薬理工系大学院修士課程である「医薬理工学環」修了生も一部受け入れ、他分野指導体制を実施します。さらに、医学部及び薬学部（6年制）卒業生を4年制博士課程に受け入れます。



入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料（年額）
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学杉谷キャンパス
（富山県富山市杉谷2630）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

理工学研究科 理工学専攻（博士後期課程）

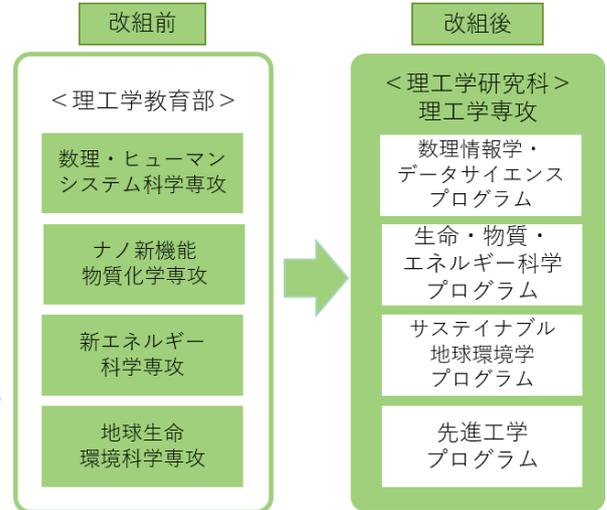
2024年4月に、理工学教育部から理工学研究科へ改組する予定です

理工学研究科の概要

理工学研究科は、理工学教育部（博士課程）の4専攻（数理・ヒューマンシステム科学専攻、ナノ新機能物質化学専攻、新エネルギー科学専攻、地球生命環境科学専攻）を、1専攻4プログラムに再編します。

近年、理工系人材には、イノベーションの創出のためのより高度かつ広範な能力が求められており、自身の専門分野だけでなく、幅広い分野横断的な知識と視野を持ち、**産業界においてもリーダーとして社会的に説明責任を果たしつつ技術革新を牽引できる理工系高度職業人や、基礎・応用において革新をもたらすような研究者**の養成が必要となっています。

本研究科では、上記のような人材を輩出するために、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化し、より高度な専門教育を行っていきます。



養成する人材像

<p>数理工学・データサイエンスプログラム</p> <p>【養成する人材像】 数学、情報学およびデータサイエンスに必要なプログラミングやコンピューター、AIについての素養を主に必要とする数理工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（数理工学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】 ・情報通信業 ・公務（数理工学系） ・大学、公的研究機関の数理工学分野の研究者</p>
<p>生命・物質・エネルギー科学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 理学と工学の分野にまたがって、生命、物質、エネルギーの各分野について、物理化学的観点から理解し、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（理工学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】 ・製造業（化学工業（有機化学工業、無機化学工業、医薬品製造業）、輸送機械器具製造業（自動車・同附属品製造業））、電気・ガス ・公務（理工系技術者・研究者） ・大学、公的研究機関の理工系研究者</p>
<p>サステナブル地球環境学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 地球科学、生物科学、環境科学の主たる学問分野を広く修得し、持続可能社会に貢献する高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（理学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】 ・製造業（食品品製造業、化学工業（環境安全に関わる管理業務））、農業 ・公務（理工系技術者・研究者） ・大学、公的研究機関の理工系研究者</p>
<p>先進工学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 機械工学、エレクトロニクス、ロボティクス、材料科学、社会基盤工学の工学分野の専門能力を身に付け、データを活用して、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（工学）</p> <p>募集人員：3人</p> <p>【修了後の進路】 ・製造業（鉄鋼業、非鉄金属製造業、電子部品、機械器具製造業（電子部品、電気機械、情報通信機械など））、建設業、運輸業・公務（理工系技術者・研究者） ・大学、公的研究機関の理工系研究者</p>

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

1専攻4学位プログラム

本研究科は、博士前期課程において、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化するとともに、学問領域の枠を超えた、新しい学問領域に対応した学位プログラムを編成しています。博士後期課程においては、博士前期課程からさらにプログラムを融合するとともに、**プログラムの枠を超えた研究指導**を行い、**専門の枠にとらわれない教育や研究**を推進します。

異分野間の複数指導体制

理工学の各分野の枠を超えて幅広い分野横断的な知識と視野を持った人材を養成するために、プログラムの枠を超えた異分野間の連携・融合を重視して、複数指導教員による研究指導を行います。主指導教員による指導に加えて、異分野の副指導教員からも指導を受けることにより、幅広い視野からの教育・研究指導を行います。



大学院共通科目、研究科共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士（後期）課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士（後期）課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

また、専門的能力を企業や教育現場で活用する能力を養うための科目「プレFD」、 「長期インターンシップ」を、理工学研究科博士後期課程の研究科共通科目として開設します。

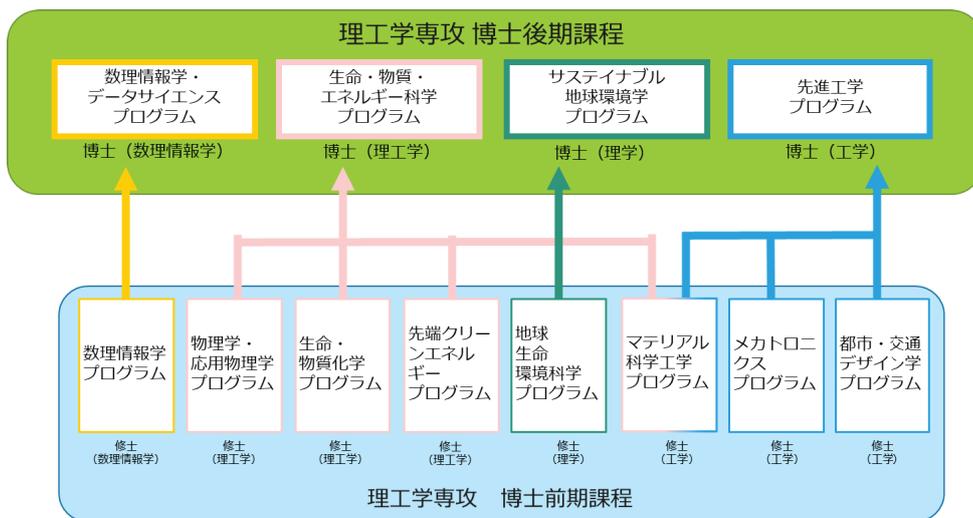
専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目

博士後期課程では専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目を開講します。プログラム専門科目では、各分野の最先端の研究に関する専門知識と実験技術を身に付けるとともに、専門知識や実験技術を統合・応用することで研究課題を解決する能力を育成することができます。



博士前期課程との接続

2022年4月に設置した本学理工学研究科博士前期課程の8プログラムの修了生を博士後期課程の4プログラムに受け入れ、博士前期・後期課程で一貫した教育内容を提供する5年一貫型教育体制を構築し、博士前期課程よりもさらに分野融合的で高度な教育を実施します。また、本学持続可能社会創成学環からの関連の深いプログラム（数理情報学・データサイエンスP, サステイナブル地球環境学P）への進学を可能としています。



入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学五福キャンパス
（富山県富山市五福3190）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

医薬理工学環（博士後期課程）

2024年4月に、総合医薬学研究科と理工学研究科の係により医薬理工学環を設置します

医薬理工学環の概要

医薬理工学環は、総合医薬学研究科・理工学研究科の係により設置します。

本学環は、**医薬理工を横断した教員体制**を基盤とし、富山県における産業等の強み・特徴・課題である、**医薬品開発、和漢医薬学、脳科学、医療機器・福祉機器開発**など、創薬・ヘルスケア分野への貢献という、プログラム毎に出口を明確化した教育課程を構築し、各分野の高度人材の育成を目指します。



医学、薬学、理学及び工学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度専門職業人や教育研究者としての人材を育成します。

養成する人材像

創薬・製剤工学プログラム	学位：博士（薬科学） 募集人員：3人
<p>【養成する人材像】 創薬・製剤工学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医薬品開発・医薬品工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】 ・企業（製薬企業創薬、製剤開発、DDS研究開発者） ・大学教員・研究者</p>
応用和漢医薬学プログラム	学位：博士（薬科学） 募集人員：3人
<p>【養成する人材像】 応用和漢医薬学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、和漢医薬学・薬科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】 ・生薬を扱う製薬企業等の研究者等 ・大学教員・研究者 ・薬事審査官等の省庁機関職員</p>
認知・情動脳科学プログラム	学位：博士（神経科学） 募集人員：4人
<p>【養成する人材像】 認知・情動脳科学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、脳科学・神経科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】 ・脳神経科学研究分野人材（国内外教育研究機関） ・医薬研究開発人材（創薬、臨床治験、企業等）</p>
メディカルデザインプログラム	学位：博士（医工学） 募集人員：4人
<p>【養成する人材像】 メディカルデザインプログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医用・福祉工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】 ・ヘルスケア機器メーカーで機器を開発するエンジニア ・ヘルスケアサービス企業でサービスやビジネスモデルを開発するプランナー ・医用・福祉工学の研究・教育者</p>

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

設置構想中
予定であり、今後変更
する場合があります。

カリキュラムの特徴

横断的な学位論文研究の指導

学系を横断した3名以上の複数指導教員による研究指導体制を構築し、高い専門性ととも幅広い視野を備え、専門分野の枠にとられない独創性・創造性を持った人材を養成します。

分野横断的教育体制の構築

各プログラムの研究分野における先端研究の、高度かつ俯瞰的な企画・遂行能力を養成するため、以下の科目を開講します。

- ・プログラム別演習科目：学系を横断した複数指導教員により、学位論文研究に関わる演習を行う
- ・プログラム別実習科目：所属プログラムの諸課題を俯瞰的に解決する実験技術を、学系を超えた異分野での学内留学で養成する
- ・プログラム別講義科目：所属プログラムの先端課題を提示・解決できる専門知識を、学系を超えた講義体制で養成する



大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

学環共通科目の設定

異分野と連携・融合する能力や、学術研究の成果を社会実装に連結する能力を養うため、以下のような学環共通科目を設定します。

- ・先端研究企画演習(リサーチ・プロポーザル)：学生自身の専門とは異なる分野の研究を企画立案することで、新たな発想の創出やチームリーダーとしての資質向上を目指す
- ・研究インターンシップ(長期インターンによる企業・研究機関での開発・研究の実習を通して、大学院と社会の連結を実践)
- ・国際連携実習(学位論文研究に関連した海外研究機関での共同研究を実施)

本学博士前期課程との接続

令和4年4月に修士課程「医薬理工学環」を設置しており、本組織の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。(令和6年4月の博士後期課程設置時に、修士課程を博士前期課程に改めます。)

その他、本学の医薬理工系大学院である、「総合医薬学研究科」又は「理工学研究科」修了生及び他大学修了者、社会人も受け入れます。

博士後期課程

博士前期課程



入学科・授業料(2022年11月現在)

入学科	授業料
282,000円	535,800円

設置場所

富山大学五福キャンパス
(富山県富山市五福3190)
富山大学杉谷キャンパス
(富山県富山市杉谷2630)

(富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく)

■医学薬学教育部（博士課程／博士後期課程）及び生命融合科学教育部（博士課程）における過去5年間の入学志願状況

医学薬学教育部（博士課程／博士後期課程）

専攻名	種別	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	合計	5年間 平均	収容定員 充足率 (R4.5.1 現在)
看護学専攻	受験者数	3	4	3	2	3	15	3.0	222%
	合格者数	3	4	3	2	3	15	3.0	
	入学者数	3	4	3	2	3	15	3.0	
	入学定員	3	3	3	3	3			
薬科学専攻	受験者数	11	7	9	15	9	51	10.2	146%
	合格者数	11	7	9	15	9	51	10.2	
	入学者数	10	7	9	14	9	49	9.8	
	入学定員	8	8	8	8	8			
医学専攻 生命・臨床	受験者数	15	26	18	13	23	95	19.0	114%
	合格者数	15	26	18	13	20	92	18.4	
	入学者数	15	26	18	13	20	92	18.4	
	入学定員	18	18	18	18	18			
医学専攻 東西統合	受験者数	4	0	4	4	1	13	2.6	36%
	合格者数	4	0	4	4	1	13	2.6	
	入学者数	4	0	4	4	1	13	2.6	
	入学定員	7	7	7	7	7			
薬学専攻	受験者数	1	2	0	2	1	6	1.2	25%
	合格者数	1	2	0	2	1	6	1.2	
	入学者数	1	2	0	2	1	6	1.2	
	入学定員	4	4	4	4	4			
計	受験者数	34	39	34	36	37	180	36.0	101%
	合格者数	34	39	34	36	34	177	35.4	
	入学者数	33	39	34	35	34	175	35.0	
	入学定員	40	40	40	40	40			

生命融合科学教育部（博士課程）

専攻名	種別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	合計	5年間平均	収容定員充足率 (R4.5.1現在)
科学専攻 認知・情動脳	受験者数	8	7	6	6	7	34	6.8	75%
	合格者数	8	7	6	6	7	34	6.8	
	入学者数	7	7	6	5	7	32	6.4	
	入学定員	9	9	9	9	9			
ム科学専攻 生体情報システム	受験者数	2	2	3	1	0	8	1.6	33%
	合格者数	2	2	3	1	0	8	1.6	
	入学者数	2	2	3	1	0	8	1.6	
	入学定員	4	4	4	4	4			
科学専攻 先端ナノ・バイオ	受験者数	4	1	1	1	1	8	1.6	33%
	合格者数	4	1	1	1	1	8	1.6	
	入学者数	4	1	1	1	1	8	1.6	
	入学定員	4	4	4	4	4			
計	受験者数	14	10	10	8	8	50	10	58%
	合格者数	14	10	10	8	8	50	10	
	入学者数	13	10	10	7	8	48	9.6	
	入学定員	17	17	17	17	17			

■医学薬学教育部（博士課程／博士後期課程）及び生命融合科学教育部（博士課程）における過去5年間の学外からの入学者数

医学薬学教育部（博士課程／博士後期課程）

専攻名	種別	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	合計	5年間 平均
専攻 看護学	学外出身者	2	3	3	1	2	11	2.2
	うち留学生	0	0	0	0	0	0	0
	うち既卒・社会人	2	3	3	1	2	11	2.2
専攻 薬科学	学外出身者	5	2	2	4	2	15	3.0
	うち留学生	3	2	2	1	1	9	1.8
	うち既卒・社会人	2	0	0	3	1	6	1.2
医学専攻 生命・臨床	学外出身者	14	25	17	13	20	89	17.8
	うち留学生	3	10	4	2	4	23	4.6
	うち既卒・社会人	11	15	13	11	16	66	13.2
医学専攻 東西統合	学外出身者	3	0	4	4	1	12	2.4
	うち留学生	1	0	0	0	0	1	0.2
	うち既卒・社会人	2	0	4	4	1	11	2.2
薬学専攻	学外出身者	1	1	0	2	0	4	0.8
	うち留学生	0	0	0	1	0	1	0.2
	うち既卒・社会人	1	0	0	0	0	1	0.2
	うち他大学からの ストレート進学	0	1	0	1	0	2	0.4
合計	学外出身者	25	31	26	24	25	131	26.2
	うち留学生	7	12	6	4	5	34	6.8
	うち既卒・社会人	18	18	20	19	20	95	19.0
	うち他大学からの ストレート進学	0	1	0	1	0	2	0.4

生命融合科学教育部（博士課程）

専攻名	種別	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	合計	5年間 平均
科学専攻 認知・情動脳	学外出身者	5	7	4	4	6	26	5.2
	うち留学生	4	2	2	4	2	14	2.8
	うち既卒・社会人	1	5	2	0	4	12	2.4
テム科学専攻 生体情報シス	学外出身者	1	1	0	1	0	3	0.6
	うち留学生	1	1	0	0	0	2	0.4
	うち既卒・社会人	0	0	0	1	0	1	0.2
科学専攻 先端ナノ・バイオ	学外出身者	1	1	0	1	0	3	0.6
	うち留学生	1	1	0	1	0	3	0.6
	うち既卒・社会人	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	学外出身者	7	9	4	6	6	32	6.4
	うち留学生	6	4	2	5	2	19	3.8
	うち既卒・社会人	1	5	2	1	4	13	2.6

修了後の進路状況について (H29.3-R4.3)

教育部・専攻		修了者数	進路				
			教育, 学術 研究等	医療・福祉	製薬企業	製造業他	不明(帰国 等により詳細不明の者 を含む)
医学薬学教育部	看護学専攻	3	3	0	0	0	0
	薬科学専攻	48	16	10	8	9	5
	生命・臨床医学専攻	68	17	47	0	0	4
	東西統合医学専攻	13	2	10	0	0	1
	薬学専攻	10	3	3	2	2	0
生命融合科学教育部	認知・情動脳科学専攻	35	16	10	1	2	6
	先端・ナノバイオ科学専攻	10	5	0	0	3	2
	生体情報システム科学専攻	5	1	0	1	2	1
計		192	63(33%)	80(42%)	12(6%)	18(9%)	19(10%)

外国人留学生（博士課程・博士後期課程）における修了後の進路状況について（H29.3-R4.3）

教育部・専攻		修了者数	進路				
			教育, 学術 研究等	医療・福祉	製薬企業	製造業他	不明（帰国 等により詳 細不明の者 を含む）
医学薬学教育部	看護学専攻	0	0	0	0	0	0
	薬科学専攻	21	15	0	1	1	4
	生命・臨床医学専攻	12	7	2	0	0	3
	東西統合医学専攻	3	1	0	0	0	2
	薬学専攻	1	1	0	0	0	0
生命融合科学教育部	認知・情動脳科学専攻	17	8	3	1	0	5
	先端・ナノバイオ科学専攻	6	3	0	0	1	2
	生体情報システム科学専攻	2	1	0	0	0	1
計		62	36(58%)	5(8%)	2(3%)	2(3%)	17(27%)